

ばんえい

昭和54年度

DRAFT.RACE

NO. 10





競争心

男ひとは

勝負を好み 欲望を満し

勝負に挑み 男流を保つ

競争心のなす業か

勝者は舞 敗者は沈む

勝負の結尾

知るかのように

遅れたら 追つき

追ついたら 追越す

“競争心”

競走馬にもあるから

不思議だ！

目 次

会報の発刊に寄せて……………	3
秋晴れ続かず、年明けて曇るか……………	4
ばんえい競馬の発展をふり返って……………	9
海外競馬を見聞して(その二)……………	10
思い出すままに……………	14
金山騎手に聞く……………	16
調教師思い出の馬……………	18
一人歩るきの装鞍所を省りみて……………	27
新人調教師インタビュー……………	28
マスコミに取り上げられたばんえい……………	29
ばんえい便り……………	34
各地の祭典ばんば……………	40
ダービー馬はダービー馬から……………	44
走路の水分……………	46
昭和五十四年度……………	46
馬産奨励に関する生産者賞種雄馬……………	46
管理者賞受賞者名簿……………	50
昭和五十五年度番組編成要領……………	56
昭和五十五年度報償費……………	58
昭和五十四年度市営競馬成績……………	59
昭和五十四年度道営競馬成績……………	59
昭和五十四年度種雄馬ランキング……………	60
昭和五十四年度賞金受賞ランキング……………	61
昭和五十四年度引退馬(表彰馬)……………	62
昭和五十四年度リーディングトレーナー……………	68
昭和五十四年度リーディングジッキー……………	68
昭和五十五年度市営競馬日程表……………	69
昭和五十五年度道営競馬日程表……………	69

会報発刊に寄せて



北海道市営競馬協議会

会長 坂 東 徹

るわけでありませう。
近年は国内をはじめ国際的にも経済情勢が悪化し、景気が低迷している中で、ますます公営競馬の適正な運営について国をはじめ各主催者において論議を重ねその方向づけについて模索しているのが実態であります。

これらの情勢から国は国の諮問機関として学識者を中心として構成されている公営競馬問題懇談会あるいは全国の主催者で設けられている地方競馬運営改善特別委員会等で最近のレジャーの多様化等時代の推移に合せた公営競馬の在り方について協議検討されていることは、ご承知のとおりであります。

これら厳しい諸状況からみて来年度の市営競馬も楽観は許されない実情であります。これにせよ主催者はファンへの信頼にこたえる公正競馬の施行が基本であり、これが大衆娯楽として益々定着させる要因でもあります。

この目的達成のために、主催者は公正確保を第一義とし、ファンへの要望に応える施設改善を逐年実施してきておりますが、今後においても現状を冷静に直視し四主催者が一丸となって厳しい時代に対応できうる施策を講じて参る所在でありますので、関係各位の絶大なる御支援と御指導をお願い申しあげ御挨拶といたします。

昭和五十四年度の会報発刊にあたり謹んで皆様方のご健勝をお喜び申し上げます。

日頃、市営競馬の運営につきましては、関係各位の御指導、御協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、昨年の市営競馬をふり返つてみますと

勝馬投票券発売額において二四二億九千万円で前年度対比一〇七・九%と順調な伸びを示したことは誠に喜ばしい限りであります。
これは、地方競馬の歴史的背景と各主催者における永年の努力がファンの信頼を一層緊密に結びつけてきていることをひとしく物語っている

秋晴れ続かず 年明けけて曇るか

北海道市営競馬協議会

事務局長 鈴木 木 一 彦

全国的な経済不況で昭和五十年以降低迷を続けた地方競馬も、昭和五十四年に入ってからは徐々に経済状況も好転し、過去五年間の最高伸率一〇九%（一日平均売得金前年対比）と近年にない高い伸び率を示し、五年ぶりで愁眉を開くことができましたが、昭和五十五年に向つては、再び押迫るであろうオイル施風と公共料金の値上、諸物価の昂騰、米との対立による国際情勢の悪化等憂慮すべき事態を迎える年となり、やっと浮上した経済状況に、又もや暗雲がたじようこ

とが予測されだしてまいりました。ばんえい競走は、全国地方競馬の中でも、只一つオイルショックの影響も受けずに、毎年全国のトップクラスの上昇率を示してまいりましたが、本年は一〇七・六%の上昇率で、本会設立の昭和四十三年以降で初めて全国平均を下回った上昇率に留まりましたが、入場人員においては全国平均上昇率一〇〇・三%を若干上回った一〇二・七%を確保できました事は、横道いながらも明るい成績でありました。

五十四年度を顧みて

本年度のばんえい競走は、公正確保を最重点とし、執務体制の強化、機械導入による近代化、競走用具の改善、競馬番組のマンネリ化排除等を図り、四月二十七日旭川競馬にて開幕、十七回一〇二日を開催し、十一月十二日帯広競馬を最後に全日程を無事終了することができました。

売得金額

旭川競馬は五回三十日、帯広、北見、岩見沢の各競馬はそれぞれ四回二十四日、合計十七回一〇二日を開催し、売得金額は、二億二億五三七二万円で、前年対比一〇七・六%と上昇しましたが、全国平均を下回る成績に留まってしまいました。

各競馬場毎の一日平均売得金の前年対比は、旭川競馬が一・二・二%、帯広競馬が一・二・八%と共に予想を上回る好成績でありましたが、岩見沢競馬は一〇一・五%とわずかな上昇に留まり、春に開催された札幌ススキノ中央競馬場外発売の影響を若干受けたのではないかと推察され、また、北見競馬については、開催日程の関係上九六・〇%に減少しましたが、売得金の予算額を約五億円で上もオーバーする好成绩でありました。一開催レコードは、お盆競馬の岩見沢

で二十二億九三九万円、第四回旭川で二十一億二六二七万円と念願の二〇億円を突破し、第四回帯広でも一八億六六八四万円のレコードを樹立しました。

一日レコードは、十月二十一日旭川で六億一、三二八万円、八月十六日岩見沢で一億一、八〇九万円と更新しました。

一レースレコードは、旭川の農林水産大臣賞競走において一億二、六一五万円の全道レコードの大記録を樹立し、昨年の北見競馬の一億三四四万円を軽く突破して、一レース一億円の大台を二年連続確保できました。また、岩見沢の八月十五日HBC杯ばんえいプリンセス賞（四歳牝馬オープン）において、七、三九四万円と記録は書変えられた。

平地競走（道営競馬を一〇〇%）との比較は、一日平均売得金額において、旭川競馬場では一八〇・三%、帯広競馬場では一三六・三%と前年に引続き大きく水をあげましたが、岩見沢競馬場は前年より八%増の八五・三%まで追上げ、五十五年度は平地に追つて年にならんと念願する次第であります。

入場人員

売上についての目標は、年間二〇〇億円は昭和五十二年で、一期二〇億円は昭和五十四年度で、一日五億円は昭和五十二年で、一レース一億円は昭和五十三年度にそれぞれ達成し、オイルショックの影響も受けずに順調な伸びを示してきましたが、入場人員については昭和四

十九年度に四〇万人を突破以来遅々として伸びず、本年度も残念ながら五〇万人の目標を達成することができず、四九八、二一八名に留まりましたが、全国平均上昇率の一〇・三%を上回る一〇・七%の成績でありました。

一日入場者のレコードは、旭川において十月二十一日一二、〇七三名、岩見沢では八月十五日一一、八六五名とそれぞれ更新されました。

公正確保対策

一、厩舎門入場の監視

厩舎構内に出入する者の監視とチェックは、ガードマンが主として実施していますが、より以上の強化を図る為に、本年度から厩舎正門ガードマン詰所に二十四時間監視用VTRを新設し、出入する者の行動、顔、服装、時間等のチェックを厳重に監視し、その威力を発揮しているところであります。

二、第2障害の監視

昭和五十三年度に、画期的な施設として第2障害専用VTRを走路内側に設置し、公正審判業務で大いに活用されましたが、外側の映像が小さく、また重なりが多いという難点がありましたので、本年度は、更に一台を外側に増設することにより、死角のない監視体制を確立し、スタートからゴールまでの人馬の動きが、前後左右合計7台のVTRにより完全に集録される厳重なパトロールを実施し、一段と公正審判業務の充実を図ることが

できました。

三、厩舎居住家族の研修

毎年、調教師、騎手、厩務員に対する講習会等は年間十数回実施し、委員長指示事項等の念達に努め公正確保の徹底を図ってきたところでありますが、厩舎構内に居住しているそれ等の家族に対する指示の徹底に稍欠ける面が見うけられるので、本年度五月二日旭川競馬場に於て、全国初のテストケースとして、奥様方を対象とした平易な研修会を開催し、約八〇名の受講者が集まり、競馬の組織、厩舎構内居住者としての心得、委員長指示事項等について、公正確保を主とした啓蒙を図り、厩舎構内居住者一丸となった悪の排除と自衛意識の昂揚に努め、また主催者と日頃あまり接触のない奥様方とのコミュニケーションの場としてその成果がありましたので、今後毎回数回実施する予定でおります。

執行体制の強化

昭和四十三年四月に局長以下八名で発足しました本会は、年々職員の増強に努めてまいりましたが、昭和五十年に一部事務組合設立の気運が高まってからは、設立に向つての増員計画に基づき増員強化しているところであり、本年度も三名の新規職員を採用し、現在職員三十三名、嘱託十五名、臨時職二名、合計五〇名に強化されました。

しかし、本会職員は開催の事前準備事務及び事後処理事務については経験が浅

く、組合設立の暁には事務停滞のおそれもあるため、事前事後事務研修のため、総務及び馬場管理担当職員を開催市に派遣して執行体制の強化を図りました。

機械化

四競馬場中トーターを設置しているのは、昭和五十二年四月に導入された岩見沢競馬場だけでありましたが、本年八月に北見競馬場にシングルユニット方式のトーターが導入されました。

北見地方のファンは、初めての経験である機械総合発売とオツツの表示に稍戸惑い気味であり、また百円単位によるレース購買額の小口化が影響した為か、入場人員は増加したものの一人一日平均購買額は手売りの平均より五、〇〇〇円下り、若干予想を下廻りましたが、最終回は入場者、売得金額共に順調に伸び、予算を大巾に上廻った成績で終了することができましたことは、明年度に大きな期待を持てるところであります。

競馬場で最も公正確保上重要な施設は馬場であり、特にばんえい競走はセパレートコースの特殊性のため、平地競走に比較すると各コースの均一化は絶対条件として馬場管理担当者の努力は並々ならぬものがあります。

昭和五十三年度から試作に入り、再三にわたる研究改善を繰返して完成をみた横動式ワイドハローを、本年度春に2台購入し、毎レースの走路整備にその威力を発揮している次第であります。

ばんえいと砂塵はつきものであります。ファンサービスと公正確保上問題があり、防塵対策に毎年苦慮してまいつたところでありましたが、昨年試作した撒水機に改良を重ね、まだ若干の改善点を残しながらもほぼ完成を見ましたので、本年度から各場で使用し、好評を得ることができました。

競走用具の改善

昨年度夏に発生した前原騎手の競走中における顔面蹴傷事故に伴い、その再発防止に鋭意研究を重ね、本年度から、その鼻木部分に「けり止」を設置し再発防止に努めましたが、六月二十五日帯広において、山田騎手が胸部を蹴られ落すりする事故が発生、幸にも打撲傷程度で済みましたが、今後の競走馬の馴致調教の指導及びその改善に、大きな課題が残されました。

わらび型にハミカンが嵌入し、下そりして修正する事故が毎年数件発生し、公正確保上問題がありました。事故防止対策として、胸締部に「覆革」(胸部キヤップ)の装着を義務づけることとし、全調教師に2個づつ貸与して装着させました。その結果、本年度はばんえい競走開始以来三十三年目にて「事故皆無」の大記録を達成することができました。

重量物の積載方法については、それぞれ調教師、騎手の好みにより、前荷または後荷と自由に積載させていましたが、公正確保検討の余地があり、本年度から

箱型重量物を改善し、積載重量物配置基準表に基づく指定配置方法を指示して積載方法の統一を図り、公正確保に努めました。

また、スターテングゲート内の厩務員退出確認ランプを新設し、発走地点における事故防止に努め、事故皆無の成績をあげることができました。

競馬番組

競馬の盛衰は公正と番組にあり。と言われていますが、ファンに興味ある競馬番組を提供することを第一とし、

ファン投票による重賞競走の実施
若令馬の重賞、特別競走の増加
牝馬競走の増加（特別を含む）
ローカルカラー豊かな競走名の採用

毎日1Rは名称付の特別競走の実施等を計画して番組を編成いたしました。特にばんえい史上初の試みとして計画したファン投票レースは、八月五日岩見沢競馬場において、四・五才選抜ポプラ賞競走で実施し、新企画として前人気は上々、四才十三頭、五才十六頭からファンの人気投票により上位十頭が選抜され、投票総数一五、二五一票中三番人気で一、一〇八票を獲得した四才馬のNo.1リュウタカラ号が優勝しました。

記念レースも数多く編成され、北見競馬場では「十万都市達成記念」及び「窓口電算化記念」、帯広競馬場では「厩舎落成記念」、旭川競馬場では「遊園地落成記念」等を実施し、ファンを楽しませるこ

とができました。

報償費の予算も年々増額され、本年度は、一六億七、八〇〇万円を計上、農林水産大臣賞典競走の一着賞金六〇〇万円を最高峰に、旭王冠賞、帯広記念の五〇〇万円、岩見沢記念、旭シルバークップの四〇〇万円、三〇〇万円台が三R、二〇〇万円台が十六R、一〇〇万円台が七十三Rで合計一〇〇万円以上のレースを九十九R実施し、前年対比二十R増の充実した番組を編成いたしました。

出走馬

本年度の出走申込頭数は一、〇八七頭、出走実頭数は六〇四頭で共に若干増加しましたが、大巾な変動はここ数年間は見られず、新馬登録頭数については、五八九頭で約十一%増加し、産業用馬が減少している中で、ばんえい競走馬を目指す若令馬は年々増加の傾向が見られ、競走馬の資源確保対策の効果が、徐々に向上してきたものと推察され、ばんえい競走の将来に明るい見通しがついてきました。

年間受賞額の最高は、十一戦四勝一、四〇〇万円のハクリュウ号が古馬No.1に輝き、農林水産大臣賞典競走優勝馬のキヨヒメ号が牝馬乍らも、一、三四九万円第二位、ダイニメイホウザン号、キンボシ号、五才馬のNo.1ハヤホマレ号がそれぞれ一、〇〇〇万円を突破し、七〇〇万円以上が七頭、五〇〇万円以上が十二頭の成績でありました。

また、通算受賞額については、五千万

円突破の大記録をハクリュウ号（五、五一七万円）が樹立し、続くはテツワカ号の四、二二九万円で、三千万円を突破した馬が四頭となった。

三才馬については、ベルジャン系種牡馬の産駒が昨年引続きNo.1を確保（マルトダンサー号六五七万円）し、第四位にトカチホシ号も五二八万円を受賞する活躍ぶりであった。

また、ばんえい競走経歴種牡馬であるタカラコマ号の産駒の活躍が目覚ましく、三才馬ベスト十中第三位のパンリュウ号、第十位のシマノエミー号と初仔乍ら二頭が入り、競走経歴馬の産駒強しの話題をふりまきました。

馬産対策

十年前の道内飼養頭数（除軽種）は約八六、〇〇〇頭であったが、昭和五十四年は約一三、〇〇〇頭に減少したものの、前年対比としては過去最低の一、三八五頭に留まり、毎年四〜五千頭減を続けた雪崩現象に歯止めがかかった様であります。

本会は、昭和四十八年度からこの雪崩現象にストップをかけるべく、ばんえい競走馬の生産奨励事業として、毎年一千万円以上の予算を計上し、生産対策に努めてまいりましたが、最近のばんえい競走の隆盛に伴う馬産地の生産意欲の向上と相俟って、やっとその成果が見られ出したものと推察できます。

特に十勝、釧路、根室の馬産地では、

馬事振興団体を組織して馬産熱の向上に努めています。北見地区でも明年度は他地区に負けずに馬事振興会を結成する気運があり、また十勝農協連が中心となり、一頭三〇〇万円平均でフランスから四〜五才妊娠馬三十五頭を輸入する等、生産地はばんえい競走馬生産に熱を入れています。

道内支庁別飼養頭数では、十四支庁中十二支庁は減少、特に中心的な馬産地の十勝支庁の二六四頭減、網走支庁の四六六頭減、上川支庁の三〇四頭減が目立つのが気にかかりますが、最近馬産熱の特に高い釧路支庁の二二三頭増と若干ではあるが根室支庁の四〇頭増は、その努力の成果の表われたものでありましょう。

日本馬事協会において、ばんえい競走経歴種牡馬を、昭和五十一年、五十二年に各一頭、昭和五十三年に二頭を購買し、道内の農業団体に貸与してきましたが、本年度も十一月十三日帯広競馬場において、「シンザンオー号」及び「テツナミ号」の二頭をそれぞれ六〇〇万円で購入し、十勝管内と網走管内に配置され、優秀な競走馬生産に活躍することになりました。

騎手成績

調騎分離を実施して本年度は二年目となり、調教師四十九名、騎手四〇名（内新人五名）で開幕となりましたが、重田調教師が七月十六日に病魔におかれ他界する不幸がありました。

騎手はベテランの活躍が目立ち、

金山明彦騎手（一〇九勝）

山田勇作騎手（九六勝）

工藤正男騎手（九二勝）

の三羽鳥がそれぞれ九十勝以上をマークし、特に金山騎手は、連続六年一〇〇勝以上及び通算八〇〇勝の大記録を樹立し、新年度からも年々このレコードを更新できることが期待できます。

新人騎手は五名デビューしましたが、岩本利春騎手は二〇七騎乗一着二十五回の成績をあげて新人No.1に輝き、千葉均騎手も十九勝をあげもう一勝で☆印がとれる処まで頑張ったのも立派であった。

ファンサービス

全国三十一競馬場の最北端にある北見市は、五月に念願の人口十方を突破、これを記念して六月三日「十万都市達成記念」レースを実施し、当日の入場者に赤黒セツトの「サインペン」を贈り、また場内において北見吹奏楽団によるアトラクションを行ないファンの好評を得、八月二十五日トーター導入を記念し「発売窓口電算化記念」レースを実施、記念品として小銭入の「財布」を贈った。

帯広競馬場では、本年春に二階建水洗トイレ付の立派な厩舎が二十二棟五二八馬房が完成、それを記念して「厩舎落成記念」レースを六月三十日実施し、アトラクションとして、音更町の駒踊り保存会一行の勇壮な「駒踊り」を披露し、ファンの熱い拍手を受け、入場者には記念品として「爪切り」を贈った。

旭川競馬場では、場内に子供遊園地が完成し、ロケット型ジャングルジムやゴーカーに人気が集まりましたが、その完成を記念し「遊園地落成記念」レースを九月二十三日実施、記念品として「栓抜き」を贈った。

岩見沢競馬場では、ファン人気投票レース「ポプラ賞」を実施したが、投票に協力していただいたファンに対し、抽せんで「大工道具セツト」「懐中電灯」「岩見沢競馬音頭レコード」等を贈呈しました。

昭和五十五年度に向つて

本年度の競馬は、西歴一、九七〇年代最後の年として一つの句切りをつける年でありましたが、無事競馬は終了したものの、入場人員は横這い、売得金は全国平均上昇率を下回る成績であり、手放しで喜べる年ではなかった。

新年度は、一、九八〇年代幕開けの年として決意も新たにし、迫しよせる不況要因を跳返し、公正確保と運営面の工夫等により一層の伸展を図り、売得金上昇率No.1の栄光の座に再度輝くべく鋭意努力する所在であります。

施行体制

難産を続けている一部事務組合は、昭和五十年に設立の気運が高まってから早くも四年半を経過し、遠隔の地に散在す

る四主催者を一本化するという、他府県では前例のない困難な面を持つ一部事務組合として、全国から注目を浴びていますが、まだその産声を聞ける時期に達せず、新年度からの設立は見送りとりましたが、一日も早く設立されることを願っている次第であります。

しかし、執務体制の強化については、組合設立問題と平行して増員計画に基づき年々職員の増加を図ってきたところでありますが、新年度においても、さらに職員三名を増員し、執務体制の強化を図る計画であります。

公正確保

制裁基準等の改正については、全国会議等で検討されてきたところでありますが、ばんえい競走も新年度から、調教師の臨場業務委託の許可は公正審判委員が取扱うこととし、許可条件の厳正化を図り、また代行許可を与える期間及び委任者と代行者との責任の分担、賞典の授与について明確化することにした。

なお、騎乗停止の始期については、故意、重大な過失又は保安措置を必要とする場合を除き、処分の発効は当該競走の日の翌日からすることにした。

厩務員の発走地点に行く人員は二名に限定し、指定された者以外は競走中に走路内に立入ることを禁止する等、厩務員に対する指示事項の厳格化を図った。

また、公正審判用の競走パトロールVTR一台をカラー化し、判断の正確化と

迅速化を図ることにした。

ばんえい競走で平地競走に最も遅れをとっている職能分離については、一昨年から調騎分離を実施したところであるが、新年度からの地全協業務方法書の改正に伴い、名義貸し防止についての強力な指導が実施されることとなります。

近代化とファンサービス

新年度に旭川競馬場にシングルユニットが導入されることに決定し、残る帯広競馬場も近年中に電算化される予定もありませんが、四競馬場電算化完成の暁は、念願の四場相互馬券発売の夢が実現し、ばんえい躍進の時代に一歩一歩近づいてまいりました。

検査室における着順及び検体採取指定馬の掲示の正確化と迅速化を図るべく、電光掲示板を新設することにした。

レースの実況放送については、四競馬場ともそれぞれ地元放送員（一場は女性）が担当していますが、放送技術のレベルに高低があり、その統一化を検討していましたが、新年度からは、プロのスポートアナウンサーを契約し、四場共に流暢正確な実況放送による近代化とファンサービスを図ることになりました。

ばんえい競走初の試みとして、馬主会とタイアップの上月めくりの「ばんえいかレンダー」を製作、関係者及びファンに贈呈し、ファンサービスとPRに努めることにしました。

競馬番組

ファンに対し、マンネリ化を排除した番組を提供しなければ競馬の発展がないことは常識であり、番組編成委員は日夜新企画に努力しているところでありますが、新年度に向つての内容豊かな番組編成の計画として、

- (1) 四才クラシック競走（優駿、優駿牝馬、菊花賞）の固定化と定量化、及び一部重賞競走の定量化
- (2) ファン人気投票レースを二レース実施（帯広、岩見沢）
- (3) 土、日、祝祭日に準メインレースを一レース増加（ローカルカラー豊かな名称採用）
- (4) 引退馬（年令十才）競走の固定化
- (5) 馬産地別管内馬特別競走の増加
- (6) 減量騎手の勝鞍制限引上（二十五勝）
- (7) 減量騎手のみ騎乗する減量騎手レースの実施
- (8) 若令馬と牝馬の特別競走の増加
- (9) 一着最低賞金の底上

試験研究

ばんえい競走は平地競走と異なり、世界に一つの先輩のない競馬の為に、自ら研究開拓しなければならぬ部門が非常に多く、暗中模索、思考錯誤を繰返しながら一歩一歩改良進歩を重ねているのが現状であります。

走路についても、馬場水分と速度、負担重量の関係、砂の粒子、硬度、摩擦抵抗の関係等の研究は、四競馬場の条件がそれぞれ異なり理想的な走路の解明が困難でありましたが、新年度は、各場毎の走路砂粒度物理試験を実施し、基礎データの収集に努め、理想的馬場の研究解明に着手する予定であります。

また、競走用具については、その高さ、箱型重量物、けり止の改善研究、はな木のゴム製スネ当の研究、かじ棒の改良等、新年度も弛まぬ試験研究を続け、事故発生防止に努める所存であります。

結 び に

昭和五十五年の開催日程は、ばんえい競走としては前例のない四月二十五日の早春から岩見沢競馬場で開幕、十七回一〇二日を開催し、十一月十日岩見沢競馬場で終了の予定であります。昭和五十四年秋から稍上向の経済状況も、年明けから再び見通しの暗い方向にUターンする可能性が強まりましたが、これを乗切って行く為にも、より一層前進した競馬の施行が必要となり、競馬の健全化と公正化に鋭意努力する所存でございますので、関係各位の絶大なるご指導ご支援をお願い申し上げます。

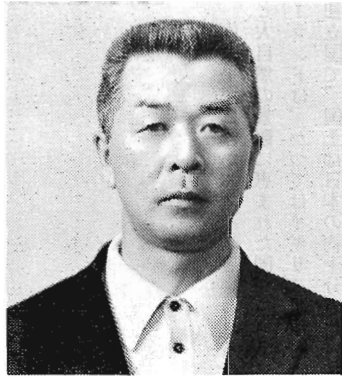


ばんえい競馬の発展を

ふり返って

北海道ばんえい競馬調騎会

会長 晴 披 孝 治



北海道市宮競馬協議会発行のばんえい誌十回記念を心からお喜び申し上げます。現在ばんえい競馬がこのように発展いたしましたことは関係者の指導と協力の賜ものと思う一人です。

昭和二十年八月終戦を迎え、そして経

済の動乱の中で、町村では祭典ばんばが盛んになり、私も父とともに村一番の馬を引き農閑期を利用して参加し優勝したこともありませぬ。

昭和三十五年、初めて旭川競馬に参加しましたがやはり本場ですので期待にそぐわず涙の敗北でした。

その後、昭和三十七年地方競馬全国協会の免許を受け、同町の友人より買入れた馬に馬主騎手として騎乗し優勝した時は無我無中で、あの時の感激は忘れることができません。

また、昭和四十三年札幌に四市（旭川市、北見市、帯広市、岩見沢市）で北海道市宮競馬協議会が設立され、主催者及

び関係者一体となって平地に優る執務体制、きゅう舎改善など近代競馬にむけてばんえい競馬発展のための体制作りが強化されているように思われます。

また、昭和四十八年われわれが念願だった東京大井競馬場でのばんえい競馬アトラクションショーに参加し全国にPRできたことは、故、大久保吉蔵様や市協前内田靖夫事務局長のご協力の賜ものとして深く胸におさめ忘れることはできません。

同時に北海道ばんえい競馬馬主会、調騎会事務所を旭川市四条通り七丁目、川ビル五階に墓田大二事務局長を迎え開設いたしました。

また、きゅう舎関係者のためのストライキ作戦もございました。

昭和五十一年旭川競馬場が新設され、四市共近代競馬場になり昭和五十二年馬主会、調騎会十五周年記念式典、昭和五十三年、五十四年と二年間にわたり諸先輩、関係者のご指導を得、現在、定年勇退制度、労働者保険事務取扱い。

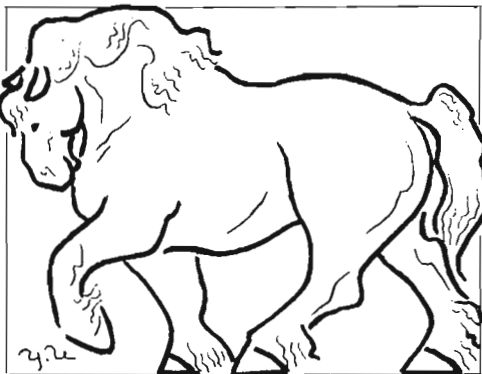
また、四開催市共、数年来日本一の伸び率を示したいへん喜ばしいことだと思います。

一方、残念なことには馬の仕事が機械化されてしまい神様のような馬の姿が地

方ではだんだん薄らえてきたような感じがするので関係者の生産増進にご協力願います。

私も調教師としてきゅう舎の統一、公正確保、事故防止に協力し世界の競馬に挑戦したいと思えます。

最後に、ばんえい競馬の発展をお祈り申し上げまして、私の思い出話と致します。



海外競馬を見聞して(その二)

岩見沢市役所

谷村 寿 昭

南大洋に浮かぶスイスといわれるほど大自然の景観に恵まれた国、ニュージーランドは、かつてはイギリス連邦内の独立国で、国土は日本の約十分の七、北海道を除いた日本全土の広さにあたります。その面積二六九千平方キロで、日本と同じ島国で美しい海岸、水河におおわれた地形に珍しい動植物が訪れる人々を楽しませてくれる国で、それだけの広さの中に人口は、たったの三二〇万人と少なく、建国百年有余の国で住民は、主として馬、乳肉用牛、羊等の酪農を主体として、バター、チーズ、羊毛、羊肉(マトン)などの産が多く、これらが主要輸出品となっている。

また、半面近年は工業も発達しつつある。美しい自然環境の中で、群れをなす家畜と緑の樹に包まれた豊かな生活水準を誇っている。国民性も温和な生活態度

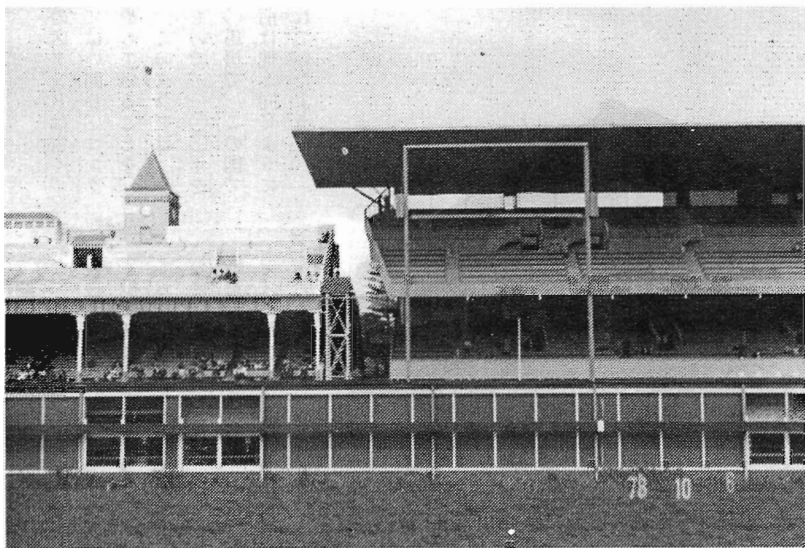
で、自然を崩壊することなく、最大限に活用し、住宅の庭先まで牧草や花木で緑化されている。この国への入国は、空港で厳しい荷物の検査が入念に行なわれた。これも税関の検査かと思っていた処、動植物に対する防疫のためのものと後からわかった次第です。したがって検査員は、農林水産省の役人で、雑菌の入国を防ぐ等、農業国の姿をまざまざと見せつけられた。

制度と機構

- この国には五九の競馬場と八八の競馬クラブがある。
- 競馬は内務大臣の管轄下に置かれ、法人団体法に基づき法人として、競馬公社及び競馬クラブが設立され運営されている。国営、公営など国家の経済介入度が高い、何れも非営利の団体である。
- ニュージーランド競走公社
- 一九七一年に競馬及び競犬の経済的發展と財政的福祉並びに競馬、競犬に関係する団体及び個人の財政的安定、ファン利益保護、場外発売金金の配分、競馬場の施設改善、賞金の助成等を主要業務として設立された。公社は、場外発売金金の配分権を場外馬券公社(TAB)ら継承して、ニュージーランド競馬財政の要を掌握している。
- ニュージーランド競馬組織の特徴として、次の四点があげられる。
- (1) 統轄機関は、駈歩、速歩ともに主催者たる競馬クラブの自主的機関として成立し、その権限は同機関の総会で採択された競馬施行規程に実質的基礎を有すること。
 - (2) 駈歩競馬にあたっては、全国を一〇の競馬行政地区に分け、各地区委員会が地区内の競馬を統轄する。
 - (3) 競馬クラブには、トータリゼーター実施権を法許された。
 - (4) 都市クラブ(メトロポリタン)とその他のクラブ(パブリック)に分け、特に駈歩競馬においては都市クラブに大きな権限と特権が与えられている。
- 速歩競馬は、原則として各クラブ平等である。
- ニュージーランド駈歩競馬協議会
- (ニュージーランド、レーシング・カンファレンス)
- 首都ウエリントンに繁華街の高層ビルの中にあつて、ニュージーランドの駈歩競馬を統轄している。組織権限などは、オーストラリア・ジョッキークラブとほぼ同じで、管轄内の競馬クラブの登録、機関の設立許可、競馬開催の許可及び監督、競馬日割の決定、競馬諸規程の制定などの外に、血統、登録などの業務も担当している。
- 委員会の組織は全国十地区の代表十名により、会長、副会長を選出し、正副会長を含めた十二名で構成されている。
- 毎月一回二日程度の会議を開き、競馬施行の諸問題について検討協議決定している。総会は年一回(七月)開催して施行規程などの制定、改正などを行なっている。
- ニュージーランドの競馬場
- 五九の競馬場があり、私共が訪問したエラスリー競馬場(オークランド市)トレンサム競馬場(ウエリントン市)は主要な競馬場の一つである。施設は、オーストラリアと似たり寄つたりである。エラスリー競馬場は広くて、非常に美しい公園といったほうが、むしろ適当と思われる状態であった。もっとも造園の技



エラスリー競馬場



スタンド（エラスリー競馬場）

術者が十三名で毎日手入れを行なっている。この様な緑にあふれた競馬場で、障害レースも行なうので、小高い丘もあり、コースが何通りもあって、それぞれレースによって使い分けされている。

スタンドは、会員席と一般席との差が大きく、一般スタンドの二階建は屋根なしであり、会員席には貴賓席があつて、食堂が又豪華で、各所に馬券売場があつ

て、女性専用の馬券売場も、そしてスタンドもあつた。ここでは長距離障害レースを観戦したが、長いレースにもかかわらず、ゴール寸前の追込みが横一線になつて競う勝敗の情景は、この国の馬資源の豊富なことを物語っているように感じた。

ここでは誘導馬が五頭出て来たので、どうするかと思つていた処、前後に一

頭づつと他の三頭はそれぞれ出走馬が、下見所で騎手が騎乗してからファンに見せるとき、興奮度の高い競走馬に添馬をして、沈静を図り、発走点へ誘導しその後、走路各所に散在し、突進、落馬による逸走等があつたときに、それを追走、静止させる行動を行なつていた。

ここではブックメーカーがなくて、機械発売の歴史も古く、一九四八年から使

用している機械があるかと思えば、最新式の発売、払戻しが一名でできる機械も設置していた。勝馬投票は競馬クラブから委託を受けたトータリゼータ会社による機械発売が行なわれ、種類は、単、複、連単、連複、二重勝、三重勝等がある。厩舎は四〇馬房しかなく、レースの二時間前に、馬をそれぞれの牧場から直接引きつけてくることになつてゐる。

騎手、厩務員についても女性の進出が多く目だつた。

なかには、長い髪を風になびかせて、膝頭を出してミニスカートに革のブーツを履いた若い女性が、馬を引いて下見所に姿を見せ、レース終了後は騎手から馬を引継ぎ厩舎へと馬を引いて行く姿が、レース毎に見受けられた。

ファンもメンバースタンドでは男性が必ず上下揃いのスーツにネクタイ、女性はドレスに帽子で、まさに絵に出てくる、ファッションショーを見るような光景である。一般席は盛装は少なく、いろいろな服装で、場内ピヤホールでビールを飲みながら室内テレビで観戦者もいた。

レースでファンが騒いだり、着順等に異議の申立てをする者はなく、レース終了して下見所に帰つて来る騎手を拍手で迎え、その健闘を讃えており、特別レースがあるときは、場内に楽団演奏が行なわれる場所が設置されている。

退場する直前に通訳の鈴木さんに、昭和の五一年に岩見沢競馬場のばんえい競馬を視察に来場した、タウランガ市のプ



女性きゆう務員 (エラスリー競馬場)



トレンサム競馬場

レンティ競馬クラブのロバート・シルソン会長さんの話しをした処、案内人に聞いてもらったら、タウランガ市は、オーランド市から三〇〇料程の市であり、シルソンさんは当クラブの会員で、本日も見えているとこの場で再会することが出来て、互に手を取り合い喜び合いました。「ばんえい競走」はすばらしいレースであると、二年前の写真を見ながら懐か

しんでくれました。
トレンサム競馬場のスタンドは古く、草花がスタンドの壁にはい回り、コンクリートの上に芝を生やしていることを、自慢の一つであった。このクラブは、一九〇五年に設立したもので、一〇〇年を迎える。厩舎は三〇〇馬房で、この国では多い方であり、以前は他と同じように牧場から直接搬入されていたようだ。

開催中は一日出走頭数が一〇〇頭前後なので、遠征して来た馬は二三日前に入厩するようになった。
投票施設は、一九三五年から機械化しており、現在もその機械を使用しているのには驚いた。それでいて一方では世界一を誇るTABの最新のコンピューターシステムをとり入れており、古いものを大切にしている感を感じた。

ニュージーランド場外馬券公社

(ニュージーランドTAB)

TABの創設は、ニュージーランドで始めて、一九五一年三月に設立された。その理由としては、競馬を開催した当初、場外投票は専らブックメーカーの手を経て行われていたが、その弊害があらわれてきたので、一九一〇年に政府はこれを禁止した。しかし、ブックメーカーの暗礁がつづいたので、これを抑えるため政府は場外投票制度を公認し、これが運営団体としてTABを設立し、その後も順調な発展をとげてきた。

TABは賭事法の法律に基づいて行なわれ、現在九人の役員で構成され、内務大臣の認可を得て定められた業務書によって、七人の幹部職員協力により経営されている。

TABは本部の下に支店二六ヶ所、委託発売所三三ヶ所に六九六の発売窓口が設置されており、発売私戻の業務を行なっている。電話投票については、本部センターのほか六ヶ所に、地方電話投票センターがあり、一一四名の受付係が配置されている。現在一九二の場外発売所と六ヶ所の地方電話投票センターが、本部コンピューターと接続しており、その発売機による売上額は、全体の売上額の七八%に達する。ユニット券で、ユニット五〇セントで無制限に購入できる。現金投票の時間は、開催中は、午前八時三〇分から午後七時三〇分迄で、非開催

時は午前十一時から取扱っている。

なお電話投票は午後一〇時迄となっている。各競走の締切時刻は、自動機械化されている所は発走の一〇分前、そうでない所では五十分前に締切られ、各自の出馬表、成績表は、各発売所に掲示されている。自動機械化されている発売機は、発売、払戻し業務も行なうシステムになっている。この発売機は、競馬場別コードにより各競馬場の発売、払戻し並びに電話投票加入者の各人の預金口座から預金の引出しも出来、また不良券、不的中券のチェックも出来る。

電話投票口座も五年で倍の口座数となり、この受付台数は、場外発売所の四〇〜五〇カ所に匹敵する能力があつて、非常に効率的、経済的であるとの説明があつた。現在発売している競技は、駉歩競走と、速歩競走であるが、近くドックレースも実施する予定で準備が進められていた。T・A・Bの剰余金については、コンピュータ関係の開発基金に一部が積立てられたほかは、利益配分金額として政府の指導により各競馬場クラブの事業を助成するため配分されている。

各T・A・Bの設置目的が明確化され、組織、機構、事業規模の適正化、合理化を図りつつ発展して来ている。

場外発売所の設置は政府の方針により、都市地域、地方地域にわけ、人口数を一応の基準として、また、その地域の諸事情に適應した場所に設置している。

発売所が一定の地域に集中することな

く分散化されており、ファンサービス、ノミ屋対策にもなっている。

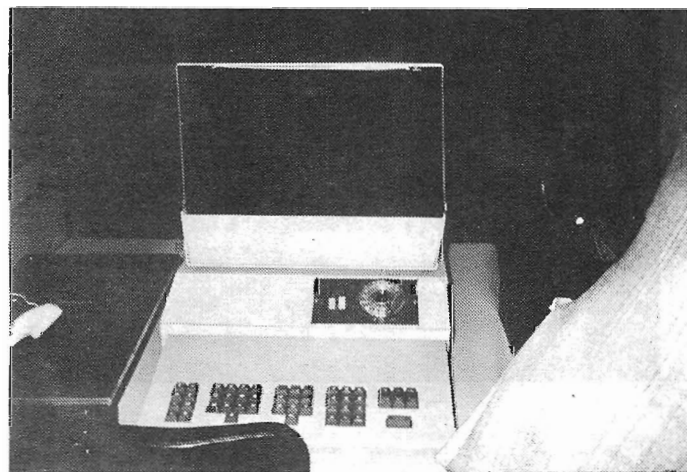
日本のようにファンが集中滞留し、混雑による環境問題はあまり起きていない。また、発売所は非常に明るく、清潔で、静かな雰囲気、ファンの滞留を防ぐためベンチは設置されていなかった。

T・A・Bは場外発売所の発売機能のレベルアップを急速に進めており、特に電話投票システムについては、合理的で経済性、収益性が高く、ファンの要望に応えられるので、拡充策を積極的にしている。これは私達公営競馬関係者も将

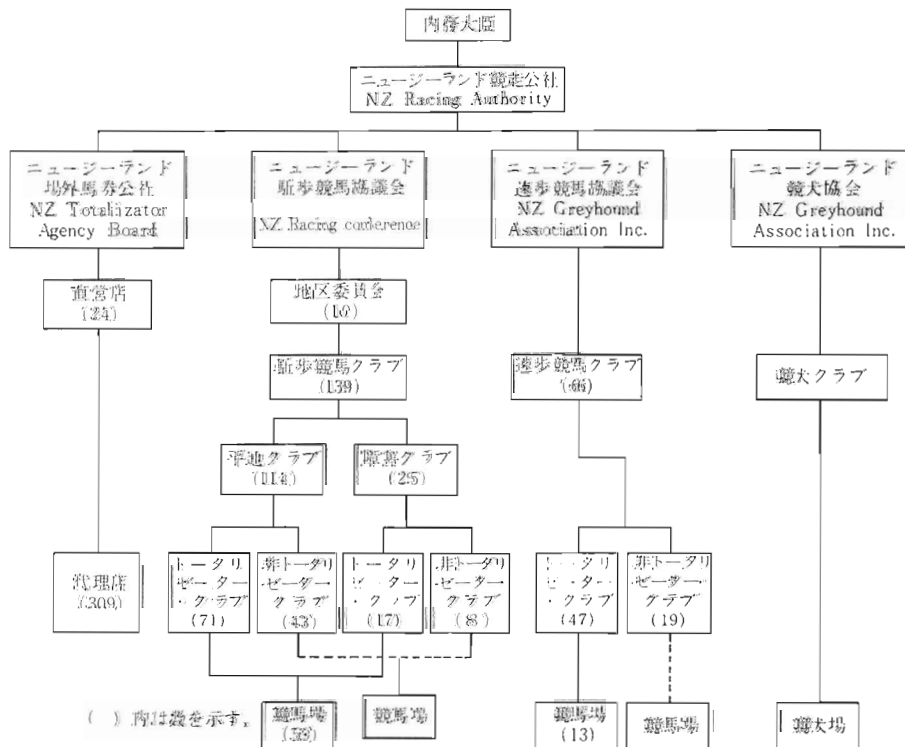
来構想として考える必要があるように感じてきました。

以上ニュージーランドの競馬について見聞したままに綴りました。

以上



来賓用勝馬投票券の発券機 (トレンサム競馬場)



思い出すままに

旭川市審議員

鈴木善次郎

競馬業務を担当してから六年が経過した。振り返ってみると実に早いものである。昭和四十九年五月の人事異動で全く予期していなかっただけに競馬業務担当として農政部に発令された時は、まさに驚天動地の心境であった。それと言うのも昭和二十年に奉職して以来、当時三十年勤務した役所生活の中では約二十年間は教育行政に携はり、主として教育関係に身を置いてきた私としては驚きの一語であると共に文字通り不安と身の引き締る思いで一杯であった。

「新競馬場建設」の大事業が横たわり早速業務開始となったが全く競馬については些かの経験もなくどこから手をつけてよいものか見当すらつかなかった。現畜業課長の浅川氏をはじめ当時の競馬担当職員には本当に迷惑をかけたものでした。先ず競馬用語（ドツコイ、ワラビ型、ズリ等々は他の国の言葉と思つたこともあり今考えてもなつかしい）から始まり新競馬場建設に至る経過等を聞くにつけ張切っていた私の気持も打ちひしがれてしまいかつて経験のした事とない

重苦しい毎日が続いたものでした。

ばんえい競馬の先駆者であった先輩故大久保審議員が病魔に犯かされ入院されたのもこの年の秋であった。

越へて昭和五十年四月大久保さんはついに不帰の人となり私は羅針盤を失った船のように不安と焦燥にかられる毎日でありました。

いろいろな変遷があつたが昭和四十九年十二月愈々上雨紛に新競馬場建設の雑音が響き工事が開始された。

冬季間も通して突貫作業に目を眩り毎日のように工事の推移状況を見守つたものでしたが昭和五十年九月これが完成をみ道管競馬がスタートした。この年ばんえい競馬は旧競馬場（花咲町）で最後の競馬を開催したが残念ながら馬糞事件が発生しファン始め多くの市民に御迷惑をかけ私も競馬の大変さや恐ろしさをイヤと言ふ程知らされました。競馬業務二年

目にして一方では新競馬場道設の業務を抱え、片方ではこの様な事件に遭遇し全く進退極まった思いでありました。

折しも台風七号の影響で市に災害対策本部が設置され市長助役をはじめとして関係者は締めきりになっており、私と浅川所長が報告のため助役室を訪れ暫し待つ間眠り込み助役の入室も知らずに起こされる一幕もあり思い出すと冷汗の出る事ばかりであった。

台風がきてその影響は競馬場をも直撃し厩舎は水浸しとなり馬の足が水に埋まる始末でこれ又最悪の状態でありました。

水道局から排水ポンプを借用し執務員全員が一睡もせずには排水の処理にあたって開催準備を進めた事などは今想うと懐かしい思い出であります。

この日はファンも靴を脱いでズボンを買って馬券を言う一言もありません。天決行の決意を固めて競馬の執行にあたりこの日一日の売上げが実に一億七千万余とこれまた私にとっては競馬の根強よさとファンの有難味を改めて認識させられた事はありません。

越へて昭和五十一年新装なつた新競馬場ではばんえい競馬がスタートいたしました。数々の記念行事が行われ、ファンを始め厩舎関係者共々喜び合ったヒトコマは、今思つても胸あつくなるものがあります。昭和五十二年度は四回僅二十四日の日程をとり七月一日にスタートいたしました。

この年は七月中に二回僅十二日間のレースが行われ八月二十五日まで一ヶ月間休催して八月二十六日より三回目の競馬に入りましたが、その初日の八月二十六日走路問題でファンが騒ぎ出し私にとつては第二回目の騒擾事件の経験となりました。その後幾多の改善措置を進めながら公正な競馬を執行することに全力を傾注してきたのであります。

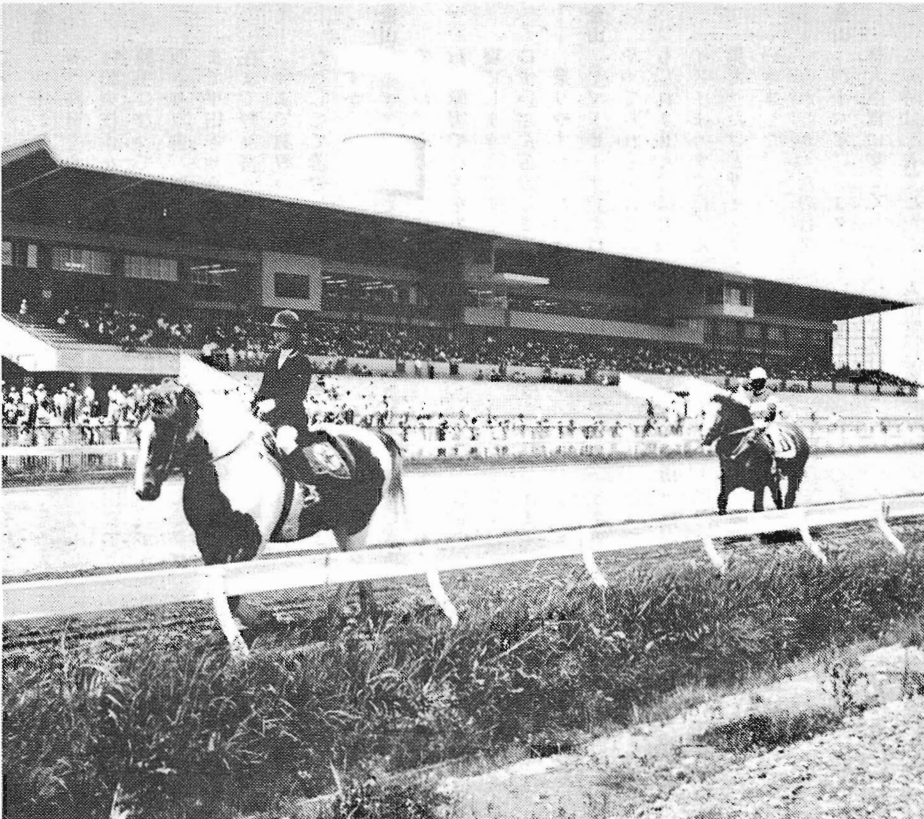
先般旭川競馬協会の副会長でありました神田幸太郎氏が他界された一人はばんえい競馬の先達を失い誠に残念な思いでありますがこの故神田幸太郎氏が或る日私に「競馬は綺麗ごとでは済まない。



常に事故との背中合せであり良くいって
あたりまえ、下手すると命とりになるぞ
と教えられました。が今もって私は金言と
して胸に秘めている次第です。

× × × × ×

一日の競馬が終り各執務委員の報告の
あとペランダに立つとスタンド一面に捨
てられたはづれ馬券が風に舞い先刻のあ
の興奮した雰囲気とは思えない静寂さが
戻ってくる。そんな時今日一日の無事故



を喜び一人安堵の胸をなで下すのである。

× × × × ×

愈々昭和五十五年度の競馬も来る四月
二十五日から岩見沢市で開幕し十一月中
旬まで一〇二日間開催されるのであるが、

全国地方競馬のなかで常に発売額、入場
人員共に上位にある我が「ばんえい」競
馬が優秀が成績をもって終了でき得ます
よう念願するものである。

金山明彦騎手に聞く

(昭和五十四年十一月八日収録)



賞だったし、調子はよかつたんですけどあまり自信はなかつたんです。馬場が軽かったことも幸いしたと思います。

—— ところで騎手になったのはいつですか。

金山 昭和四十四年からです。当時は新人騎手の十キロ減という特典がなかったんですけど、この年一〇〇回くらい乗って、確か十勝以上したと思います。

—— 騎手になるきっかけは？

金山 きっかけなんて別にあります。何しろ小さい頃から馬は好きでしたね。小学校の頃から草ばんばで乗ってました。最初に出たのは小学校五年の時です。小学生では最初だったでしょうね。

—— 騎手試験に落ちたことがあると聞いたんですけどほんとうですか。

金山 ええ、ほんとうです。二回落ちました。当時は一年に二回試験がありましたから、一浪ということになります。

—— 最初はこのきゅう舎に入ったの

ですか。

金山 四十二年に中西さんのところできゅう務員をやりました。中西さんには騎乗技術をいろいろ習いました。騎手になってからは、四十四年から西きゅう舎、四十五年から四十八年まで平田きゅう舎、四十九年から現在まで野々宮きゅう舎です。

—— 今まで調教つけたり、競走で乗ったりしてて苦労したという馬がありますか。

金山 キタノフジはさつき言ったとおりですが、その他ではカツタローですね。障害でひざを折って、コロんと寝てしまうんです。これを直すのにずいぶん苦労しました。

—— 乗りやすかったのは？

金山 ヤマトオーザですね。今、騎手をやってられるのはこの馬のおかげかもしれません。ほおつておいてもスイスイまっすぐ行くんです。小さい馬だったけど準オープンぐらいまでいきました。

—— うれしかったのは？

金山 四十六年にトヨタカという馬で農林大臣賞に乘せてもらった時ですね。この時は三着でしたが、大臣賞に乗るということは一つの目標でしたからね。それと同じ年ですがチェスで旭王冠賞を取った時ですね。この年、この馬は定年でこれが最後のレースだったんで、馬主さん達も大喜びで、特にうれしかったですね。

—— それからくやしかったこともあると思うんですけど。

金山 四十九年に岩見沢で行なわれた大臣賞でカツタローに乗ってたんですが、ゴール直前で先頭で行ってたんですが、寸前に止まってしまつて三着に落ちた時です。

—— 今度はレースでのことを聞きたいのですが、競走が始まる前には何を考えているんですか。

金山 馬のクセですね。障害でのよじれやひざ折りする馬には非常に神経を使います。それに、目標になる馬を念頭に置いて、平地競走という展開ですね、それを自分なりに考えておきます。

—— ファンファーレが鳴り、いよいよスタートとなった時ゲートの中ではどうでしょう。

金山 出遅れしないように、ただそれだけ心を掛けています。

—— 障害の下では？

金山 一気に上げた方がいいですから、できるだけ一腰で行くように、タイミングを計っているんです。馬が行く気になるのを待って仕掛けるわけです。ここで馬との呼吸が合わないとか失敗につながります。これは経験を積まなくてはなかなか分かりません。私が騎手になりたての頃、中西さんのまねをしようとしてみたのですがなかなかうまくいかなかったものです。道中のハミのかけ方や叩き

方は山田騎手に、障害の上げ方は中西さんに学ぶところが大きかったですね。今でも、自分が乗っていない時は障害のところは注意して、他の騎手のいいところは取り入れるようにしています。

金山 左に行きたがる馬なら、障害の下で少し右側に寄せといて、やや左寄りに上げます。

—— バイキしたがらない馬はどうするんですか。

金山 一回チョット前に出してやりませう。それからなら、たいがい馬はバイキします。

—— 逃げ馬と差し馬とどっちが好きですか。

金山 後から行って差す方が気持ちがいいです。逃げてバチる馬は乗ってて怖いし、疲れます。

—— ずっと乗ってる馬が同じレースでぶつかる場合には、どうやって乗る馬を決めますか。

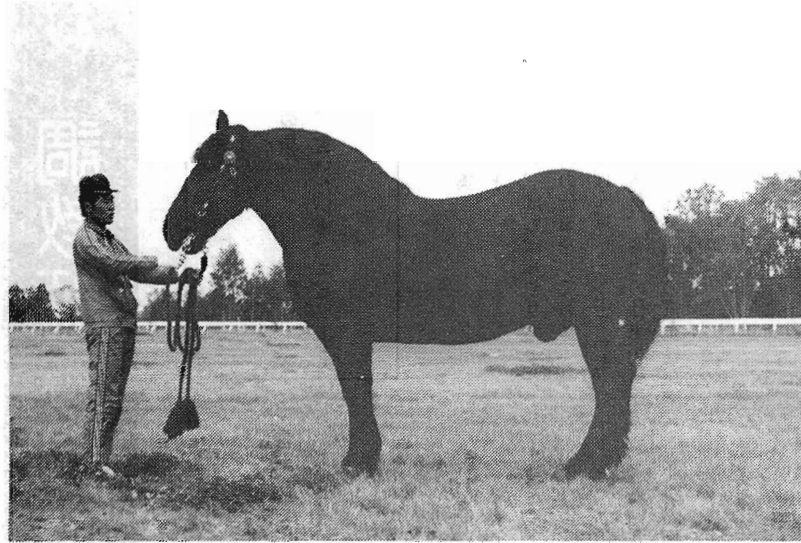
金山 強い、弱いには関係なく、長く乗っている方を取るようになっていきます

が、どうしようもなくなったら、調教師さん同窓で話し合ってもらいます。

—— 金山さんはファンにも絶大な人気があるわけですが、それに對してはどう思いますか。

金山 ダントツの人気になるとチョットいやですが、たいしてこだわらないですね。

—— 連勝武の場合、ファンにとっては二着までに入ってくればいいわけですか。



カッタロー号



ゴール前の接戦

金山 乗る以上はいつも勝ちたいと思って乗っています。二着でもいいやと思つて乗ることはありません。

—— いまの競走の制度で、何か改めた方がいいと思つてのことばありませんか。

金山 今からは騎手もどんどん大きくなりますから、騎手重量七五キロというのは苦しくなるのじゃないかと思っています。それから、新人騎手の十キロ減という特典が二十勝すれば取れるわけですが、三年間位は何らかの優遇策が必要じゃないかと思つています。

—— では最後にこれからの目標を聞かせて下さい。

金山 何勝したいという目標はありませんが、騎乗停止だけはくわないようにしたいと思つています。それから、きゆう舎の人達やファンに好かれる騎手でいたいと思つています。

調教師思い出の馬

- ①出身地、年齢
- ②略歴
- ③思い出の馬
- ④その他、言いたい事、エピソード等

荒井 実

- ①和寒町 四十六才
- ②三十五年頃から、ぼちぼちやり出す。当時、冬は造材の仕事をしており、夏は旭川近郊の草ばんばによく出ている。四十四年頃から造材、客土の仕事がだんだんなくなる反面、競馬の賞金はだんだんよくなって来たので、こっちの方が本職となる。
- ③タカナミ

五十一年に五才で日本馬事協会で種牡馬として買上げられ、現在阿寒町で活躍中。

石川 重吉

- ①旭川市 五十五才
- ②二十一年より水田農家をやる一方で、暇があれば、馬を連れて競馬に出ている。四十四年頃より減反政策で水田をやめ、本格的に競馬で食うようになった。

③アカネススピード

四十四年頃七才で購入し三年間いた。鹿毛の牝馬で足が速く、けい古を終えて「お前帰れ」と言うと一緒にきゆう舎まで帰って行くようになり、こうな馬だった。

ホースタイガー

四十七年六才時より十一才で定年引退するまで特別レースでかなり活躍。

④競走に出す時、飼い葉の量に気を使う。馬は普段の扱いが七分で、乗り役が三分だと思っている。

岩 瀬 喜代美

①北村出身 五十五才

②二十六年頃水田農家をやる一方岩見沢競馬に出たのが最初。戦前平地競馬のきゆう務員をやったこともある。

三十二年頃から本格的にばんえいをやり出し、六、七年前に水田もやめて、現在は牧草作り。

③シンコマ

六、七年前A級で活躍。

オシマトップ

十二、三年前トキミノルなどと互角に走った。

フェニックス

四十五年岩見沢で行なわれた大

臣賞に出走。

④息子が今年から騎手になり、最近は少し度胸もついて来たようで期待している。

二十二年前、造材で支笏湖あたりの山へ行った時のこと、昼頃飯場に荷上げをたのまれて行く途中、熊に出会った。自分も驚いたが、馬はもつとびっくりして、飛んで逃げた。その上の荷などみんな落ちて何もなかった。

宇 高 輝 次

①美瑛市 六十五才

②昭和二十二年の秋、旭川に引き続き岩見沢で開催された新競馬法に基づく最初のばんえい競走から出場している。当時は石炭の運搬業が本業であり、競馬があると聞いては本業を若い者にまかせて競馬に來ていた。

昭和二十七、八年頃トヨタカという優秀な馬を購入したことが本腰を入れてばんえいをやるきっかけとなる。

その間、金物屋、飲食店、旅館なども経営し、旅館の方は現在息子にまかせ繁盛している。

③マサタマ

甲馬の大きな馬で昭和二十六年に函館で開催されたばんえい競走にも連れていって二着。

トヨタカ

当時は四市合わせても八回ぐらいの開催しかなく、草ばんばに出る方が多かった。昭和二十八年に錢函で公認のばんえい競走が行なわれたこ

とがあり優勝した。

ガロン

ものすごく気性が激しい馬で、昭和三十八年頃発走点で顔面を蹴され、その傷痕が今でも残っている。

きゆう舎に不死身と言われる人は多いが師もその一人。

キング

昭和四十三年から五十年定年で引退するまでオープンで活躍。最後の年の帯広で行なわれた農林大臣賞で微差三着に食い込む。

タマカゼ

黒鹿毛の牝馬で昭和四十七年頃から活躍。足を痛めて引退したが、その仔が今年から競馬場に姿を見せるはず。

④昨年は七月末から肝臓を悪くして入院。その間心臓病も併発したが、二ヶ月程の入院治療の結果冬にはすっかり回復し、雪かきなども平気で出来る程になった。

鶴 沼 正 吉

①富良野市 五十七才

②親の代からの馬喰（父は馬車引き）で昭和二十三、四年から出場していたが四、五年でやめる。その間幾度か「のんき」という飲食店を経営したこともある。再び昭和四十五年頃からやりだす。鶴沼式騎手は実の弟。

③昭和二十三、四年当時のバンリュウ、トカチハナは強く、オープンまで行つたが、その後はプランクもあり、あま

り印象に残る馬はいない。

④馬の寄生虫には注意しており、春、秋の二回必ず虫下しをかける。

太田 啓 一

①旭川市 五十七才

②昭和二十二年旭川で開催された最初のばんえい競走に出場。その後は水田農家をやりながら種馬を所有し、旭川近郊の草ばんばに出る程度。

昭和三十八年より馬主馬丁として早勢きゅう舎に入る。昭和四十年より騎手免許を得て自分で乗るようになる。

昭和五十一年より調教専業となる。この頃から競馬による収入も安定し、水田は休耕し、現在は牧草地となっている。

③ゼンシン

昭和三十九年に三才で購入し、定年で引退するまで活躍。十年間ぐら

いずつといた馬で特に印象深い。

キングホース

甲馬。大きくて気かんぼうで、あつかいに苦労した。

④昭和五十四年度の競馬は管理馬が平均して走ってくれ、成績は良かった。

大野 英 夫

①旭川市 五十三才

②昭和二十七年頃から三十九年まで旭川で行なわれた時だけはずつと出場していたが、当時は賞金は安いし、本業の運送業が忙しくなったこともありしばらく休業。

昭和四十四年より本格的にばんえいと

取り組むようになる。

昭和五十三年、調騎分離に伴い調教専業となる。

③シンカツ

昭和四十五年頃最も活躍し、特別レースで十回以上優勝した。

メジロアサヒ

三才時より管理、三才五才時は抜群の成績で、六才時大臣賞で五着になったこともあったが、以後パツとしなかった。昭和五十四年で定年引退。種馬となる予定。

④馬の健康状態、特にもの食いに注意している。

長 部 正 二

①富良野市 四十八才

②昭和三十一年帯広の競馬に出たのが始まりで、水田畑作の暇を見ては出かけていた。

昭和四十年頃から競馬の方が本職となり、昭和五十二年から調教専業。

③ホンユウ

昭和三十一年の三才馬で、最初から四連勝し、この年の三才馬では最高の賞金を獲得し、これで病みつきになる。

ジャコマン

昭和四十年頃の馬で障害が非常に強かった。

④賞金、諸手当をもう少し上げて欲しい。

嘉 見 次 夫

①芦別市 六十一才

②石炭運搬業のかたわら、昭和二十二年

旭川で開催された最初のばんえい競走に出場。以後競馬の度に各地を転戦する。冬期間は相変わらず石炭運搬業をやっていたが、昭和四十五年頃からほとんどトラック輸送となり、競馬に本腰を入れるようになる。現在でもたま

あに雪で車が動けなくなった時には、たのまれて馬車に石炭を積んで廻ることもある。

③タケトモ

四年位前に引退したのだが、安く購入した馬で上のクラスではなかったが、下の方で出れば大概頭だった。

④現在ハクリユウを管理しているが、のど鳴りの持病があり、はちみつをなめさせるなどして、非常に気を使っている。

木 村 与惣治

①深川市 六十六才

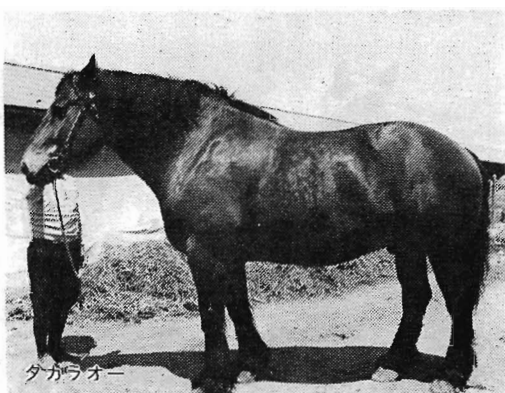
②昭和二十二年最初の旭川競馬から出場。二十三年には公認のばんえい競馬は開催されなかったが、二十四年から開催のたびに出来た。

当時、農協の物資を荷馬車やトラックを使って輸送するのが本業だったが、競馬と聞くとトラックの運転をだれかに代わってもらって来たものだ。現在は深川市内のタクシー会社の社長さんでもある。

昭和四十九年より調教専業。木村卓司騎手は三男。

③ネムロコマ

十年位前、乙から甲級で走った馬



ダガラオー

で五連勝したこともあった。
チエス

六才から八才までいて、乙級から甲級で活躍。

キタバヤマ

四才時から四十七年に十三才で定年で引退するまで活躍。

この三頭でもらった記念の盾、メダル、カップ等多数残っている。

タカラオー

昭和五十年に定年で引退するまで、オープンで活躍。大きな馬で最高一、一〇〇キロぐらいあった。

④あと二年で定年になるわけだが、その間ファンに楽しく遊んでもらえるように微力ながら尽したい。

久保 正吉

①帯広市 三十六才

②昭和三十四年に二頭連れて帯広競馬に出たのが最初。この頃はたまたま北見、岩見沢に出かける程度で、ほとんど帯広だけ。

昭和四十年頃から四市廻るようになる。調騎分離に伴い昭和五十三年より調教専業。

③フリーキング

平地の足がよく、障害で全部止まっても頭を取ったこともあった。

ダイニアイザン

六〇〇キロ前後の小さな牝馬だったが特別レースを勝ったこともある。昭和五十年に馬の定年引退制が出来た年の最初の引退馬。

バイセン

まだ十才で現役だが、四才春から管理しており、七才時に急成長し、現在オープン。

④いろいろな規制でも、もう少しきゅう舎の人間を信用して欲しい。

小 北 定 一

①旭川市 四十七才

②昭和二十七年頃、農業のかたわら旭川、岩見沢へ行ったのが最初で、昭和四十五年頃から水田の方は休耕状態となり、競馬を本業とするようになる。昭和五十三年より調教専業。

昭和五十二年一月に行なわれた旭川の新馬登録検査で、右ヒザを馬に蹴られて複雑骨折。以来右ヒザは十分にのび

ない。

③クラヌマオー

昭和四十五年頃三才時平場で勝ち、帯広、岩見沢の優勝戦で各二着。馬房の割当を、もう少しふやして欲しい。

坂 下 弥 作

①岩見沢市 五十八才

②昭和三十年頃から農業をやるかたわらで、岩見沢、旭川へ出るようになり、昭和三十五年頃から四市を廻るようになる。昭和五十三年より調教専業。

③ホーサク

最初の持ち馬。草ばんばで強かったので連れて来た。五レースあたりで走るような馬だったが着外はほとんどなかった。

ゴークン

粟毛で四、五才時から五年間いた。レースに出れば一着か二着で、これで本格的に競馬をやることになる。トチフジ

昭和四十九年の秋の伝賃検査で陽性となり法令により殺処分。

坂 本 和 昭

①端野町 四十三才

②電気製品の卸販売業からの転職という変わり種。昭和三十二年に北見と旭川に出る。昭和三十八年からは商売の方は身内にまかせ、本格的に四市を廻るようになる。昭和五十二年より調教専業。騎手時代は体重で随分苦労した。

③サカエコマ

昭和四十四、五年に最も活躍。毎年特別レースで二回は優勝した。ナンブフジ

昭和四十年頃、特別ばかり七連勝したことがある。

定 塚 俊 男

①新十津川町 四十八才

②小さい頃から馬好きで、本業（造材）の暇を見ては各地の祭典ばんばに出場していたが、昭和三十六年よりばんばい競走の騎手免許を取得。機械化により次第に造材の仕事がなくなり、競馬が本業となる。昭和五十三年より調教専業。この年、リーディングトレーナー二位。

③ギャラン

B級だが昭和四十七年に岩見沢の

重賞競走を二連勝。その後しばらくして疝痛でへい死。当時七才。

田 上 正

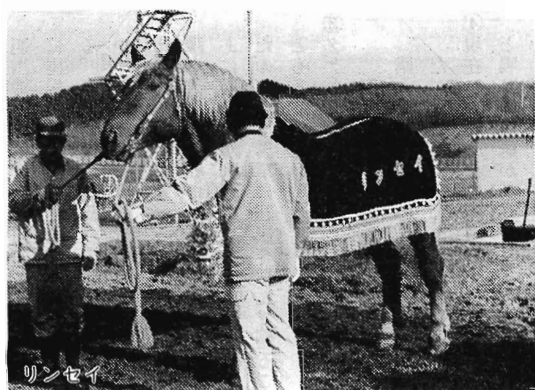
①下川町 五十八才

②農業をやっていたが、昭和四十四年にホウライという馬が草ばんばで強かったので出してみようと思ひ連れて来たのがきっかけ。

息子の忠夫君が騎手になったので昭和五十二年より調教専業となる。

③リンセイ

昭和四十六年、三才時十三戦四勝。その後堅実な成績を残し、昭和五十三年に定年引退。土別市で種牡馬となり、五十四年度七十五頭位に付けた。この馬がいなかったら競馬から手を引いていたかもしれない。



リンセイ



ワカソラチ

谷内 二三松

①美唄市 六十才

②昭和三十三年頃から石炭運搬業のかたわらで、岩見沢競馬だけに出ていたが昭和三十六年頃から、夏はばんえい、冬は石炭運搬業となる。昭和五十年より調教専業。

③ワカソラチ

昭和五十三年に定年引退。三才時よりずっと管理して愛着が深い。定年時には一、一〇〇キロぐらいあった大きな馬で、おとなしく扱い易かった。現在、岩内町で種雄馬となっている。

辻本 誠作

①大樹町 三十六才

②昭和三十九年頃から中西きゆう舎で、トラック輸送の仕事しながら、きゆう務員もやるようになる。昭和四十三年にニシキ(五才)を購入し、次年より自分で乗ってみたくなり騎手となる。昭和五十三年より調教専業。

③ニシキ

さほど強い馬でなく、したがって人気もあまりなかったが、たまに頭を取って穴をあけていた。

コダマスピード

三才時(昭和五十年)帯広の黒百合賞、四才時旭クインカップで優勝。現在も現役で活躍中。

長 沢 豊 秋

①音更町 五十五才

②たいして馬が好きだというわけでもなかったが生産地(十勝種畜場)の近くで生まれ育ったので刺激を受ける。昭和三十年頃から二、三頭の馬を連れて帯広競馬に出場。昭和四十年頃から農業の暇を見て他市にも出かけるようになり、四十二年頃から本格的に身を入れる。昭和五十三年より調教専業。

③タカユキ(先代)

鹿毛の小さな馬だったが、六才時(昭和四十年頃)六回出場して四回優勝した。

マンタレント(先代)

六、七年前に引退したが、最後のレースで勝った。

④きゆう舎内に娯楽施設が必要。特に幼児に対する施設についてはぜひ考えていただきたい。

中 条 照 男

①士別市 四十七才

②草ばんばで遊んでいるうちに、本番のレースで乗りたくなり昭和四十四年より騎手になる。昭和五十三年より調教専業。

③ミドリコマ

昭和四十五年に北見で楽勝。これが騎手として初勝利。

④自分の管理している馬が無事にゴールインするとホッとする。

中 坪 時 雄

①富良野市 四十三才

②夏は農業、冬は造材をやっていたが、昭和三十六年頃から台間を見て競馬に

出るようになる。長男で農家の跡継ぎだったが、昭和四十四年頃弟に譲り競馬で生計をたてるようになる。昭和五十三年より調教専業。

③ダイニユウシン

昭和三十八年六才で初出走。丙級から走り、四連勝。当時はまだ農業が本業で競馬に本腰を入れるつもりもなかったので三浦忠さんに売った。以後、オープンバリバリに成長し持っていたらと惜しまれる。

④昔は家の者には山へ造材に行くと言って、馬を連れて競馬場に来たものだった。

中 西 関 松

①新十津川町 六十才

②運搬業のかたわら、戦前から近隣の市町村で行なわれる草ばんばには、ほとんど出ていた。昭和二十二年に旭川で公認のばんえい競馬が開催されると、待つてましたとばかりに参加、以来ほとんどばんえい一筋に生きている。昭和五十三年調騎分離により調教専業となるまで、ほぼ三十年間ばんえいの騎手として大活躍。その騎乗法、特に障害におけるうまさには定評があった。

③ヤスヒラ

昭和三十四年と三十五年、二年連続農林大臣賞優勝。当時一着賞金五万円。

トカチャマ

当時、農林大臣賞を取ると他の競走でも二十キロのハンデをつけられ

ることになっていたので、出さないうでいたのだが、昭和四十三年冬へモで死んでしまった。

ハルトカチ

昭和四十四年、四十五年と農林大臣賞を二年連続獲得。

④騎手時代十二年連続リーディングジョッキー。一度ヤスヒラで騎乗停止処分を食って対象から漏れたがその後、再び四、五年連続リーディング一位となる。正確な記録はないが三十年間の騎手生活を通して二、〇〇〇勝ぐらいはしたと思う。

長 野 清 勝

①新得町 五十四才

②昭和二十四年帯広で初めて開催された道宮のばんえい競走に出場。当時は本業の農業が忙しかつたので帯広で開催される時しか行かなかつた。昔から馬好きで草ばんばにはよく行っていた。だんだん賞金、諸手当も上がり、競馬で食えるようになって来たので昭和四十年頃から本格的にやるようになった。昭和五十三年より調教専業。

③タカラボタン

昭和五十一年で引退。距毛の長い馬で有名だった。現在、別海町で種牡馬となつて、その仔が今年より出てくる。

④十五、六年前帯広競馬のリーディング一位になったことがある。賞品は藤丸デパートの賞品券だった。

中村 清 信

①端野町 七十一才

②戦後、公認のばんえい競走が旭川で開催されて以来、今まで一回も休まず競馬に來ている。当初は出場する馬が足りずに主催者の人達と馬集めに歩いたりもした。

父親は石川県の出身で屯田兵として北海道に來て以來住みつき、戦前は冬は造材、夏は馬を使って原野を二、五〇〇町歩位開墾したという。

最近では心臓の調子があまりよくなく、医者と薬のやつかいになっていいるが、口の方は相変わらず達者で廻りを笑わせている。「キヨさん」の愛称で親しまれる好好爺である。

③コウリョク

栗毛の見張えする牝馬で、もらったメダルが九〇個以上ある。数年前に死んでしまったがその仔キリョクの仔二代目コウリョクが三才時でデビュー。能力試験は受かったがさっぱり。キリョクの仔で大臣賞に出るような馬を育てたいという夢を持っている。

④ここまで盛んになったばんえい、ますます発展し、続けてほしい。

最近の若い者は馬に対する愛情に欠けるきらいがある。

夏井 孝

①美瑛町 四十七才

②昭和二十五年頃、馬が足りないので出てくれという葉書が來て、旭川や岩見

沢に出るようになった。本業は馬車輸送業で、上芦別の営林署で造材をやったりしていたが、十二、三年前から本格的に競馬を職業と認識するようになった。昭和五十三年より調教専業。

③フクタカラ

鹿毛の牝馬。五年働いて昭和五十年に引退。中堅クラスでそこそこの稼ぎをしてくれて、かなり助けられた。

マサユキ

昨年夏、ヘモから蹄葉炎を併発し五才で死亡。三才時層雲賞、四才時文月賞で優勝、その他重賞競走で上位に入着するなど大活躍。期待も大きい馬だったので死んでしまった時にはガックリきた。

野々宮 重 樹

①新十津川町 六十一才

②戦前から軍用馬の鍛練指導員、種牡馬の育成等をやっており、草ばんばにもよく馬を出していた。

戦後、昭和二十二年最初の年に一年だけ出場したが、その後は休み、再び、昭和四十年より本格的。

③ブルーキング (初代)

トウリュウ

七才時より昭和五十年に十二才で引退するまで、オープンでよく働き、現在調教師としてやって行く基礎作りとなった馬。

ブルーキング (二代目)

五才時に準オープンあたりまで出

世し、これからと思つてた時にヘモで死ぬ。

④それぞれの馬のクセや特徴をよく認識し、騎手に伝え指示する。調教は自分でやることが多い。

橋 本 豊

①美瑛市 五十二才

②元來は家畜商。養豚業も約二十年間やる。昭和四十四年騎手になる。金山騎手と同期だが、歳はずっと上。北海道家畜商組合の理事を八年間努め、昭和五十一年勇退する時、優良家畜商の表彰を受ける。競馬場で開かれる臨時市場でも市場鑑定人としてその実力を存分に発揮する。二年ほどブランクがあったが昭和五十四年より調教師としても活躍している。

③トカチマル

騎手になりたての頃買った馬で、五十一年に定年になるまで中堅クラスで堅実に走る。名のとおり帯広で強かった現在には本別町で種牡馬となり、今年からその仔の三才馬が三頭入きゅうの予定。

ユウザン

昭和五十年旭シルバークップで優勝した後休養中へモで死亡。六才というまだまだこれからという年齢で非常に残念であった。

④競走経歴のある種牡馬は競走名を載せるようになったが、肌馬も競走名を使うようになると思う。

長 谷 功

①妹背牛町 四十七才

②昭和四十二年に同郷の木村調教師に誘われて、きゅう務員として働くようになる。昭和四十七年に調騎兼乗騎手、昭和五十三年より調教専業。

③キョーリユウ

昭和四十七年頃岩見沢で特別レースに優勝し、副賞に夏ぶとんをもらった思い出があるが、その後骨軟症にかかり、馬体検査ではねられてしまった。

リキヤマト

昭和四十八年に平場で三連勝。

島 中 芳 勝

①旭川市 五十四才

②昭和二十八年から道営競馬にアラブと速歩競走の馬を連れて行き馬主きゅう務員となる。当時福井姓。

昭和三十三年に栗沢町の島中家へ養子に行き、ばんえいを手がけることになる。昭和五十二年より調教専業。

③ハツキン

ばんえいに來た頃いた馬で、二着ばかりだった。

林 正 男

①小清水町 四十才

②造材、家畜商、旅館業をやりながら、昭和三十九年から競走に出るようになる。当初はほとんど北見にしか出場しなかつたが、昭和四十五年頃から全市を廻るようになる。

現在はハヤホマレ、キヨヒメ、ダイケ

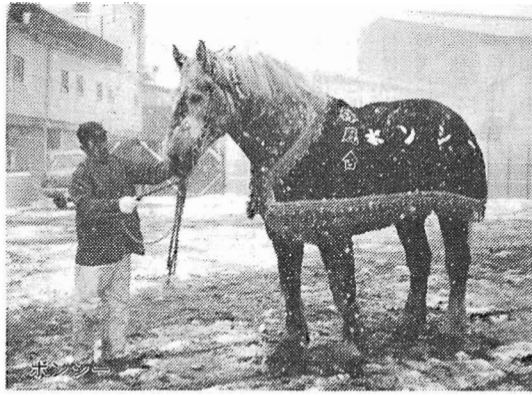
ツの三頭のオープン馬を抱え、その他にも優秀な馬多数あり、我が世の春を満喫している。昭和五十三年より調教専業。

③カザン

昭和三十九年ばんえいの騎手として最初の一勝を上げた馬。

ボンシー

四年間働いた後、昭和五十一年に



害に於いて、自分の騎乗した馬に腹部を蹴られたが、苦しみながら根性で入線。ただちに病院に運ばれたが、腎臓に損傷を受けており、一月半入院。その後、その年の秋には競馬場に元気な姿を見せて、関係者をホッとさせた。

晴披 孝治

①厩栖町 四十九才

昭和三十年から水田耕作の合間をみて旭川競馬に出場していたが、二、三年後には他市の競馬にも行くようになり、昭和四十三年頃から本格的に取り組むようになった。昭和五十一年より調教専業。昭和五十三年からは調騎会の会長に選ばれ、きゅう舎内の意見の取り集めや主催者側との交渉に手腕を振っ

ている。

③ドンキオー

九〇〇キロ位でさほど大きい馬ではなかったが、障害は抜群に上手で、五才時より昭和四十六年、十三才で引退するまでの間に、優勝、特別レースだけでも三十勝以上した。

ホクシンオーザ

昭和四十五年頃B級で活躍。当時一番の高馬だったが、気むずかしいところがあり、気が向けば抜群の強さを見せたが、気げんの悪い時は全然走らなかつた。

ワカテリユウ

長くオープンで活躍。軽馬場ではあまり動かなかつたが、力のある馬で馬場が重い時などタイムのかかるレースに強さを発揮した。昭和五十一年の農林大臣賞が引退レースとなつた。

ヒラマザン

三才時より昭和五十四年に引退するまで中堅クラスで活躍。芦毛の真白にきれいな馬で、また健康でおとなしく、取り扱いも楽だつた。

④現在、一レース十頭までしか走れないが、馬場を広くして、もつと頭数をふやせば、レースは面白くなるし売り上げも上がるのではないか。

日誌 政幸

①美深町 四十七才

②十六、七才の頃から各地の草ばんばに掛けており、昭和四十三年より、本

番のばんえいに出場するようになる。

③ダイニロカルノ

昭和四十三年、種牡馬の予備馬として払い下げられたのを九才で連れて来たら、能力試験も愛かり、競走でもいい成績を上げたので、競馬でやつて行こうと決意するようになる。

④管理馬の飼薬の量に注意を払い、ヘモや疝痛を起こさないように気をつけている。

平田 正一

①津別町 六十九才

②昭和二十一年に旧北見競馬場落成の記念競馬から参加した。昭和二十三年に中断されていた旭川、帯広のばんえい競走が翌年再開されると飛んで行って出場している。驍馬のない時は山で造材の仕事をしていた。当時は売り上げもたいしたことなく、したがって賞金、諸手当も安かつたので、ほとんどの人がそうであつたように、山で稼いで、馬で吐き出していた。最初のうちは競馬は道楽でしかなかったが、二十年位前から職業として認識するようになり、十年位前からそれだけで食えるようになった。昭和四十九年調教専業。明治生まれだが、まだまだ元気で管理馬の運動はほとんど自分でしている。

③ニホンザクラ

四才時より昭和四十八年に定年引退するまで十年間堅実に働き、獲得したメダル多数。
シャリイチ

昭和四十六年と四十七年には農林大臣賞に二連勝するなど、一世を風びした。四十六年は二着にも人気のトキミノルが入り、連勝複式の払戻しが一八〇円という、ばんえい史上まれに見る低配当。

ガロン
昭和四十九年、この年で引退という時に調教中に腿を切断して殺処分。
藤川 晴雄

た。調教師の中で一番の長身。
③ジョウホウ
初めて本番のレースで騎乗した馬。三才時七〇〇キロ位の小さな馬だったが抜群に強く、他馬がまだ砂障害でモタモタしているのにゴールインしたこともあった。昭和四十五年、運動中に心臓マヒで死んだ。まだ六才だった。

④調教はかなりきつくやる。その方が食欲も出るし馬にとつてもいいと思う。
前原 芳郎
①上富良野町 四十七才
②畑作農家であり、耕作には馬を作っていたので、以前から草ばんばにはよく出ていた。昭和四十三年から騎手になり、昭和四十六年には一一四戦三十一勝、勝率二割七分六厘で勝率一位となり地全協より表彰を受けた。昭和五十二年より調教専業。
③タンリュウ

昭和五十年、岩見沢でマロニエ賞、スポニチ賞に勝つ。
④調教師も定年引退制がひかれ、今年限りということになるが、この一年悔いのないよう精一杯やりたい。引退したら、今度は馬券でも買いに来るさ。

①美瑛町 六十三才
②旭川のばんえい功労者の一人。昭和二十年旭川競馬場で開催された馬頭観音のお祭りばんばから、昭和二十二年馬匹組合主催のばんえい競走、そして昭和二十四年から道の主催へと移る。ばんえい草創期から、主催者と一緒になつて努力して来た。
③コザクラ
昭和二十六年三才時より出走。気

かない馬で強かったが、八才の時、山へ仕事に出かけた際、足を骨折してダメになってしまった。
④昭和三十年頃、山で仕事、右膝下を四ヶ所骨折。以来右足が少し短くなつた。昭和四十六年には、練習走路で調教中、その下じきになり、周囲にいた人達は死んでしまったかと思つたそうだが、あばら骨にひびが入つた程度で助かった。

①深川市 五十二才
②戦前、平地の別当をやつて馬にはコリていたが、根が好きだったので、昭和三十五年頃からばんえい競馬に来るようになった。最初のうちは木村きゅう舎で馬主きゅう務員としてやっていたが昭和四十一年から騎手になる。昭和五十三年から調教専業。

①浦幌町 四十九才
②種牡馬の管理が本業であつたが、昭和二十九年の七月に帯広に種馬を連れて来て出したのが最初。(当時は繁殖に使われた馬でも出走できた。)益までは種付けの仕事が忙しくて、益すぎてから競馬に来ていたが、昭和三十五年頃から種馬を競走に使えなくなったので、本格的に競馬の方をやるようになった。

①旭川市 六十四才
②米作をやっていたが減反政策で休耕となり、昭和四十二年から騎手をやるようになる。四十四、五年は稼業の都合で競馬の方は休業し、四十八年から調教専業となる。ばんえいの騎手としてはさほど長くないが、馬とのつきあいは古く、戦時中は騎兵隊に所属していた。

③カチハナ
繁殖に使っていたのだが、とまらなくて競走に連れて来た。ノルマン系の馬で大チカラはなかったが、始めて足が早かった。

昭和五十三年より調教専業。
③ホウエイ(血統名宝恵)
草ばんばで強かつたので昭和二十九年に連れて来たら優勝した。この時の賞金が一万円で、岩見沢まで貨車で運んだら七千円も取られた。

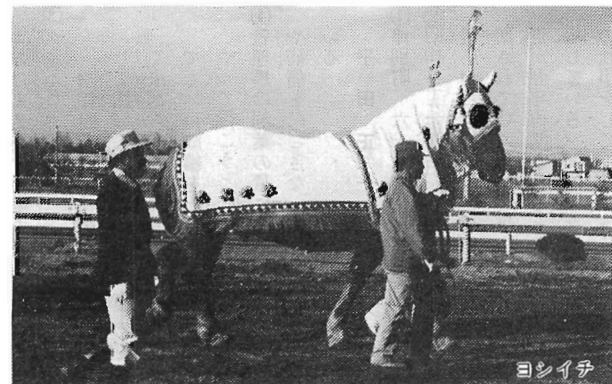
①カチハナ
繁殖に使っていたのだが、とまらなくて競走に連れて来た。ノルマン系の馬で大チカラはなかったが、始めて足が早かった。

③カチハナ
繁殖に使っていたのだが、とまらなくて競走に連れて来た。ノルマン系の馬で大チカラはなかったが、始めて足が早かった。

パンツバメ
昭和四十九年に引退したオープン馬で、一年に二つや三つは必ず大きいところで頭を取つた。

③カチハナ
繁殖に使っていたのだが、とまらなくて競走に連れて来た。ノルマン系の馬で大チカラはなかったが、始めて足が早かった。

③カチハナ
繁殖に使っていたのだが、とまらなくて競走に連れて来た。ノルマン系の馬で大チカラはなかったが、始めて足が早かった。



ランクされ、古馬と五分に戦っていた。同年代のハクリユウと共にその前途は洋々たるものがあつたが、五才の春、開幕を前に腸捻転で死んでしまった。三才時のイレネー記念で勝ったレースが一番印象に残る。

ダイイチカツエイ

四才オープンで行われるばんえい優駿を昭和四十九年に取ったレースが忘れられない。

松井 浩

①旭川市 四十一才

②祖父が馬の家畜商をやっていた関係で子供の頃から馬には馴染んでいた。父親が昭和二十五年頃から騎手となっていたので、昭和三十八年頃から競馬場に入入りしていたが昭和四十一年から騎手になる。昭和五十二年から調教専業。

③マツニシキ

父親が最初に競走に出した馬。

ヨシイチ

六才で購入し、最後はオープンまで成長した。昭和五十二年に引退後、地全協に買い上げられ騎手教養所に配属されていたが、五十四年春、へい死。

④移動が多いのだから、主催者は馬種や寝むら等の便宜を計ってほしい。

松原 仁三郎

①訓子府町 六十五才

②昭和二十二年、市から募集があつたので二、三頭連れて北見競馬に出場した

のはじまりで、各市を廻るようになった。後には毎年十五、六頭出すようになった。その騎乗技術には定評があり、技能賞はほとんど独占した。中西という強力なライバスのがいたが、リーディングジョッキーにも何回もなつた。昭和五十三年から調教分離になり、調教専業となつたが、自分としては騎乗の方もまだまだ自信があつたし止めたくはなかつた。

③キリン

昭和二十四年頃大活躍、連戦連勝でほとんど敵なしだった。体重は八三〇キロぐらいで当時としては大きい方。

ベニアラシ

昭和四十六年十三才の定年で引退するまで、一六〇個以上のメダルをもらつた。八、九才時には甲級の特別レースだけでも四連勝するなど大活躍であつた。残念ながら騙馬で種馬にはできなく、引退後は東北の花巻で草ばんに出ていたが、二、三年前病気で死んだと聞く。

④岩見沢の第一障害はきつすぎる。帯広ぐらいがいいように思う。

三浦 忠

①札幌市 四十六才

②夏は畑作、冬は造材をやっていたが、昭和三十九年に故上田吉隆さんのところできゅう務員として働く。翌年から騎手になり、昭和五十三年より調教専業。

③ダイニユウシ

騎手になって初の一勝を上げた馬であり、昭和四十五年に十三才で定年引退するまで、甲級A級で活躍。この馬のおかげで、競馬で生きようとした。

光 富 駿 一

①深川市 三十九才

②水田農家だったが、昭和三十六年頃から旭川競馬に出るようになった。他市の競馬には、農業の合間にたまに出る程度だったが、農業より馬の方が自分に合っているような気がして昭和四十五年から本格的に取り組むようになった。昭和五十三年より調教専業。翌年には勝率丁度二割でリーディングトレーナーに輝く。

③タカラコマ

昭和四十五年三才時十六戦七勝、四才時、十四戦九勝で三、四才時はその年代のNo.1だった。五才になって尾ヶ瀬さんへ行く。

シゲノハラ

昭和四十六年三才時十九戦八勝。三才の競馬が終つて松井さんへ行く。タカラコマとシゲノハラで三才の重賞競走イレネー記念を二連勝。

パンユウハ

昭和四十七年三才時十七戦七勝、一七二万七千円の賞金を獲得し断然トップ。四才時には大井競馬場で行なわれたアトラクションにも選ばれて参加した。七才まで数々の重賞レ

ースで優勝するなど常に好走して来たが八才時後肢の故障で引退。現在石狩町で種牡馬となっている。

南坂 俊雄

①美深町 五十八才

②家畜商をやっており、故上田師と親交があつたので、昭和二十八年頃から旭川に馬主として馬を出していたが、昭和三十一年から騎手としてときどき競馬に出るようになった。四十二、三年は仕事の都合で休んだが、以後競馬の方が本業になり、昭和五十二年より調教専業。

③いままでに百頭以上の馬を競走に出したが、みな好成绩を修めた。コマガタ、アンテン等いたがテンリュウは昭和三十六年頃、特別レースばかり七連勝したこともあつた。愛ちゃん太郎の嫁になる」という歌がはやっていた頃、タローという鹿毛の強い馬がいたので、牝馬にアイチャンと名付けて競走に出し、人気を博した。

④調教以外は常に馬を休めるよう、また、飲料水は十分やるように気を配る。

本沢 政一

①美瑛町 五十七才

②昭和二十三年にシベリア抑留から解放され、帰って来てから草ばんには、よく出ている。畑作をやっていたが、昭和二十九年頃旭川競馬に出場し、三十二年頃から他市にも行くようになった。昭和五十一年より調教専業。この年、リーディングトレーナーに輝く。

③ ヤマトオーザ

三才時八戦七勝と抜群の成績。四才時より中西さんへ移動。

テシオイケ

二年間で二十勝以上あげた甲馬だが昭和四十三年の冬、山へ行つた時、ぬかるみに足をとられたはずみで腹に木がささり死んでしまった。



ハルニミダイ

山下正光

① 名寄市 五十四才

昭和二十六年頃から旭川と岩見沢に出かけていたが、昭和三十六年頃、都市計画で水田が市に買い上げられたのを機に、競馬を本格的にやるようになった。

た。当時は名寄市近辺には、ばんえい

をやっている人はいなかったたので、地

元のいい馬を選んでこれた。昭和五十

二年より調教専業。

③ ダイニミハル

五才で購入し二年間使う。後に木村きゆう舎へ移り、農林大臣賞を取るまでに成長した。

カネイサミ

三才から五才までいた後、中村彦

四郎さんに買われオープン馬として

長く活躍した。

④ 売り上げに協力したい気持ちも十分に

あるが、移動が多すぎる。道営みらいにケ所ので四開催まとめて出来ないものか。

山本幸一

① 東川町 四十五才

馬車による砂利運搬業をやっていたが昭和三十年頃から旭川で出るようになった。他場へはたまに行く程度だったが、昭和四十年頃から本格的にやるようになった。昭和五十三年より調教専業。

③ ミスオートリ

乙馬だが鹿毛の見ばえのする牝馬だった。

アポロ

昭和四十五年

に二十五万円という

当時としては破格の値段で買ったが、

一年ほどで伝賃検査で陽性となり殺

処分。

ホームラン

この馬を買う相談をしているとこ

ろに、アポロが伝賃だという電話が

来たという因縁がある。三才より走

り昭和五十三年に定年で引退するま

で好成績を修めた。現在は旭川で種

馬になっている。

④ 二十年位前、上フの山本さんと同じレ

ースにぶつかり、同姓同名だからかまわないうらうということになり、発走地点でいたずらつて馬を起して馬を取り換えて乗った。それから東川山本、

上フ山本と区別して呼ぶようになった。

山本俊一

① 訓子府町 四十六才

運送業をやっていたが、昭和三十年頃北見へ出てみて、次の年から帯広、旭川へもポツポツ出かけるようになり、昭和四十五年頃から本格的にやるようになった。昭和五十二年より調教専業となる。

③ カネチカラ

昭和三十四年頃三才の一番上のクラスにいた。

キンシヨ

昭和四十七年に定年引退するまで

常にA級で活躍し、旭王冠賞や岩見

沢記念も取った。農林大臣賞は昭和

四十六年四着、四十七年七着。

きゆう舎内の交通について、馬も人も

車もみんな同じところを通るようにな

っているのが危険である。

山本幸一

上富良野町 四十九才

② 農業をやっていたが、昭和二十四年に

同郷の南喜四郎さんに誘われて旭川へ

行ったのがはじまり。最初は一頭連れて

行って自分で乗ったり、他の人にと

のんだりしていたが、昭和二十七年か

らは自分の馬には全部自分で乗るよう

になった。昭和五十一年には息子子の正

彦が騎手としてデビューし、翌年から

調教専業となる。騎手時代五年連続リ

ーディング二位という記録もある。

③ トキミノル

昭和四十一年、四十二年と農林大臣賞を連勝。四十六年に定年で引退するまで常にオープンで大活躍した。

今までの騎手生活で大活躍した

時が一番うれしかった。現在種牡馬

としても大活躍しており、毎年その

仔が競馬場に出て来て好成绩を修め

ている。

きゆう舎側と主催者側とで意志の疎通

に欠けるきらいがあるので、もう少し

話し合いを多くする必要があるのでよう

思う。

一人歩きの装鞍所を省りみて

光石 基

最近のばんえい競走は、年々改善研究され近代化されてきたものだとつくづく思う。このことは主催者の熱意と北海道市営競馬協議会専門職員のたゆまざる研究努力、さらに調教師、騎手の方々の積極的協力により今日の成果を得たものと感心するものである。

私がばんえい競走のサークルの中に入つたのは、昭和四十七年の春、帯広競馬場が最初の年であった。その頃はばんえい競走を知るのが初めてであり、出走馬の格付級を決める制度としては、出走馬の体重により格付区分されていた。このため出走する馬は必ず装鞍所の馬衡機で、馬体重の計量が行われたものである。馬体重を計量する担当者は、各主催市の職員の方々が担当され、それは厳重正確に行われて厳しいものであったことを記憶するのである。ある時は計量目盛りの見られる部分を張り紙で防いで相手方に見せない工夫をしたりして、如何に厳しいものかを初めて体験したものである。馬を牽付て来た騎手、厩務員等は馬を馬衡機に乗せる位置姿勢については大変な苦勞をしている様子が見られた。私の方

は、予め前走馬体重を控えて置き、今回馬体重との比較をしながら見ていたが、前走馬体重に比較し、増減の僅少なものは極端に減量されているものがあり、不審に思い注意のため質問すると仲々正直には答えてくれないのである。時には一飼完全絶食の形で水だけ飲ませてきたようなものとか、中には著しく減飼されてきたものが見受けられるので、こんな状態で競走に使用して果して全能力が発揮出来るのだろうか心配したものである。馬体重の計量が終ると装鞍所に繋がれてから腹痛らしいから休ませたいとの申出があるので、馬を調らべて見ても余り平常の状態と変っていないので、何んでもないのでないかと申し入れても、相手方の騎手や厩務員の方は頑として、強硬に病気である旨主張するため止むを得ず診療所へ下げて診てもらい、出取消の手續きを取るよう指示し装鞍所から馬を引き出させることもしばしばあったものである。折角競走に使うため連れてきたものと思つて心配したのだが、仄聞すると本音は上の級に上ることを懸念して、現状の級で次回の競走出走させたいため

の苦肉の策であることを聞かされて、初めてばんえい競走の仕組の難しいことを知つたような次第である。その後間もなく改善策が検討れて、体重制による格付が廃止され現在の賞金取得制が採用されたのである。改善されてからも馬体重の計量は依然続いて行われているが、今日では出走馬の健康状態の目安と発育の度合を気にかける程度に変わり余り神経質にならなくなり、トラブルも無くなり装鞍所も明るくなり仕事も順調に運び安心した。制度の改善から大きく変化化したことは、馬の発育が著しく良くなり体格も雄大さを増し、体重も増加する馬が目立つようになり馬格が平均的に向上し粒が揃つて来たし、本当にばんえい馬らしい力と能力を競う馬が見られるようになったが、反面において飼養管理上の問題点も多くなつてきたことは見逃せない事実で運動と調教馬格に伴う飼料給与の合理化が、ばんえい競走馬育成管理の今後の課題でなろうかと思われるようになった。装鞍所に馬が集合し終ると各レースに出走する馬について、毛色、性別、特徴照合と同時に馬体一般状態を検査するのであるが、一人で担当するため忙がしく慣れるまで仲々の苦勞と神経を使つたものである。ばん馬の場合装鞍所に入つてから下見所に移動するまでの間殆ど全馬繫留所に繋がれたままの状態で、牽馬運動をしないのが平地競走の馬と著しい違いがあり、特徴照合その他の確認作業が終るのを待つて、競走ゼッケン馬

装用具の装着にかかり始め合図までそのまま待期することになるため、歩様検査等は、皆無の状態であるため装鞍所から一斉に馬を牽出して出がけに跛行を呈する馬とか、下見所に移動の折に発見して、あわてて調らべ跛行であることを確認、各関係の職場に連絡を急いで競走除外の措置を取ることがあり、一人のため忙がしい思いをしたものである。当時は今のよう電話も競馬場によつては完備していないため急を要する折には苦勞と心配が多かつた。現在は各競馬場とも電話施設も完備したし、今日では馬場管理委員が増員されたし、馬の歩様検査等も装鞍所に入つてくる度、一頭毎に実施されるように改善され、異常の無いことを確認して繫留するようになつたので安心である。出走馬の確認がなされている折に騎手、あるいは厩務員から騎乗申込みの許可願いを口答で申込まれるため、許可を与えるとその該当の馬だけは、装鞍所から騎乗して下見所に移動するのである。平地競走の方法とは違う風景で、騎乗した馬もあれば厩務員が一人及至二人牽であつたり余り格好の良いものでなく、騎乗姿勢等も一人一人異なり、余りスマートなものではなかつたものである。次に悩んだことは、ばん馬の馴致調教は余り良くない、競走に対しての調教方法は各自馬体と級に合せてやつているようだが、馬の集団時における馬添いは馬によつては極めて悪い馬があり、特に気性の激しい雄馬が数多くいて他の馬に喧嘩

は仕掛けるし、同じレースに出走する馬の中に雌馬が数頭存在しようものなら馬同志の嫉妬心とでもいうのか、異常に興奮し騒ぎだして落着きが無く、人馬に危険が伴う事態のため、申出により繋留場所を離して置くようにして、下見所へ移動する時には、そのレースのゼッケン番号順に整列されることは到底出来ないため、許可を与えて雌馬を後方へ下げて送りこむ手段を取ることが多かったもので、下見所に集っているフアンの方からは、何か細工しているのではないかと苦情が出ることもあったものだ。そのために競馬場によっては、馬の都合で整列の順序が変更することもある旨下見所の塀に掲示してもらい、フアンに了解を求めたものである。下見所における人馬の危険防止のため止むを得ないことではあるが、ばん馬の馴致調教がいかに必要なものか痛感した。

馬場からと記憶しているが、従来の方法が更に改善されて装鞍所からの騎乗は廃止され一時心配したが、騎手の人等も協力してくれ下見所で一斉に騎乗するようになり見た目にもスマートになり、すつきりして改善の効果が現われたものだ。出走馬の下見所牽廻しもゼッケン番号順に整列して整然となり、見る方も安心したことと思う。最初の頃は不安であり心配もしたが、案ずるよりは決断で、今日では踏みきってやって良かったと思うのである。馬も質的に年々向上し、遅くなり堂々たる体軀で堂々と整列して走路に出て行く姿を見て、ばんえい競走も以前と変わったと思うのは私だけでしょうか。これからは更にばんえい競走のより公正な競馬を期するため各自が努力改善を加え、更にフアンに魅力のあるばんえい競走として、力強く発展して行くに違いないものと確信するものである。

ばんえい競走の発展と共に、衰退の途を走り続けた本道産用馬産界にも、漸やく僅かながら光明と馬産の復興を示しつつある状態で、私のように長い間本道の馬産を見てきた者にとっては、心より喜びを感じるものであります。願わくは、ばんえい競走が根幹となり、公正な競馬の運営により本道の馬産が今後確実に地道に歩んで発展することを期待するものである。

新人調教師

インタビュー

氏家 昭

三浦 孝幸

—— 出身地と年令を教えてください。

氏家 名寄市出身、四十九才

三浦 比布町出身、三十六才

—— ばんえい競走に出るようになったのはいつ頃からですか。

氏家 昭和三十年頃からだと思います。

—— 当時私の家は水田農家をやっていたとして、旭川の競馬にチョコツと出たのが最初です。

三浦 私は三十六年頃からだと思えます。砂利の運搬が本業でしたから最初の二、三年位出たのは旭川だけでした。

—— 期待している馬にはどんなのがいますか。

氏家 メイホウザンぐらいですかね。この馬はダイニメイホウザンの弟になるので、少し重量が重くなつてくるといいのじゃないかと期待しています。三才馬はやつてみなければ分かりませんが鹿毛のいいのがあるんですよ。

三浦 私のところははいませんが、テミオヒメが来ることになっていますから、これがどんなもの

んかなあと思っている程度です。

三才馬は期待できそうなのは栗毛が二頭、青毛が一頭います。たいして大きくはないのですが根性がよさそうです。でも三才馬はいいと思つたのが能力試験で落ちたり、ダメかなと思つたのが走ったりしますから分からないというのが本音です。

—— 馬の仕上げ方はどうしますか。

氏家 調教は練習走路に入れてびつとりやる方です。そしてレース当日は飼葉を少な目にして調整します。

三浦 調教はあまり強くやりません。体調だけは完全に整えるようにと思つています。レース当日の飼葉は時間を少し早めにして、量は普通にやります。

—— 最後に、所属騎手はだれになりますか。

氏家 東条登喜夫君です。

三浦 梨本照夫君が来てくれることになっています。

昭和54年3月～昭和55年2月



マスコミに 取上げられたばんえい



昭和五十四年三月から本年二月までの間にマスコミに取り上げられた「ばんえい」とその関連記事を紹介しましょう。なお、原稿は前本会事務局長内田靖夫氏よりいただいたものです。あらためて誌上よりお礼を申し上げます。

テレビ・ラジオ

1 三月三日 NHK TV

PM七・一五

今は土産馬と同じく天然記念物になっている宮崎県都井岬に放牧飼いの「みさき馬」。冬の間は林の中にひっそりと暮しているが、春二月の野焼きの頃には、燃えさかる火の彼方にのんびりと草をはむ姿を見せる。此処も今は観光バスの見せ場になっている。

2 三月三十一日 NHKラジオ

「早起き鳥」 AM五・二五

今日の農業講座は中村徳男氏の担当。前年に引き続き国庫から農耕馬飼養奨励金が交付されるという話。市場価格四七万円から七八万円までの馬がその対象となる。近頃肉価が高騰しているの、この機会に使役馬保存の見地から馬産にも力を入れていくという。

なおこの日は根室で十数頭の土産馬を飼育している中川さんが本を出すという話も電波に乗った。

3 四月一日 HBC TV

兼高かをるの「世界の旅」

AM九・〇〇

スイスの雪中競馬や湖上を駆ける馬スキー、繋駕速歩、それを御す女流騎手などを紹介する。これは七月八日再放送となった。

4 四月七日 UHB TV

AM九・四五

桂米朝さん司会の「日本の職人」で馬具師を紹介する。古今の頭絡(天七)、鞍、頸環、手錠ハミから、現代の調教用ゴムハミ、サポーターに至るまで馬具のいろいろと馬具師の名人芸を見せる。

5 四月八日 NHK TV

PM八・三〇

江別市で開催されたシルクロード展を紹介。アジアからヨーロッパへ東西交易の大動脈であったシルクロードには、多くの馬が使われ、今もなお古代の習慣がそのまま残っており、騎馬民族が精悍な集団馬術を見せている。

6 四月十四日 NHKラジオ

AM六・五〇

これも天然記念物となった対州馬。現存するのは二四〇頭で以前の十分の一にすぎないという。

7 五月四日 NHK TV

AM七・二五

朝のスタジオ一〇二で池田町のばん馬競走を見せる。毎年行なわれている「池田のばん馬」は、いま観光名物となっている。元ばんえい競走に出ていた「サクラフキ号」が、これも池田の名物とな

っている観光馬車を引いて会場に案内する。

8 六月十三日 NHK TV

AM八・〇〇

これもスタジオ一〇二の一コマ。釧路農協連の経営する年中放牧場(まき馬)では、春を迎えてつぎつぎに仔馬が生まれる。

午前一時すぎ、暗闇の中に出産の場所を探し求める一頭の農馬がカメラに近づいて来る。このような情景は深夜から夜明けにかけて見ることが多い。苦しげに横臥し、しきりに腹のあたりをかえりみる。東の空がかすかに明かくなる頃、無事に分娩は終る。このドラマ……本番は七月十九日(木)の「北海道七時半」で放送。

9 六月二十二日 NHK教育TV

PM八・〇〇

(生活の中の日本史) 諸国農民秘話「拓北の馬」

この日はシリーズ第三回目。十勝の馬とそれに係ってきた人達を集録する。

十勝種畜牧場の村井信三氏は農業機械化による馬産の減少で戦前五万頭を数えた十勝の馬は、現在約三千三百頭に減少したという。村井氏は機械部の部長さんである。

新得の平野栄次さんは十勝の各種雄馬イレネー号と十勝馬産を語る。

足寄町の関正男さんは馬の画、馬の彫刻で知られ、馬の写生帖などを見せ満州開拓義勇団の活躍ぶりを記録映画で見せ

る。

同じ足寄町の阿部庄三さんは雌阿寒岳山麓の馬産を語る。開拓時代の馬との苦闘ぶり。原始林開墾に威力を発揮した馬。馬力によるヒーポ抜根機は、直径二十センチ位の抜根を一時間に五〜六本やってのけ威力を発揮したという。

10 六月二十四日 NHK TV

新日本紀行「女たちの季節」

長崎の階段が続くせまい坂道を駄馬が木材を背負って登って行く。馬子は後から「むち」をもつてついて行く。今日は年配の女性である。これは既に本誌に載せたこともある長崎情緒たっぷりの光景。フウフウ、カタカタとひづめの音をリズムカルに響かせて、馬と馬子さんは無表情に登って行く。

11 六月三十日 NHK TV

AM七・二〇

太く逞しい馬達の群れが広い斜面を駆け上がって来る。緑一杯の丘を横切って草原を縫うように流れる小川を飛び越え水しぶきをあげて渡っていく。ばん馬生産の白糠牧場はいま春もたけなわ、ここは年中放牧で、冬には氷点下三〇度にもなることがあるという。年内三十頭の仔馬が生まれ、ばんえい競馬用として育成される。

12 七月八日 NHK TV

PM八・〇〇

この日の大河ドラマ「草燃える」は小四郎が農馬に跨って、恋人と語るシーンが出る。ひなびた村落の野道を行く二人

は幸福そのもの、戦乱の世にこれは片時の安らぎであった。馬は尾花栗毛、幸福も従順な馬がいる故に成就できた。映画やテレビには珍らしい、日本製の農馬が出演した。

13 七月十九日 NHK TV

PM七・三〇

ほっかいどう七時半「まき馬の四季」釧路市を遙かに望む広大な牧場で、いま四〇頭の親馬たちが、この春生まれた仔馬と短い夏を楽しんでいる。

一年を通じて放し飼いにされ、自然の中に育ち子供をもうける。半ば野生のこの馬たちは「まきうま」と呼ばれている。氷点下三〇度の吹雪の中、雪の下に食糧の笹を探る冬、奥深い林の中で仔馬の生まれる春、その仔馬が逞しく成長する夏、そしてせり出される仔馬が母馬から引離される秋など「まきうま」の四季折々をとらえ、道東の自然に生きる馬の逞しさと悲しさを描く。佳作。

14 七月二十一日 NHK TV

「人力ばん馬」 AM七・二〇

粟山町の人力ばん馬は毎年行われるようになつて人気が上がつて来た。

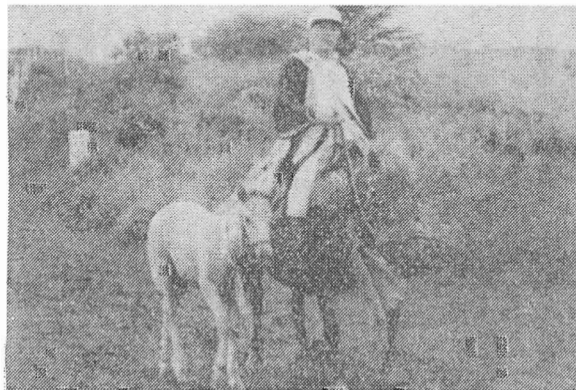
粟山駅前の本通り三〇〇米に割竹を敷いて、その上に二五〇キロ以上の重りを置き人間がひく。七俵の土俵上に御者が乗り、五人一組で、この日は十五チームが参加した。コース両側の大群衆がヤンヤの声援を送る中、選手達は汗みどろになつて懸命に引つぱる。みなヘトヘトになつてゴールにたどりつく。愉快な人力

ばん馬。

15 七月二十三日 HTB TV

AM一一・五〇

北海道和種馬保存協会が主催する「富士登山隊」出発の日。北方領土返還悲願の白たすきをかけた会員五人、土さんこ六頭は、道庁前で副知事の激励を受け元気に出発した。可愛いトネッコが一頭同行する。途中函館で五頭が合流し、一行十一頭は翌二十四日東京着。農水省その他に挨拶し、夕刻には御殿場に到着。翌二十五日にはトラックで五合目の登山口まで行き、出発式をあげ、午前七時半から登山開始、十一時すぎに頂上に達した。随伴したトネッコも無事頂上を極め、午後三時半頃には登山口に帰つたという。



富士登頂に成功した富士姫と母親の新山

富士登山はこれで二度目の成功。土産馬の威力を発揮した。

16 七月二十四日 NHK TV

AM七・五〇

「スタジオオー」でイタリアのシェーナ、ナスカニー二地方で行われる「騎馬祭」を見せた。

先ず、旗振り（スターター）など役員が乗っている華麗な乗用四輪馬車を先頭にして中世の騎士の服装を着た人達が十頭の農馬に打ちまたがってやってくる。いずれも裸馬だ。だから愉快。やがてレースが始まる。馬場は一周四〇〇米。酒を飲み踊る。楽隊が奏でる賑やかな音楽が鳴り渡る。大観衆の中を大型の馬が駆け抜ける。落馬、落馬の連続。踊り狂つて失神者も出る始末。いつも数人の怪我人が出るという。楽しくも大変な農村のお祭りである。

17 八月十日 NHK TV

PM七・三〇

人気番組「ホントにホント」にばんえいの着順はどこで判定するかという論議。馬のハナ先きか、胸先きか、馬のシリか、そりの後端かとして、当てる人はふたり。答えはもちろんそりの後端。

18 八月十二日 NHK TV

AM七・三〇

「まき馬の四季」テレビではお馴染みの釧路白糠町の釧路農協連経営牧場まきうまの生態描写。広大な牧場に群をなして逃げまどう馬をパドックに追込み、投げ縄で捕える。

トラックに積み込まれた親子は離れ行く友馬にいななきかけるが、トラックは容赦なく一本道を非情に走り去っていく。青く広がる大空。緑の原野……

ここ数年、馬市は頗る活況を呈して、将来の馬産は益々有望といわれている。

ばんえいの進展と肉値段の高騰がそれに拍車をかけている。

19 八月二十七日 NHK TV
AM 八・〇〇

シルクロードにある小都市イリ市の馬祭り。男女入り乱れて荒れ馬を左右に御し乍ら、ムチで帽子を取り合い落す。さすがに馬産の国である。

イリ市はチベット系小教民族の街。海拔四、〇〇〇米にある秀麗な山岳地帯だ。街の中央には回教の寺院がある。古代ローラン王国の発掘による大仏の発見で殊更に有名になった。砂漠は夏期七〇度にもなるといふ。

20 十月十八日 STV TV
PM 一・一五

夜の人気番組「11PM」でいまは年中行事ともなったばんえい番組。今年も九年目になる。題目は相変わらず艶つぽく「男と女相うつ肉弾戦……第九回11PM杯ばんえい競馬」とある。しかし内容は題目ほどでもない。

先づ一昨年旭川昭和通りに開店した大型スナック「ばんえい」の紹介から始まる。ここではパーテンさんを始め女の店員さん達も皆騎手服を着用してのサービス。店内には所狭しとばんえいの馬具、

馬そりが飾られ、また六階建のビルの壁面には二米四方のばんえい大看板をあげていることでも有名。店主はばんえいの馬主でもある山田さん。この看板画は本誌第六号の表紙画を復写したもの。話はばんえい許論家前田量平氏の説明で進行する。馬の値段、種村料、農耕種雄馬の種付頭数。馬の顔の長さは七五センチ位など。だんだん話は専門的になり、調教師の野々宮師、中西師、騎手の金山氏、

最後に調騎協会会長の晴披師がそれぞればんえいを語る。さて愈々11PM杯特別競走。出演者の他に全国六地区代表の勝馬予想があつてレースが始まる。出場頭数は九頭。熱戦の末、木村騎手の五号馬ツガルフジが勝つた。九年間司会をつとめてきた藤本氏は九連敗。この的中したのは映画評論家水野晴郎氏ただ一人。賞品は馬鈴薯五〇キロとは面白い。



11PM 旭川競馬場

21 十一月二十九日 NHK TV
PM 七・三〇
木曜夜のレギュラー番組「北海道七時半」

この日は「ムツゴロウの草競馬」特集。ムツゴロウこと畑正憲さんは三、四屯のトラックに持ち馬を積んでやってくる。ここは別海町の特設競馬場。広さは約一〇万平方米、甲子園球場の約十倍はあるという広場に一周八〇〇米の馬場が設けられている。

町内の馬好き連中が集まっている。いづれも大型ばん馬、農耕馬、土産子をひきつれての集合だ。中にはトロッターも四、五頭いる。会場周辺には大勢のファンが集まり大賑わい。やがて別海大鼓が鳴り渡り、馬場清め式が始まる。町長さんが厳かに玉串を捧げる。神前の供物の中に光るのは超大型のキングサーモン。火花が上つていよいよレースが始まる。

ムツゴロウさんはまずトロッターによるけい競競走に出場。今どきトロッターレースは珍らしい。ムツゴロウさんの馬にはハンデキャップがつけられているが、「ともキャンター」に「駆けキャンター」の連続で遅れてしまう。本物なら勿論失格だが四頭立の四着ということでケリ。待望の甲級ばんえいではムツゴロウさんの馬は最も偉大で最も期待されてたが惜しくも二着。

最後は特設イケスに放たれた西別川の大鮭つかみどり。北海道ならではの絶対見られぬ庄巻。別海町の草競馬風景。

22 十二月六日 NHK ラジオ

AM五・〇五

「早起き馬」農業の時間ではこの朝、青森県三本木農協の輸入ばんばを電波にのせた。同農協ではこの秋フランスからブルトン、ペルシユロンの二才馬四頭を輸入した。目的はばんば用馬の生産にある。一頭の代金は一四一万円での内訳は馬代金四〇万円、輸送費六〇万円、検疫費四一万円。

六週間に渡る輸送で馬はやせているが、静かに喚わせる主義で徐々に肥らせ、ABCの階級をつけて組合員に分配した。第一回はA級一八〇万円で八頭、B級一六一万円で五頭、C級一三五万七千円で六頭が分配された。分配を決める抽せん会には組合長も出席し、先づ抽せん順序を決める抽せんから始まる。組合員は米は減反になり牛豚は飼料代が高く前途が暗い。馬を買う金を出すのは大変だがばんばリースの盛大と馬の値段が上がるのを目標にして馬産に力を入れていきたい。組合のバックアップもあるし肉値としても牛より採算よく、牛一頭分で馬二頭育成できるといふ。

23 十二月二十五日 NHK TV

「ニュースネット北海道」

PM六・四〇

南富良野の松岡洋助さんは十三才のオス農耕馬に馬そりを曳かせて今日も十勝の山に入る。一冬分の燃料として薪出しに行くのだ。持ち山の風倒木や枯枝でほとんど一冬分の薪が賄えるという。これ

も「馬のお蔭」と石油暴騰、省エネ時代もどこふく風といった顔。

24 十二月三十日 HBCラジオ

PM八・三〇

ばんばラジオ放送としては最近の佳作。

ばんば……これは北海道の自然が生んだスピードと力のスポーツだ。強くなければ馬でない——北海道で生まれ育ったばんば競走は、世界にも例をみない豪快なレースである。北海道の開拓者たちは北の風土に合う強い馬——道産ペルシユロンをつくりあげた。農耕の合間、馬の訓練のため、自らの楽しみのため、ソリに俵を積みあげて愛馬に曳かせ力を競い合った。坂道、どろんこ道をば声、鞭音乱れて走る激しいレース。現在は公営として六百頭余りのペルシユロンがレースに参加、道内外に多くのファンをもつ娯楽スポーツとなった。サラブレッドのレースとは全く違った雰囲気、一トンの鉄ぞりをひき、騎手は容赦なく馬の尻を叩き、馬はけつぱり、ひき、走る。観客席からヨイシヨ、ヨイシヨのかけ声もかかる。一レースに一億円を越す売上げも記録される。

リーディングジョッキーは「おらがヒーロー」である。十月二十一日旭川競馬場で行われた、ばんばのメインイベント「農林水産大臣賞典レース」を中心に人気ジョッキー金山明彦にスポットをあて、そのばんば人生をビッグなサウンドで構成する。この作品は馬が擬人法で語り

かける進行が面白い。例えば「俺の一番好きなのは明ちゃん（金山明彦）のかわちやんだ。とてもやさしい。可愛い三才をテスト（能力調教試験）に出す時、はたかれないでいきなさい（叩れないようにして）どんでん走り合格しなさい」と言うて肩を叩いてくれるんだ。」といった具合に金山騎手夫人の馬に対する愛情を示す。

各地方の「自然の音」を取り上げラジオでなければできない「日本列島の音のカタログ」をつくりあげようというJRN共同制作「激録サウンド日本列島」の中の一巻。HBCラジオ制作の「ばんば……鞭音高く走れペルシユロン」



農林水産大臣賞典レース

1 六月七日 北海タイムス

愛馬にまたがり火の用心

北見市本沢に住む畑山勇さん(七〇)は若い頃木こりなど山に入つて仕事をしていたが、復員してからはずっと農業。

家の裏手が市有林だったこともあり、昭和二十八年から市有林監視員を務めている。森林愛護組合員でもある畑山さんは、

山火事防止を訴える効果的な方法を考えていたが、思いついたのが馬上からの呼びかけ。ただ歩くのよりずっと人目につく」と昭和四十年ごろから馬に乗って山火事防止を訴えている。

馬は二十歳にもなろうという「春風号」。

畑山さんは「春風号」の背にまたがり、右手には「山火事注意」と染め抜いた赤い旗を、左手にはラッパを持ち、吹き鳴らしながら、パツカ、パツカと歩く。コースは本沢の自宅から相内の国道三九号

に出て市街地を回り、再び自宅までの十二、三キロ。春風号は国道に出ても、人や車に驚くこともなくゆう然と歩く。畑山さんは「これからも体の続く限り、馬上から山火事防止を訴えていく」と意気軒昂。

2 七月三日 毎日新聞

ひっそりと馬肉増産

最近、馬肉の人氣が上昇し、需要に追いつけないという。高タンパク低脂肪が太目をきらう女性にうけているのが原因

とか。農林水産省は今年から補助金をつけて、ひそかに本道で馬肉増産を図る。この補助事業は正式には農用馬資源確保

対策といい、同省が馬の予算をつけたのは十数年ぶり。補助額は三千万円で、うち一千万円は道負担。今年度七十五頭のメス馬を輸入、農協を通して農家へ貸し付ける。ベルシユロン、ベルジャンなどばんえいでおなじみの大型馬。

馬肉は、北海道ではあまり食べる習慣はないが、九州や長野、山梨県中心に馬サシとして刺し身にしてよく食べられている。牛肉一〇〇グラムが一〇一カロリーに対して馬肉は一〇二カロリー。タンパク質は馬の方がやや多く、脂肪は牛肉の三・三グラムに対して馬は二・二グラムで少ない。美容食としても脚光を浴び始めた。

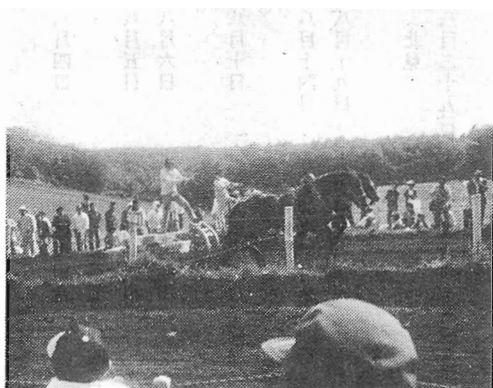
3 九月二十四日 北海タイムス

復活ばん馬に声援

九月二十三日、恵庭市盤尻の牧場ではん馬をはじめとする第二回恵庭家畜競技大会がにぎやかに繰り広げられた。この大会は二十年前に同市でも盛んに行われていたばん馬を復活させようと、道各種馬保存協会道央支部や地元の水産牧場などが共催、昨年から始まった。

ユーモラスなブタ追いレースや道産子とポニーのレース、乗馬の模範演技などがありメーンのばん馬競走には地元をはじめ遠く根室や函館など道内各地から約七十頭が参加、白熱した二十レースを行った。会場には弁当持参の家族連れなど

約二千人が詰めかけ、午後三時半すぎまでに終わった。



第2回恵庭家畜競技大会

渚滑地区はかつて農耕馬の一大生産地であった。機械化以前は、農家の人たちにとって頼もしいエースだった。だが農機具類の普及とともに馬の数は確実に減少している。紋別市が調べた統計によると管内の馬飼育農家と頭数は

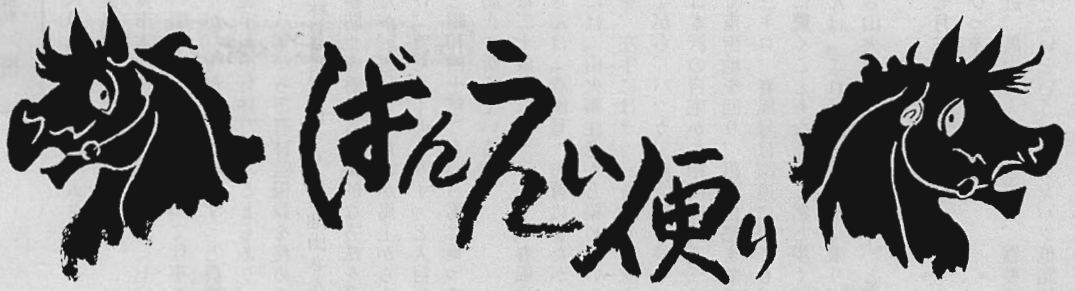
昭和三十年一、一九七戸 二、五一三頭
昭和四十年 七二八戸 八六八頭
昭和五十二年 七七戸 八九頭
と落ち込んでいる。

しかし、渚滑の人たちすべてが馬のことを忘れたわけではない。その表れが毎年秋に開催される『紋別ばんえい競技大会』。今年は九月十五日に紋別家畜市場の敷地で行われた。同競技会は昭和三十年ごろまでにぎやかに催されていたが、馬の減少とともにいったん姿を消した。だが「草ばんば」復活を願う地元ファンの熱意で四十七年に再開。大会には地元馬はもとより天塩、稚内方面からも力自慢が参加する。今年の参加馬は七十頭。軽重量級で優勝したのは「ジャンボヒメ」、馬主は地元渚滑町三丁目に住む片川勝さん(四五)。水産会社の社長さんではんえいの馬主でもある。大の馬好きで自宅近くに牧場を持つており、重量馬など二十頭を飼育している。

現在、渚滑地区で農耕用に馬を飼育している人は極わずか。趣味を含めてばんえい競走用がほとんど。最近、栄養過多と運動不足が原因の俗称「ヘモ」と呼ばれる病気が増えている。人間社会と同様に『過保護』にその遠因があるらしい。

4 十一月二十四日 北海タイムス

続北海道鉄道物語 渚滑線の巻



1 競馬監督

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんえい競走の監督に左記のようにそれぞれご来場になり、熱心な監督、指導をいただいた。

六月二十四、五日 帯広競馬場

岩淵監督官

八月四、五日 岩見沢競馬場

佐野監督官

八月二十五、六日 北見競馬場

田中、吉川両監督官

十月二十一、二日 旭川競馬場

松本、小川両監督官

また、北海道競馬事務所からは

五月十一日 旭川競馬場に

岡下次長、加藤主事

十一月九日 帯広競馬場に

白川主査、己赤主事

が、ばんえい競走の指導と研究にご来場になった。

2 千客万来

本年も各競馬場に数多くのお客様がご来場になり、終日ばんえい競走をご熱心に視察又は取材されてお帰りにもなりました。

(旭川)

五月十一日 競馬保安協会亦勝調査

役、田中地方業務課長

(北見)

五月二〇日 地全協広報課三浦主査、

テレビ朝日山本氏

五月二十四日 地全協石川調査役

(講習会講師)

五月二十八日 競馬保安協会古西理事、

清水部長

(帯広)

六月十六日 地全協斎藤会長

(騎手表彰)

六月十八日 競馬保安協会保坂副理事

長、柿沢経理課長

六月二十九日 馬事協会中村理事

他三〇名

(種馬登録審査研修会)

(岩見沢)

七月六日 競馬保安協会荒井氏、

関山氏

七月九日 新発田市市議会議員

一行十名

七月十四日 サンケイ新聞沢村記者

(取材)

八月四日 岩手県競馬組合

熊谷部長他四名

八月五日 理化研酒井監事

南松山家畜商組合

八月十日 一行十一名

姫路競馬場岡野業務課長

三木施設課長

八月十四日 高知競馬組合議員一行

八月十九日 名古屋競馬管理組合

一行十八名

(北見)

八月二十五日 中央競馬会競走馬総合研

究所池元所長

九月一日 岩手県競馬組合一行五名

ソビエト、サハリン州イ

ワノビッチ第一書記他二名

(別記)

(旭川)

九月二十五日 青森県金木町視察団

一行二十名

九月三十日 地全協加藤調査役他一名

(取材)

十月十二日 青森県金木町金子課長他

二名、弘前大学石崎教授、

斧田助教

十月十六日 地全協横手理事他

騎手試験委員

十月十九日 カルチノミン研究所

河西所長

十月二十二日 中富良野農協役員

一行二十四名

(帯広)

十月二十七日 理化研中島理事、久保田

部長、桑島主任

十一月十一日 中央競馬会日高育成牧場

小川場長他二名

十一月十二日 根岸競馬記念公苑

佐藤参事、稲吉氏

3 馬車公苑にベルが行く

東京都世田谷区にある日本中央競馬会

馬事公苑には、色々な種類の馬が飼養さ

れています。重種がいなく淋しいので

一頭購売することになり、十一月十一日

に日本中央競馬会日高育成牧場小川場長

さんが帯広競馬場に来場。イシカリハヤ

テ号を三五十万円で購買された。

イシカリハヤテ号 せん 青 十才

血統 父 ベル・ウルバン

母 ペル・錦立

馬体重量 一、〇六五キロ

成績 一六八戦二二勝

受賞額三千二十五万四千円

オープンで活躍した尾ヶ瀬騎手とのコンビで人気があり、11PM杯、旭シルバークップ、帯広厩舎落成記念等の特別競走に優勝しているペルの中のペルらしい立派な馬であり、馬事公苑のアイドルとして元気で余生を過すことを祈る。

4 ハクリユウ号五千万円突破

古馬のNo.1ハクリユウ号は本年度で通算賞金受賞額五千万円を突破する記録を樹立。引退まで八千万円を達成できるのではないかと期待しています。

本年度の年令別の取得賞金額第一位は

六才以上 ハクリユウ 一、四〇〇万円

五才 ハヤホマレ 一、〇三一万円

四才 キタノフジ 七四五万円

三才 マルトダンサー 六五七万円

であり、取得賞金額別頭数は

一、〇〇〇万円以上 五頭

八〇〇万円以上 四頭

五〇〇万円以上 十九頭

年間一頭平均取得賞金額は

三才 一一八万円

四才以上 一八三万円

平均 一六三万円

通算取得賞金額ベスト五是

ハクリユウ 五、五一七万円

テツワカ 四、二二九万円

ハヤツネ 三、六六三万円

ダイニメイホウザン 三、二八四万円

イシカリハナテ 三、〇二五万円

二千万円以上はこの他に十二頭いる。

5 六〇〇万円レース牝馬に栄冠

ばんえい界の最高峰、農林水産大臣賞

典競走は一着賞金六〇〇万円、負担重量一トン、十頭立て争われたが、六才の牝馬「キヨヒメ号」が牡馬を蹴ちらし、大差で優勝。往年の名牝ダイニミハル号(農林大臣賞二勝)の跡継ぎとして期待できる力をつけてきた。

6 現役馬二頭種牡馬に

日本馬事協会では、種牡馬として現役馬二頭を十一月十三日帯広競馬場で購買した。

「シンザンオー号」青、十才

取得賞金 一、九九八万円

馬体重 一、〇三〇キロ

父ペル・アブレス 母重系・玉姫

購買価格 六〇〇万円

供用地 十勝管内

「テツナミ号」青、七才

取得賞金 九九二万円

馬体重 九六五キロ

父ブル・鉄鯉 母重半・第十世小波

購買価格 六〇〇万円

供用地 網走管内

馬事協会購買の競走経歴種牡馬はこれで六頭になり、昭和五十一年秋に購買された「タカナミ号」の初存が明年度から出走するが、本年活躍した「タカラコマ号」の産駒同様の成績をあげてほしいも

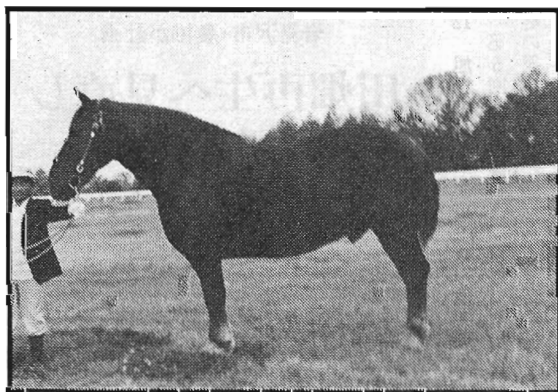
のである。

7 騎手教養所のヨシイチ号逝く

昭和五十二年十一月に騎手教養所に購買され、ばんえい競走のぎよ法の研究畑として教養所に繋養されていた「ヨシイチ号」が本年四月二十九日、回腸より胃結腸への移行部の悪性大腫瘍の為、教養所獣医師の懸命の治療にもかかわらず衰弱死した。昨年宇都宮競馬でばんえい競走アトラクションに出場する等、人気馬だけに残念至極。享年十二才。

なお、同時に教養所へ行った「ニジヨウホウ号」は至極元気の由。

ウホウ号」は至極元気の由。



故ヨシイチ号

ききり馬五八八頭についての憤き取り調査で現評価価格を調べたところ

最高 三、〇〇〇万円

最低 七〇万円

平均 三七九万円

で、前年比三八万円増であった。

売買価格の最高はオープン馬スィシヨウ号の二、二〇〇万円を最高に、八〇〇万円のダイケツ号、一、七〇〇万円のリュウタカラ号等直馬が続出、軽種に比べて故障が少なく、三才から十才まで八年間出走できること、賞金の増額等が魅力となっているためか。

9 二才馬せりも好成绩

北見競馬場における興進会成績は、売買五〇頭で激ぞろぞろ

最高 四五二万円

最低 六五万円

平均 一八五万円

で、網走管内産馬の人気は最高。

十勝池田市場では売買四二八頭

最高 三五六万円

最低 一八万円

平均 一一五万円

で、共に好成绩でしたが、特に優良牝馬に高馬が目立ち、北見で三五一万円、十勝で三五六万円のせり値が話題となった。

主要馬産地の平均価格は一一〇万円で前年比四一%増の好成绩。特に牡馬は平均一八二万円、前年比六五%増の驚異的上昇となった。

8 高くなった競走馬
毎年競走馬の価格が高くなり、今毎もばんえい史上最高となった。十一月の入

10 臨時市場は牝馬に人気

春の能力検査後と最終競馬開催時に、馬主会主催の臨時市場が開かれますが、能力のない牡馬は肉資源として売買される反面、牝馬は生産地に帰ることが多く高値で売買されています。

牡馬一五四頭中

最高 三〇〇万円

最低 六〇万円

平均 九八万円

牝馬四六頭中

最高 三五〇万円

最低 八二万円

平均 一三六万円

で、三、四才の牝馬は最高二二〇万円、

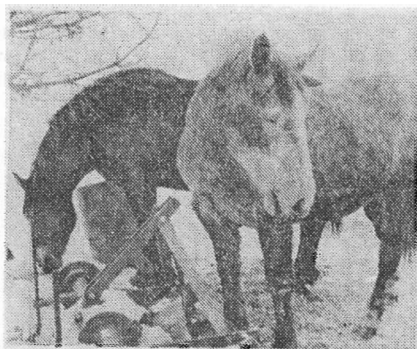
また、牝馬の最高三五〇万円の馬は十才馬でした。

11 たい肥作りは馬貸します

岩見沢市内の農家では、農業機械化と化学肥料の急速な普及で馬の頭数は四〇頭前後に減少。昭和五十五年頃から岩見沢市は「農用馬導入貸し付事業」を始め、五カ年計画で一〇〇頭を希望の農家に貸り付けしようとしている。

当才馬の平均価格五〇万円を市と農協が切半で農家に貸して当才馬を購入させ同一農家に三年連続して貸し付けし、一年経過して二才で六〇〜七〇万円で売却させて、その利益を三年間積み立てて、四年目に農家自力で馬を購入させる「三年サイクル方式」である。当才、二才では農耕には無理であるが、馬糞の供給源としては比較にならない有機肥料のたい

たい肥作りに馬貸します



岩見沢の農家に馬ワンたい肥が復活するか

化学肥料より安く有効

岩見沢市・農協が計画

田畑再生へ見直し

「たい肥」は化学肥料に比べて、土壌を豊かにし、作物の生育を促進し、収穫量を向上させる効果があります。また、化学肥料に比べて、環境に優しく、コストも低く、持続可能な農業を実現するための重要な要素です。岩見沢市農協は、このたい肥作りに馬を貸し出す事業を計画し、農家の負担を軽減し、田畑の再生を促進することを目的としています。

肥作りに精を出させようとするもの。

12 十勝で重種妊娠牝馬大量輸入

馬産王国十勝も現在三千頭に減ってしまいい育てることをしないで、食べてしまったからだ。これからは、競走用と食肉用に優良牝馬を輸入しなければ」と十勝農協連が音頭を取って妊娠している四〜五才馬をフランスから三五頭輸入することになった。(ベルシユロン二十六頭、ブルトン九頭) 価格は一頭三〇〇万円。

ばんえい競走は輸入馬の出走は認めていないが、持込馬は出走できるので、これに目をつけたのがミソ、一級品は高く売れるばんえい競走馬に、二級品以下は食肉用に牝馬が生まれたら繁殖用にと一石三鳥をねらったもの。

13 旭川で又もや1レース一億突破

第5回の旭川競馬は、旭川における最終の競馬であり、ばんえい最高峰、レースの農林水産大臣競走がある為、前人気は上々、連日ファンが詰めかけた。成績は最高一開催入場人員を除き総でのレコードは書交えられた。

(売得金)

一開催 二億二、六二七万円

一日 六億一、三二八万円

(10月21日)

一レース 一億二、六一一万円

(農水大臣賞)

(入場人員) 一、〇七三名

一日 (10月21日)

内女子 一、八〇七名

他子債

七五六名

(駐車台数)

一開催 一、二、二七九台

一日 三、八八五台

その他駐車場に入り切れずに、夢遊に臨時駐車三〇〇台、場内に八〇台で完全にパンク状態、10月21日は、子供の入場者が多かったため臨時に美人のガードウーマン(熱田タイ子さん?才)一名を増員、遂子担当で腕をふるってもらい人気があった。

14 平地に追っつけ岩見沢

平地と対抗意識があるわけではないが、道内での地方競馬の先輩である平地とは、どうしても比較される。

道内で平地とばんえいを開催している競馬で、岩見沢だけが平地を下回っていますが、過去5年間の一日平均売得金を比較して見ると毎年10%の上昇が続いているので昨年度はどうやら追っつけそうな見込みとなった。

平地の一日平均売得金を一〇〇%とすれば、

開催市 年度	旭川	帯広	岩見沢
50年	110%	120%	60%
51	131%	127%	60%
52	181%	122%	67%
53	152%	136%	77%
54	180%	136%	87%

一開催の売得金は22億9百万円と平地を迫込したので来年度は一日平均で頑張りたいものである。

15 金山騎手八〇〇勝達成

毎年リーディングジョッキーのトップを行く金山明彦騎手は11月11日帯広競馬第6レース3才特別競走においてパンリユウ号に騎乗し、八〇〇勝の大記録を樹立した。

初騎乗以来の成績は、

昭和四十四年 八九戦 一〇勝
昭和四十五年 八三戦 一九勝
昭和四十六年 一七四戦 二五勝
昭和四十七年 一六七戦 三〇勝
昭和四十八年 三八二戦 七六勝
昭和四十九年 五五七戦 一二〇勝
昭和五十年 四九六戦 一〇二勝
昭和五十一年 五二六戦 一〇九勝
昭和五十二年 五七一戦 一〇〇勝
昭和五十三年 五四九戦 一〇〇勝
昭和五十四年 五七九戦 一〇九勝
合計 四一七三戦 八〇〇勝

通算勝率一九・一七%、連続六年間一〇〇勝以上は立派な成績である。

16 重田清調教師逝く

永年、騎手及び調教師として活躍してきた調教師重田清氏は、五月二十八日北見競馬場で発走地点で腰部を馬に蹴られ入院加療中であったが、退院後、再度旭川の病院に入院、肝臓腫瘍の為七月十六日六十五才で他界された。

温厚な性格できゆう舎関係者から親しまれ、また故障馬を治す名人として右に



出る者はなく、ばんえい界にとって惜まれる人物なだけに、深く哀悼の意を表する次第です。

17 新人騎手三連勝の離れ技

本年から騎乗した岩本利春騎手の活躍は目覚ましいものがあつたが、新人らしからぬ記録を作つた。

第五回旭川競馬第三日(十月十九日)に、第一レースは二着、第三、第四、第六レースと三連勝(連対率一〇〇%)して通算二〇勝となり、減量の☆印がとれた。波に乗つた彼は最終日に三才牝馬競走「白菊賞」で新人として重賞初勝利。その後も勝鞍を上げて、年間二五勝の記録を達成した。

18 奥様方の講習会

きゆう舎内で生活している調教師、騎手、きゆう務員の奥様方は約一〇〇名おられますが、五月二日旭川競馬場会議室で全国初の試として、きゆう舎生活の心得などを中心に講習会を開催、約八〇名が熱心に受講し、最後に活発な意見交換もあり、コミュニケーションの場として大成功。



19 北見の珍記録

第二回北見第五日(六月三日)に珍しい記録が三つてた。

その一——当日六騎乗予定の金山騎手が四戦四勝で勝率一〇〇%を記録。しかし、第三レースは跛行の為競走除外、第十レースは疾病の為出走取消となり、同一騎手が二レースも騎乗できなくなったのも珍しい。

その二——十レース中九レースまで連勝複式の配当金が千円以下であったこともばんえいとしては珍しい記録。千円以上の配当が普通であり、配当金の高いことは全国のトップクラスのばんえいであり、本年度の一レース平均配当金は一、九七〇円、当日の平均配当金は七八〇円でした。

その三——本年度の連勝複式配当金最低記録。第三レースの三才馬の競走において、大本命のマルトダンサー、ゴカイと入り、④⑤で一五〇円。参考までに、ばんえい史上最底記録は、昭和五十年旭川の「ばんえい優駿」で二着が同着となり、片方のハクリユウ、タンシユウで一〇〇円が記録となつている。

20 ばんえいPR映画完成

岩見沢市では、ばんえい競走をPRするため「岩見沢ばんえい競馬」の製作を進めていたが、九月に完成、各地で行われる物産展等で上映することとなった。道内では、ばんえい競走を映画にしたのは岩見沢が初めて。制作は札幌の映画社で十六ミリトキー、上映時間は約十二分。

制作のきっかけは、道内では有名な「ばんえい」も本州方面では意外に知られておらず「ばんぼつて何？」と質問する旅行者が多い。そこで「それならPR映画を」と言うことで製作に踏み切つた。

21 女性も子供もばんえいが大好き

北海道の地方競馬は他府県に比較し、女性と子供が多いことで有名である。

本年、入場者の統計をとつてみると、総入場者四九八、二一八名中女性は一五・一%の七四、九八三名で(但し北見第一回初日、二日は推定)、他府県の統計が不明で比較できないが、若干多いのではないかと。女性が多いと言うのは、家族連れが多く、競馬場の雰囲気としては最高。子供の入場者は七・五%で女性二

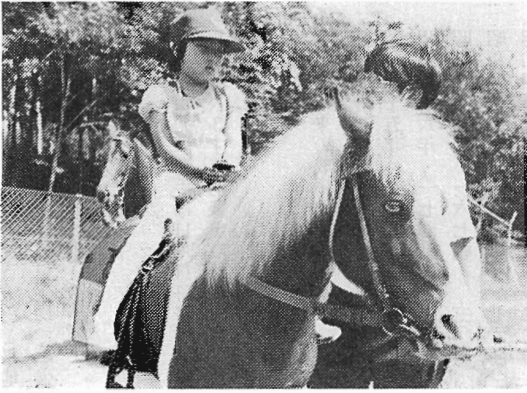
人に一人は子供連れでした。特に旭川に遊園地が完成したので、第三、四回旭川競馬は一〇・五%も子供が入場。大賑わいの大盛況。これからのばんえいは女性の無料入場や、女性の為の競馬教室でも計画しなければならぬ時代になりそうだ。

22 子供は乗馬で大喜び

ばんえいは子供の入場者が多く、ファミリー的な雰囲気が漂っているが、日頃馬に接する機会の少ない子供に対するサーブとして岩見沢競馬場でポニーの乗馬を毎日曜日に行なったが、人気は上々。長蛇の列をなし、子供は大喜びでしたが馬も係員もヘトヘト。

23 Wケンジの来場

本州から来道の方で、一度ばんえいを



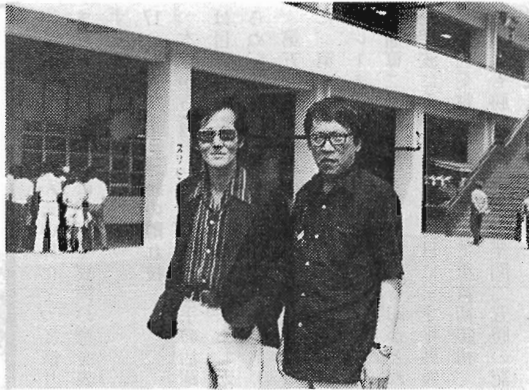
楽しい乗馬風景

見たいと言う方が最近多くなった。地方公演の暇を見つけて 月 日岩見沢競馬場に人気万歳師Wケンジのご両名が来場。一日楽しんで帰られた。はたして成績はどうでしたか？

同日、俳優の勝呂蒼さんも関係者と来場したが、写真を撮れなくて残念。

24 ガードマンの急死

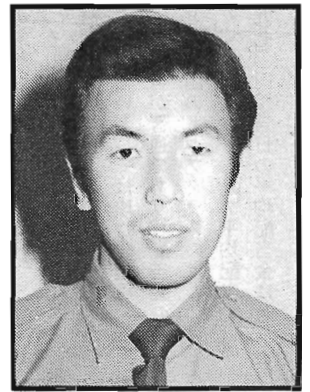
ばんえい競走の場内警備を依頼してい



Wケンジ岩見沢競馬場へ来場

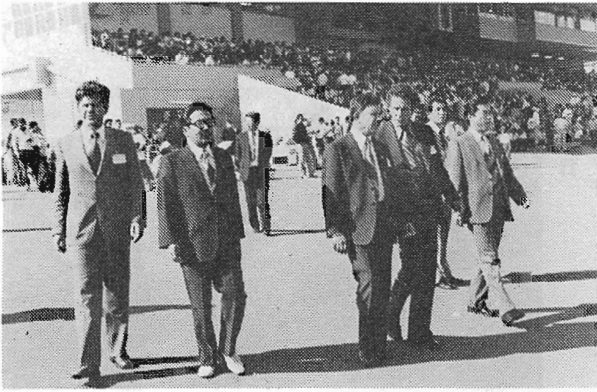
る北海道総合警備保障KKの警備先任長(副隊長) 浜津幾弥氏は五月一日旭川競馬場において仮眠中、急性心不全の為に十八才で逝去された。

昭和五十年入社若手ホープとして、昨年の千葉氏に続き惜しまれる人を失った。ご冥福を祈る。



25 『寒い国』よりお客様

九月三日北見競馬場にソ連のサハリ州より、サハリ州第一書記トレチャコフ・ピョートル・イワノビッチ氏、第二書記ナサードン・アレクサンドル・セルケビッチ氏、通訳としてサハリ州地区評議



友好都市ポロナイスク市より親善使節来場

会委員ラサーボーイ・ウラジミール・ピオトロビッチ氏の三名がお出になつた。一行は北見市と同州ポロナイスク市が友好都市関係を樹立していることに伴ない親善使節として北見市を訪れたもの。同日は第六レースと第七レースを観覧になり、『平地と違つたばんえい競走の楽しさがあり、すばらしい』との感想をもらされた。

26 楽しい学級キャンプ

北見市では毎年夏に競馬場のきゆう舎等設備を市内小中学校の学級、学区、親子と生徒におけるサマー研修会、レクリエーション、炊事キャンプの場として開放している。子供同志の集団の規律の大切さを知ってほしいというもの。昭和五十四年度は一四件延一五三名の利用があった。

No 000017

ファン人気投票 [4.5才馬選抜]

ポプラ賞競走

人と馬との闘いがある……

そしてドラマがある

岩見沢市営競馬

No 000017

ポプラ賞競走馬ファン人気投票用紙

あなたがポプラ賞競走に出走させたいと思う馬10頭(4.5才)を下記の中から選んでご投票下さい。(×切日7月16日まで)

5 才			4 才		
人気印	番号	馬名	人気印	番号	馬名
	1	ハヤホマレ	17	リュウタカラ	
	2	カイリキ	18	ハヤタカラ	
	3	ムツコマ	19	ミサワコマ	
	4	ヒメテツリ	20	キタノフジ	
	5	キヨタカラ	21	カヤベヒメ	
	6	ドラゴンダッシュ	22	マサカツ	
	7	ローヤルセーコ	23	アズマヒカリ	
	8	ムツノベア	24	セキホク	
	9	ヤマトムサシ	25	ユタカモリ	
	10	テツイサミ	26	タミオヒメ	
	11	センポイント	27	リュウタロー	
	12	サワノチカラ	28	ユリアンティ	
	13	カワアラシ	29	モガミオーザ	
	14	ヤマトエイユウ			
	15	アサヒホマレ			
	16	サカエトーコ			

ご住所、ご氏名は賞品を郵送いたします都合で、はっきりとご記入願います。

郵便番号

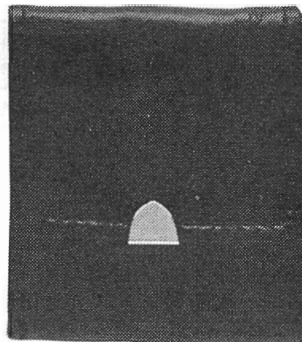
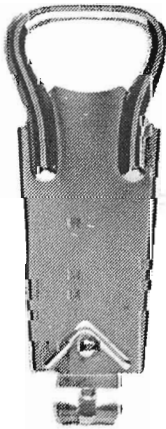
ご住所

ご芳名

年齢

ご職業

ばんえい競走初のファン人気投票による「ポプラ賞」



各地の祭典ばんば



修祓式 (池田町)



ポニー土産馬レース (池田町)

馬産奨励事業の一環である祭典(記念)ばん馬競走は本年度で八年目を迎え、一昨年度は九件だった申請も昨年度は十一件に増え、喜ばしいことです。この際に贈呈する副賞も五十五年度からは、今までの馬像から銀盃に重種の馬を彫ったものに変え、すこしでも受賞者に喜ばれるものをと製作中である。

今後共市営ばんえい競走発展のために奮って祭典(記念)ばん馬競走を開催

し馬産育成にご協力下さい。

ここに、各主催者より送られて来た終了報告書をもとに紹介しましょう。

池田町鞍馬競技大会

1 主催 池田町鞍馬愛好会
会長 田中 弘

2 開催日 六月十五日

3 場所 同町清見ヶ丘特設馬場

4 出走頭数 五十五頭

5 競走数 二十二レース

6 入場者数 一、五〇〇名

7 本会副賞受賞馬 ミスノブトリ

牝四才

馬主 阿部 孝雄

音更町鞍馬競技大会

1 主催 音更町東土幌地区連合会

秋季祭典鞍馬競馬会

会長 恩田 晴夫


- ★ 競 走 規 則 ★
- 1 コース順は本部にて決める
 - 2 赤旗をおろしスタート 赤旗左右はフールとする
 - 3 スタートから第1障害までは責任コースを走ること
 - 4 第1障害を越してから他馬の走妨害行為をしてはならない
 - 5 レース中の騎手の変更は認めない
 - 6 手綱のたぐり遠込み以外は認めない
 - 7 ゴールは変換とする
 - 8 レース中騎手が故意にソリから下りてはならない

《 2 0 0 》

競馬競技大会プログラム

と き 昭和54年6月15日

と ころ 池田町清見ヶ丘特設馬場



主 催

池田町競馬愛好会

大会プログラム及び競技規則（池田町）

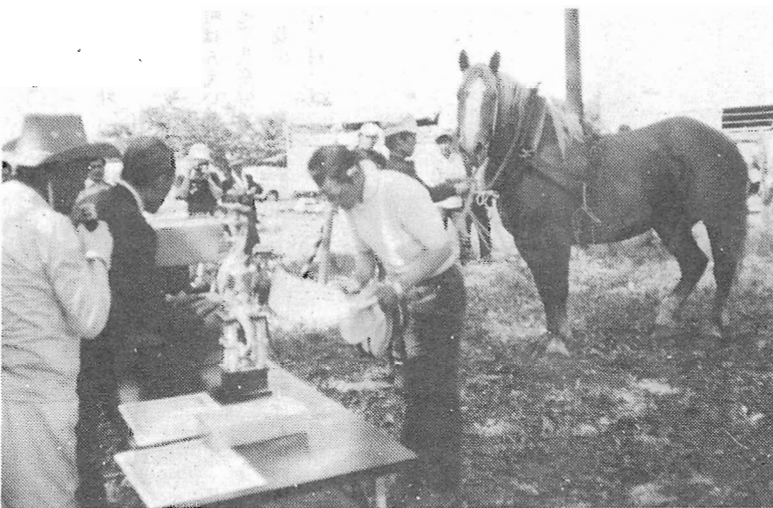


表 彰 式



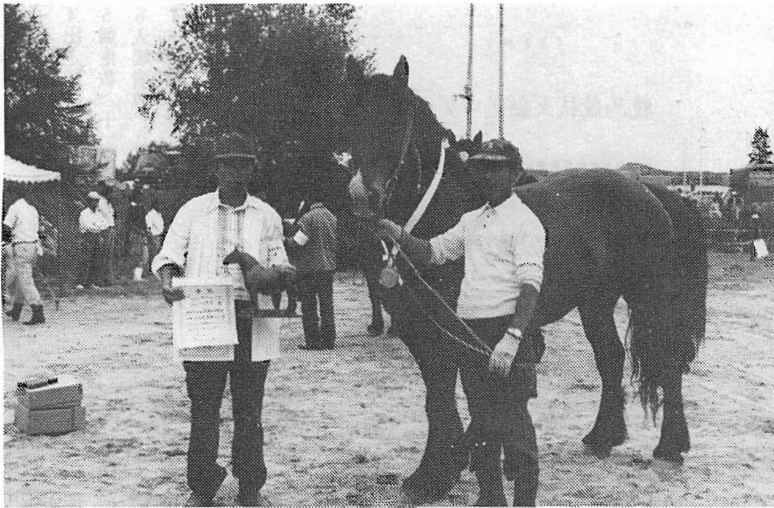
全力出して！第2障害上（足寄町）

- 19回鹿追町瓜幕競ばん馬競技大会
- 2 開催日 九月二日
- 3 場所 音更町東土幡神社境内
- 4 出走頭数 三十七頭
- 5 競走数 十二レース
- 6 入場者数 八〇〇人
- 7 本会副賞授賞馬 フウシヨウ
- 馬主 角田 善男
牝七才

- 1 主催 鹿追町瓜幕競馬会
- 会長 菊地 義憲
- 2 開催日 八月十七日
- 3 場所 同町瓜幕競馬場
- 4 出走頭数 四十七頭
- 5 競走数 三十一レース
- 6 入場者数 七〇〇人
- 7 本会副賞授賞馬 カツヒメ
- 馬主 沼田 貞男
牝三才

- 足寄町家畜祭競民大会
- 1 主催 足寄町競馬協会
- 会長 齊藤 祐一
- 2 開催日 九月十五日
- 3 場所 同町お祭り広場
- 4 出走頭数 六十七頭
- 5 競走数 二十六レース
- 6 入場者数 二、〇〇〇人
- 7 本会副賞授賞馬 テツリヒメ
- 馬主 只野 幸一
牝七才

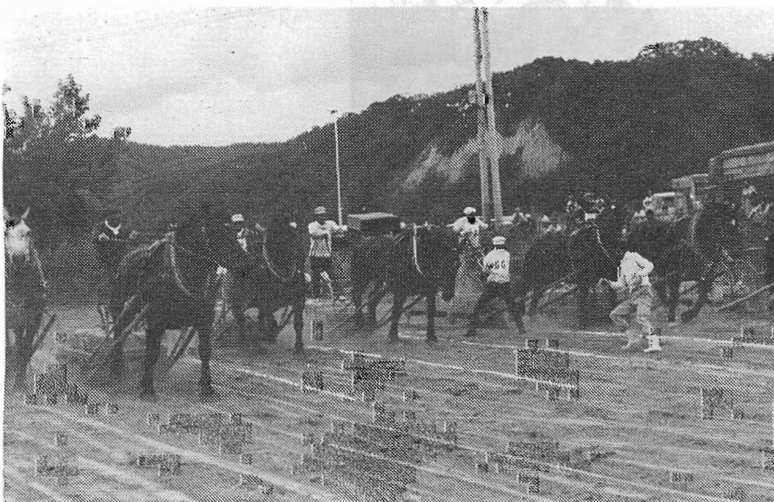
- 標茶町ばん馬競技大会
- 1 主催 標茶町馬事振興同志会
- 会長 西内 信
- 2 開催日 九月二十三日
- 3 場所 標茶町集散地家畜市場
- 4 出走頭数 八十頭
- 5 競走数 二十一レース
- 6 入場者数 八〇〇人
- 馬主 只野 幸一



市営競馬協議会賞受賞馬（足寄町）



婦人レース入賞者（足寄町）

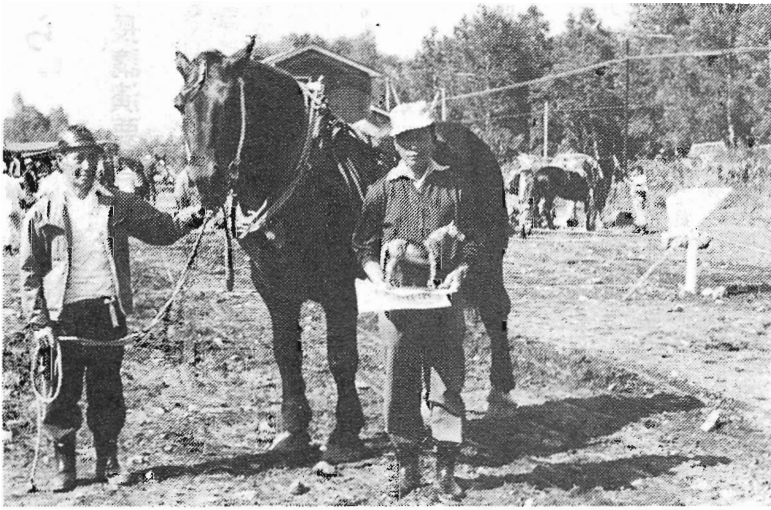


スタート（足寄町）

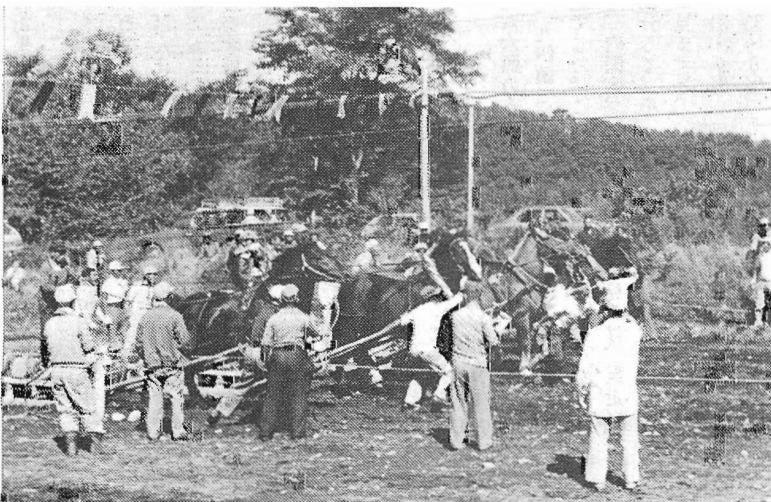
- 7 本会副賞受賞馬 ネムロリキ
牝九才
馬主 下内 勝
- 1 主催 弟子屈町馬座振興同志会
会長 森田 政雄
- 2 開催日 九月二日
- 3 場所 同町幌馬競技場
- 4 出走頭数 七十六頭
- 5 競走数 二十レース
- 6 入場者数 一、三〇〇人
- 7 本会副賞受賞馬 第一フェロール
牡八才
馬主 館 善夫
- 1 主催 第二回下川町ばんえい競技大会
会長 下川馬産改良協議会
及川 章
- 2 開催日 九月二日
- 3 場所 同町中央橋上流特設会場
- 4 出走頭数 七十七頭
- 5 競走数 二十九レース
- 6 入場者数 一、〇〇〇人
- 7 本会副賞受賞馬 竜馬
牝三才
馬主 松本 武敏
- 1 主催 滝上町ばん馬競技大会
愛馬講
- 2 開催日 九月一日
会長 斉藤 忠治
- 3 場所 同町幸町ばん馬競技会場
- 4 出走頭数 五十九頭
- 5 競走数 二十レース
- 6 入場者数 一、二〇〇人
- 7 本会副賞受賞馬 トビツバメ
牝八才
馬主 細井 義雄



第 2 障害 (滝上町)



市営競馬協議会賞受賞馬 (美瑛町)



スタート (美瑛町)

美瑛町開基八十周年記念ばんえい競技大会

- 1 主催 美瑛町
- 町長 安藤 友之輔
- 2 開催日 九月十八日
- 3 場所 同町九線広場
- 4 出走頭数 七十六頭
- 5 競走数 十九レース
- 6 入場者数 八〇〇人
- 7 本会副賞受賞馬 キョクテン

牡四才 馬主 高橋 芳一

- 1 主催 佐呂間町競馬競技大会
- 佐呂間町畜産振興会
- 会長 栄 元治
- 2 開催日 九月二十六日
- 3 場所 同町農協家畜センター
- 4 出走頭数 五十一頭
- 5 競走数 二十四レース

6 入場者数 八〇〇人

- 7 本会副賞受賞馬 ユキヒメ
- 1 主催 早来町ばんえい競走大会
- 早来町競馬同好会
- 会長 橋本 善吉
- 2 開催日 十一月十八日
- 3 場所 同町家畜センター

馬主 大平ミツ子

4 出走頭数 三十九頭

馬主 酒井 秀克

- 5 競走数 十五レース
- 6 入場者数 六〇〇人
- 7 本会副賞受賞馬 ロングベビー
- 牝三才

『ダービー馬はダービー馬から』

鈴木事務局長講演要旨

昭和五十四年十一月十五日、北見市ホクレン北見支部において、「北海道網走地区の馬産の現況と今後の対策について」の馬産懇談会が開催され、約五十名の生産者が参集、熱心に馬産についての討議がなされ、その席上、本会鈴木事務局長が「ばんえい競走と馬産について」講演したが、その要旨をまとめたものであります。

「ばんえい競走と馬産について」

売上と出走馬

昭和五十四年の北海道における「ばんえい競走」は、十七開催、一〇二日を無事終了することができました。

本年の売上は四場合計二四二億五、三〇〇万円で、前年対比一〇七・六％でありました。上昇率は若干鈍化し、全国平均よりやや下回る見通しであります。入場人員は若干増加し、四九万八、二一八名でした。

出走馬については、登録頭数は毎年一、一〇〇頭位で、能力検査に合格し出走できる馬は六〇〇頭程度であります。

本年度の三才馬の登録頭数は五四〇頭で、能力検査合格頭数は約二〇〇頭でした。ばんえい競走は平地競走に比較し、非常に能力検査が厳格で合格率は低く、

毎年の生産頭数三、〇〇〇頭のうち二〇〇頭しか合格せず、エリートだけが出走できるというのがばんえい競走の実態であります。

生産地別に区分してみると、十勝管内の馬が約五十％を占め、次に網走管内馬が約二十五％、残りの二十五％を釧路、根室、胆振その他の方面で別けています。

年令制限は十才ですが、三才から十才まで八年間出走させることができるわけ、競走馬としての寿命が長いことと軽種に比較し事故馬が少いことが、一つの大きな魅力であり特色となっております。

取得賞金額と馬の価格

八年間無事で過ごしますと多額な賞金を稼ぐ馬もできます。本年度までの最高受賞馬は八才のハクリュウ号で五、五〇〇万円ほど稼ぎ、後二年間の引退までに九、〇〇〇万円近く稼ぐのではと期待しています。近い将来には、一億円馬も出現するのではないかと考えています。年間の最高受賞額馬は一、四〇〇万円で、毎年一〜二頭はでており、三才馬でも一、〇〇〇万円近く稼ぐ馬がでることもあります。

ばんえい競走馬は、競馬で使える期間が軽種に比べ非常に長いという魅力があるため最近馬の価格が高くなってきた。

本年度中に一番高く売買された馬は、オープン級のスイショウ号で二、二〇〇万円で売買され、三才馬のトップクラスになると一、〇〇〇万円位で売買されている馬がザラにあるようです。ばんえい競走が盛んになれば、馬産地の方も力を入れていただくし、生産された当才馬二才馬が高い値段で売れて行くことは、ばんえい競走の影響であると思います。

競走経歴種雄馬の産駒は強い

種雄馬の成績でばんえい競走経歴種雄馬の産駒の競走成績が非常に良いので、本年度の三才馬について統計をとって見ました。

本年度に三才で登録した五六六頭のうち、能力検査に合格した馬が一九四頭で、この父馬の種雄馬が一〇七頭でした。この一〇七頭の種雄馬を外国産、内国産、競走経歴馬に大きく三つに区分して、その能力検査合格率を比較して見ますと、

外国産	27頭	合格率	31・7%
内国産	63頭	合格率	33・0%
経歴馬	17頭	合格率	40・9%
合計	百七頭	合格率	34・3%

となり、競走経歴種雄馬の合格率が非常に高いという結果がでました。

さらに、五十二年度と五十三年度の合格率を参考にと調べたところ

52年度	53年度	
外国産	25・0%	37・7%
内国産	35・9%	33・7%
経歴馬	39・0%	36・2%
全馬	33・0%	35・4%

であり、過去の成績から見ても、競走経歴種雄馬の産駒が平均を上回っていることの裏付けができたわけでありました。

合格率ベスト十でも

種雄馬別能力検査合格率ベスト十を調べて見ますと、競走経歴馬が三頭も入っています。一番成績のよかつた馬は、十勝に繋養されているベルジャン種のジャンデユマレイ号で、六十二・五％の高い数字を出しており、No.2は北見の二世口ツシー二号の五十七・六％、No.3は競走経歴馬のタカラコマ号(家玉)の五十五・二％、No.4も経歴馬のカチサカエ号(晏栄)の五〇・〇％、No.6にもやはり経歴馬のソラチオー号(栄山)の五〇・〇％であり、三頭共に五〇％以上の高い合格率を出している。

これ等を見れば、競走経歴馬は種雄馬としての能力が如何に高いかの証明にもなったのではないかと思います。

最近徐々に競走経歴馬が種雄馬として活躍する傾向が強くなり、個人有も増加し、また本会の強い要望により馬事協会での購買が四年前から実施され、今までに八頭購買していただき、これらの産駒が来年から出て来ると思いますがその成績は大いに期待しています。

ダービー馬はダービー馬から

今年の三才登録馬の中に、一一五頭の競走経歴種雄馬の産駒がいるが、矢張り昔のオープンクラスまたは準オープンクラスで好成績を挙げた種雄馬の産駒が、能力検査合格率が良いという結果も別表

のとおりはつきり出ている。

今年馬事協会で購買した競走経歴種雄馬の1頭はオープン馬で、もう1頭は非常に血統のよい馬でこの全兄弟はオープンクラスで走っている馬です。

競馬は能力検定の場であり、ここで優秀な成績をあげた馬はこれを生産に用いて優秀な馬を作り、「ダービー馬はダービー馬から」と言われている競馬の原則が確保されていくことを祈っている。

今後馬事協会にお願いし、2頭と言わず3頭でも千頭でも、競走経歴のない育成馬の購買を減らしてでも競走経歴馬を買っていただき、生産地に配置していただきたいと言いたいことをお願いしようと思っています。

種雄馬の年令

種雄馬の年令関係を申し上げますと、生産者の方々は若い馬を希望し、一年でも長い間使いたいと言う考えを持っているようですが、競馬の主催者の立場から言えば十才まで競馬で走ってもらい、翌年十一才になってから種雄馬に使ってもらいたいというのが我々の希望です。

七才、八才のオープンクラスを種雄馬にするとなれば、端金では買えないわけですから、〇〇万円出しても仲々売らないから、どうしてもそのような馬をかうとすればかなり無理して買わなければならぬので、我々の希望としてはオープンクラスで十才になった引退馬を種雄馬として使っていただきたいと思っています。種雄馬の年令を、十一才以上と十才以下に大きく区分し、年令別産駒の能力検査合格率を調べて見たところ

11才以上 二五頭 三五・一％
10才以下 八二頭 三四・〇％
であり、また一頭平均合格頭数は

11才以上 二・二頭
10才以下 一・七頭
となっています。

決してトシ馬だからといって、トシ馬の仔は駄目だということもなく、トシ馬であっても若馬より以上のよい馬を生産していると言ったことが実証されたわけであり、若馬ばかりねらわず引退馬であっても今後の使い方によつては五年や六年は使えるし、現役種雄馬として二十才以上で活躍している馬もいますので、これからはオープンクラスまでいったトシ馬の仔が、ドンドン出てきてもらいたいと言いたいのが私の希望であります。

網走管内の生産馬

網走管内の生産馬は、頭数は十勝管内より少ないが、質は非常によい馬が生産されています。特に、楓朝と二世ロッシー二の人氣種馬が二頭いる関係で優秀な馬が多い。

先般帯広競馬場で三才重賞競走のイレネー記念という二〇〇万円レースに出走した十頭のうち、楓朝の仔が二頭、二世ロッシー二の仔が三頭いましたが、二世ロッシー二の仔が一・二着をとったように網走管内の生産馬が非常によい成績を挙げていることを報告いたしました。私の話を終らせていただきます。

表 1 昭和51年度供用種雄馬産駒能力検査合格率調

産地	所有者	種雄馬数	登録馬		能力検査合格馬		合格率	備考
			総頭数	1頭平均	総頭数	1頭平均		
外国産	馬事協会 個人	17	72	4.2	19	1.1	26.4	含農協有
		10	73	7.3	27	2.7	37.0	
		27	145	5.4	46	1.7	31.7	
内国産	馬事協会 個人	39	226	5.8	80	2.1	35.4	含国有 含農協道有
		24	80	3.3	21	0.9	26.3	
		63	306	4.9	101	1.6	33.0	含農協有
		17	115	6.8	47	2.8	40.9	
	合計	107	566	5.3	194	1.8	34.3	

表 2 昭和51年度供用種雄馬能力検査合格率ベスト10 (昭和54年度3才馬合格5頭以上)

順位	産地	種雄馬名	種類	毛色	年令	血統	登録頭数	合格頭数	合格率(%)	所有者	供用地
1	外国産	ジャンデユマレー	ベル	栗	6	サンマーファースー ニーキーゼット	16	10	62.5	農協	十勝
2	内国産	二世ロッシー二	ベル	青	11	ロッシー二 明雪	33	19	57.6	馬事会	網走
3	競走経歴	タカラコマ(家宝)	半血	鹿	9	ブル重半 ケルネブエーズ 宝	38	21	55.2	農協	十勝
4	競走経歴	カチサカエ(晏栄)	半血	栗	20	ブル中半 アンクリュー ウエールのニ	18	9	50.0	個人	十勝
5	内国産	産日	ベル	青	8	ベル 海日	12	6	50.0	北海道	日高
6	競走経歴	ソラチオー(栄山)	ブル系	栗	6	ブル重半 アルフオル 呂山	10	5	50.0	個人	十勝
6	外国産	キプロク	ブル	栗	17	ブル ゴブ ユニ	10	5	50.0	農協	十勝
8	内国産	第二オデオン	ベル	青	10	ベル系 オデオン ガフ栄	13	6	46.2	馬事会	十勝
9	内国産	楓朝	ベル	芦	9	ベル 朝緑	40	16	40.0	国有	網走
10	外国産	マルゼン ストグホース	ベル	栗	5	ベル コントリ ビューター ネット ジャム スル	15	6	40.0	個人	胆振

走路の水分

北海道市営競馬協議会

嘱託 松尾 信三

はじめに

競馬に於ける走路の水分は、競走に与える諸種の影響から古くより重視され、平地競走では乾燥状態のときを「軽」、水分を含んだ状態のものを程度により「稍重」或は「重」として区分表示されている。

ばんえい競走に於ても走路水分の影響を考慮することは同様であるが、更に砂中の水分含量実測値(以下水分値という)を求め、この数値を直接表示していることが前者と少しその趣きを異にしている。即ちばんえい競走に於てはこの水分の多寡は、砂の質と共に牽引する櫓の摺動面(ずり)に与える影響が大きく、競走所要タイムに深い関係のあることが知られている。このため走路水分値は競走能力判定上の重要な参考資料として、その競走時点に於ける水分値の表示が要求されるのである。平地競馬のそれよりも更に微妙な意味をもっているので、検査の実施に当っては常に細心の注意をもって慎重を期さねばならないものと思われる。

即ち検査すべき砂や、使用する器具そして検査の方法がその度ごとに違っているようでは、せっかく苦勞して得られた測定値であっても何んの意味をも持たないものとなってしまう。

この走路水分測定については、未だ一定の方法が樹てられていないようであるが、私共は昭和五十二年以降三年に亘り北見、岩見沢、帯広及び旭川各市の競馬開催期間中の走路水分測定を行う機会に恵まれた。検査はこの間に得られた砂の性状、検査材料としての砂の採取要領など若手の知見を基として立案された検査要領によつて行なわれた。

しかしながら本検査実施についてはなお改善すべき事項も多くあるものと考えられるので、諸賢のご批判に供したく以下その概要を述べる。

一、走路砂性状

走路に使用されている砂は海砂、河川砂など各競馬場それぞれその採取場所が異なっているようである。砂礫状の極めて硬固なもの、比較的砕け易い砂粒を混じえているものなど様々で、その競

馬場によつて各様の特徴があるようである。これらの砂は構成される粒子の細かいもの或は粗いものなど種々の組成によつて含水量には相違があるのは当然であるが、更に天候など諸種の気象条件を直接、間接的にうけているからその水分値は常に定まる処がないものである。このため水分検査を行なう場合これらの諸条件との係りを勘案しながら実施に移すことが必要と考える。

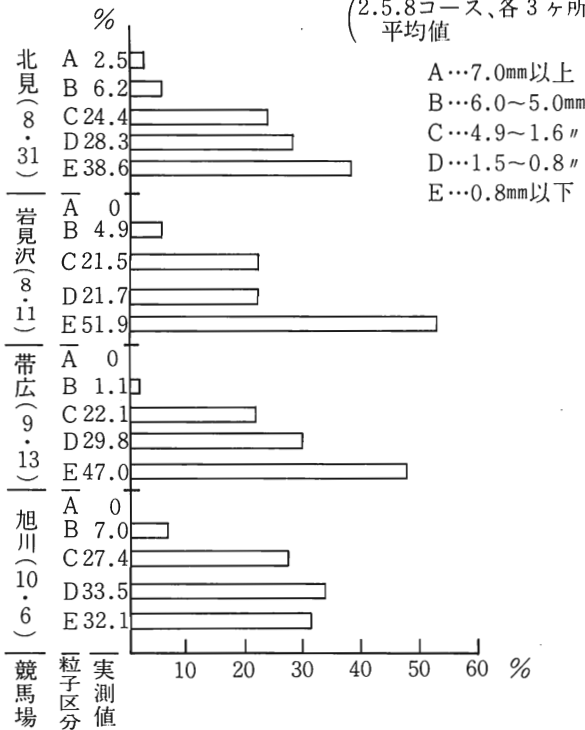
イ、砂の組成と保水性

各場で使用されている砂は何れも七・〇mm程度の粗大な粒子から〇・八mm以下の微細な粒子に至るまでのものが各様の

割合に混合されたもので、この中には粉塵として飛散する粉泥も多少にかかわらず混じっている。この砂の粒子組成割合は図1に示したように各場それぞれ異つた比率をもつていて特徴がある。またその砂の中に混じっている粉泥の量は図2のように検査材料を採った部位によつて同じ場でも若干の違いはあるが、その平均は場によつて比較的多い傾向を示すものがあつて一様でないことが判る。

これらの砂は、各走路ごとに数一〇cmもの厚さに敷きつめられているが、何れの場合でもこの砂層には下層の部分から砂粒間隙の毛細管現象による湿度の上昇

図1. 走路砂粒子区分 (各場別)
昭53.
(2.5.8コース、各3ヶ所)
平均値



があつて、常に或る程度の水分が保たれている。

しかし一旦降雨があつた場合の水分値の推移は、その浸透水が速かに排除される場合としからざるものによつて異なるのは当然であるが、これは走路基盤の相違による場合の外、一方に於て砂の組成上の問題によつて影響されることも考えられる。即ち図2に示した粉泥質量と図3の降雨翌日の水分の推移を対比してみると、粉泥質分の比較的多い走路の保水状態が良く極めて興味深い相関があるように考えられるのである。即ち粉泥質分四・〇％程度のものが含水量も多く、降

雨翌日は午後に至つても容易に水分値の低下が認められないのに〇・六％程度の少ない処では、降雨翌日同様条件でその朝にはすでに二・〇％以下を示し、午後には一・〇％以下に乾燥して粉塵飛散する状態となり、前者と明らかな相違を示している。又昭和五十三年度の水分検査簿に記録された各場の最高含水値においても同様な傾向が認められる。このようなどから砂中の粉泥は、水分を吸着した場合泥ねい化し砂粉子間隙の目づまりを生じ、毛細管現象ばかりでなく含有水分の浸透作用をも妨げる主役であろうことが推察される。

口、天候と水分値

前項に述べたように砂層中の水分量は、その多い少ないにかかわらず常に上下層が同様値になるような均衡が保たれている。図4は降雨後2日経過した走路の砂層内深さによる各部の水分値を調べたものであるが、上層表面近くは水分蒸散盛んでその水分値は低いが、それよりも深い五・〇cm以下の部分では何れも同じ様な値で高い水分量を示している。表面近接する三・〇cmではその水分値は表面のそれにやや近接し、表面の影響が或る程度作用しているものと推察される。

夏期天候が良く日照の続く時には気温の上昇は当然であるが、陽光の直射を受ける砂上もまた熱せられ、その温度も正午頃には五〇℃以上になることは珍しくない。

表1は昭和五十四年度岩見沢競馬開催期間中の体感暑熱日の非公公式の記録であるが、第二回三日目、第二レース頃には五十七℃を示した。このような時の砂上表面は速かに乾燥し、砂層内の保水状態も伴つて低くなり、更に風が加わつた場合には一層水分蒸散が促進されて速かに乾燥した状態になる。又降雨があつてもわずかなものであれば何ら砂層内に浸透することもなく直ちに蒸散し水分値に幾何の影響も与えていないことがある。

これに反して曇天で大気中の湿度上昇するときは当然砂層内も同様で、加えて気温下降するときは表面の水分蒸散不活発となり、上下層ともほとんど変わらない保水状態となることがある。秋分の頃になると比較的乾燥状態の日でも気温急に降下する午後には前回測定値よりも若干

図2. 走路砂中の粉泥量 (砂100瓦中) 昭53.

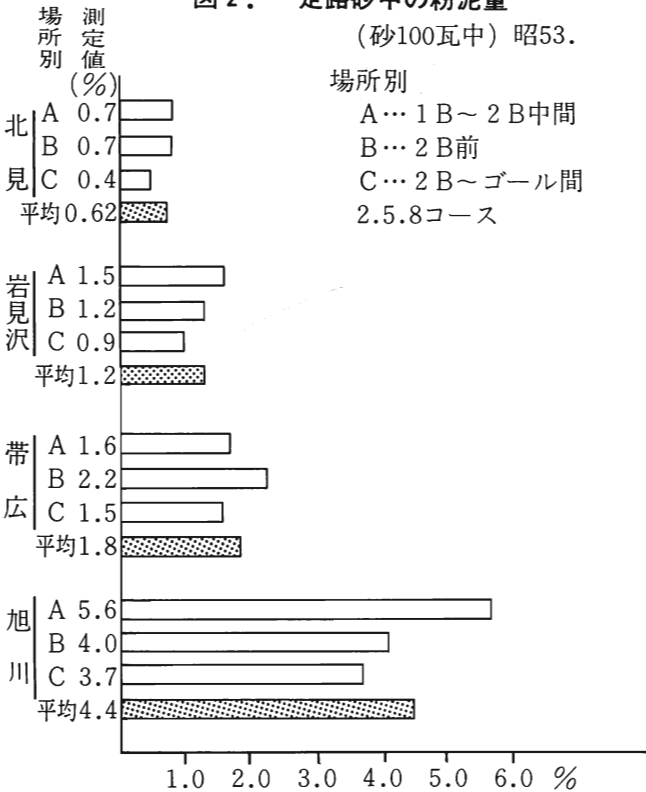
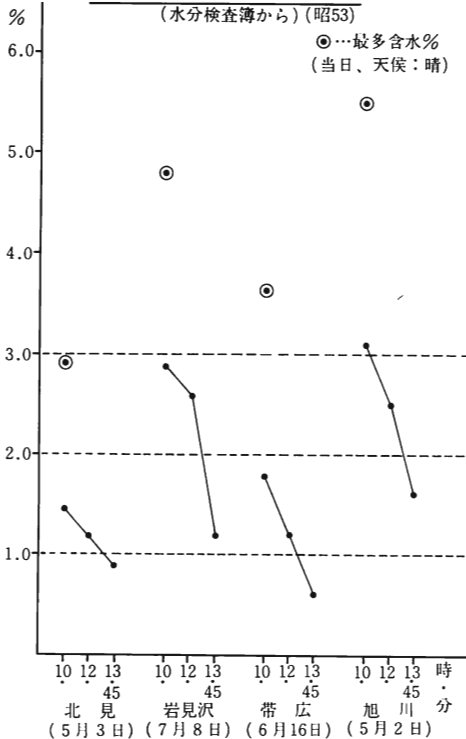


図3 降雨翌日の馬場水分の推移 (水分検査簿から) (昭53)



ながら水分値の上昇傾向を示し、時には表面に湿りを観察することを経験するのである。

二、水分測定のための用具

水分検査のための用具には、実際に砂を採取する道具と採取した砂を持ち運ぶための容器、そしてこの資料を計測して水分値を求めるための水分計がある。

イ、検査用砂の採取は、何時でも、何処でも均一な状態で行なえるようにするため図5の採砂函を試作した。材料は亜鉛引き鉄板である。目的とする採取位置砂表面を規制するコの字型の規制板と、これに沿って一定の深さまでの砂層を採取する採砂函がこれである。函の目的に従い使用できるように一、三、五cmの三種の深さのものが用意されている。

であれば何でも良いのであるが、取り扱い易く速かに運べるものとしてビニール或はポリエチレン膜製の市販品の小袋が良いと思われる。現在は検尿所に於いて不要となった検尿容器包装用ポリ袋が利用されている。

ロ、水分計測器は種々の様式のものがあるが、本会では従来より用意されている「ゲット、赤外線水分計、(型式F-2 B II)」が使われている。手動式であるが簡便で取り扱い易い。この器具を設置する場所に注意すれば誰にも容易に操作することができる。

三、検査要領

イ、検査砂の採取場所を何のように選ぶか。これは何処でも良いのであるが、その水分値の移り変りを見ようとするためにはおおむね

一定の場所を定め、その場所が決まったならば変えないことが必要である。一日の水分の移り変りを調べるときでも、その都度異った所からのものでは、大きな誤りを生ずることがあるからである。このことは、厳に守らねばならないことである。

現在は各競馬場それぞれゴール前四〇mの地点で二、五、八コースを定め、このコース内でも略同様に内側コースライン寄りの部分を設定している。

ロ、採取部位を何うするか。

採取の場所が前項で決つたのであるが、今度は深さの問題である。この場合もその都度浅い層のものであったり、反対に深いものであったりでは比較にならない値しか得られないのは当然である。採取する砂層の厚さも前と同じように是非一定に決めおく必要がある。

砂層の厚さによる降雨後の水分値の推移をみると図6のように、表面からの厚さを増すと従って降雨に対する影響を明らかに示さない傾向がある。また浅い1cm厚さでは、直ちに降雨量に応じた水分値を示すが、一方その他の気象に対する反応も速く、晴天ともなると下層の水分の有無にかかわらず、速かに乾燥状態となる。

実際には機体重圧が砂層に加わつた場

図5 検査用砂採取器

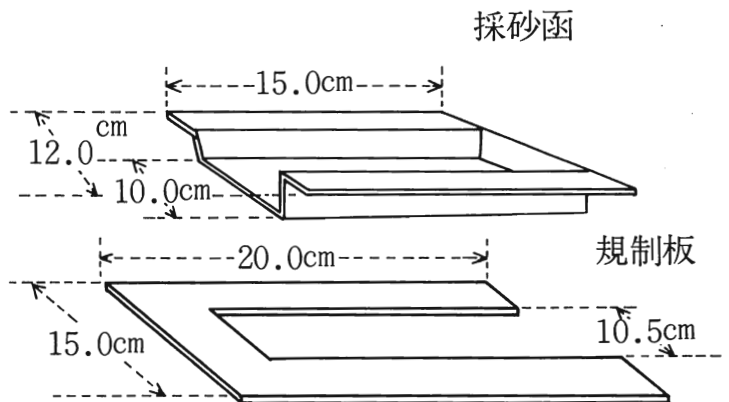
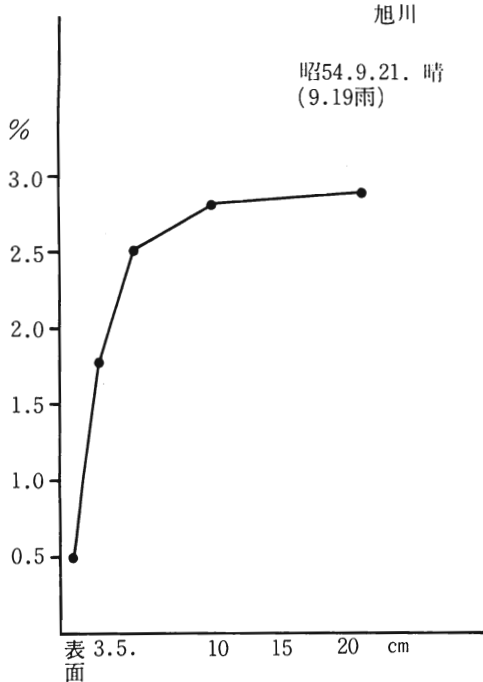


図4 砂層内水分の分布

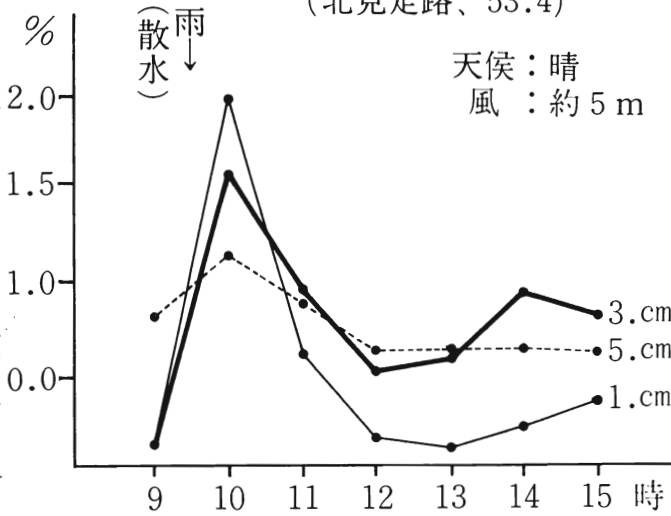


く時間が経たないうちに、先づ先に述べた規制板を目的の場所に平らに置いて表面を固定し、片手でこれを押え、採砂函を入れようとする側の砂を少し除き、函の両側の支えを規制板にのせ、それが略水平になるよう保持したまま前方に押し進める。

次いで函の中に三〇〇〜五〇〇gの砂が得られたら、その砂を収納袋に納め、直ちにその袋の口を閉じ速かに検査案に持ち帰り計測を行なうのである。

二、水分の測定。袋に納められた砂を均一になるようもう一度良く振って混ぜ

図6 走路砂の表層厚さ別の水分推移
(北見走路、53.4)



合せ、あらかじめ目盛を確めた水分計の皿に砂の所要量を正確に盛る。次にその砂を平らに拡げてもう一度目盛を確め直ちに点灯加熱乾燥を行なう。これまでの手順は操作中に水分が蒸発することもあるので手早く行なうことが必要である。

点灯中は時に観察して充分乾燥したことが確認されたら注意して計測に移る。

ホ、水分値の読みとりと記録。砂が乾燥すると軽くなって秤りは分銅側に傾斜するので水分計の表示目盛桿の錘を移動させて両者の平衡を求め、示された数値を誤りのないよう読みとるのである。こ

の場合検査する者は眼の高さを目盛桿と水平となるようにして正確に読むことが大切である。

読みとった数値は必ず記録簿に記載し、

さらに日付、時間、採取場所は勿論であるが、そのときの天候の諸条件など(日照、気温、風力、風向、降雨の状態)が附記されれば、後刻検討がなされる場合の貴重な資料となるものと思われる。

水分の表示には降雨量の増大に従い砂層内の含水量増大して高い水分値を示すのは当然であるが、時期すでに寒冷積雪の候に至れば、更に結氷、氷塊、雪塊などの混在により予想外の水分値の増高が認められるものである。この場合直接こ

れを溶解して水分値を求めるものも一法と思われるが、競走には氷雪の滑走性の影響を直接使用される橇など受けるのであるからかえってそのまま“雪”“みぞれ”

或は“凍結”などの表現についても一考を要するものと思われる。

むすび

走路砂の水分値測定を行なうに当り、これを正確かつ合理的ならしめるため先ず対象となる各市競馬場施設の走路砂の特性を概観し、検査砂採取器具を考案する外作業操作上の若干の検討を試み、不備ではあるが、一応の検査要領を設定した。併せてこれらの運用を経験的な範囲において述べた。

おわりに

本項を終えるに当り採砂用器具を考案し、終始本作業にご協力いただいた本会嘱託高野邦彦氏ならびに同様に同様に協力賜った関係各位に深謝する。

表1 暑熱日の走路砂上温 (昭54)
(岩見沢)

月日	開回	催日	レース	天候	馬場水分	砂上表面温度(°C)
7. 7	I	2	7	晴	0.9	42°
7. 9	〃	4	1	曇	1.5	40
〃	〃	〃	3	〃	1.5	45
〃	〃	〃	6	晴	1.2	40
7.13	〃	5	5	〃	0.3	50
〃	〃	〃	8	〃	0.3	40
7.15	II	1	1	曇	0.4	36
〃	〃	〃	4	晴	0.3	48
7.20	〃	3	2	晴	0.2	57
〃	〃	〃	4	〃	0.2	50
7.21	〃	4	4	晴	0.2	50
7.22	〃	5	4	晴	0.2	53
8.12	III	6	1	晴	0.3	54
〃	〃	〃	3	〃	0.2	52
〃	〃	〃	6	〃	0.2	50
8.13	IV	1	1	晴	0.3	54
〃	〃	〃	7	〃	0.2	48
8.15	〃	2	2	晴	0.2	55
〃	〃	〃	4	〃	0.2	55
8.16	〃	3	1	晴	0.1	52
8.18	〃	4	1	曇	0.2	36

※特に暑いと体感じた日、市販の寒暖計をもって測定した。

昭和54年度

馬産奨励に関する生産者賞種雄馬管理者賞受賞者名簿

受賞者名	種雄馬管理者賞			生産者賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名 生年月日	出走馬名	血統馬名 生年月日			
高橋 敏	ソイック	コマツヤマ	初 勇 51.4.20				3	足寄農協經由 道銀足寄支店
野口 正雄	ナオス雄	センブクザン ヒメホマレ キョウエイチカラ	プロリ雄 5. 5 永 姫 5.10 春 駒 5.25				9	
只野 幸一	カポラル	カリフォート	勇 5. 1				3	
佐々木 七郎				カリフォート	勇 5. 1		5	
永井 満				ヒメホマレ ^(牝)	永 姫 5.10		7	27
音更町農協	エドガー	ナナエヒメ ダイニウルガット	第三乙姫 4.20 三世ウルガット の二 5. 1				6	音更農協經由 たくぎん帯広支店
田村 勝	晏 栄	トカチリュウ アズマヒカリ リキイチ トカチアラスカ カツヒメサカエ	十勝栄 4. 5 東 光 4. 7 流 宝 4.15 第二晏栄 4.15 宝 栄 4.1				15	33
福井 為作				トカチリュウ	十勝栄 4. 5		5	
杉山 久繁				アズマヒカリ ^(牝)	東 光 4. 7		7	
緑川 実	試 鳳	シャリトッパー	初姫二世 5.28				3	浦幌農協經由 たくぎん池田支店
養野 恒夫	ドウイユドウイユ	トミイチ アサヒカチドキ ミツエイ	駒 宝 5. 5 章 雄 4.10 北 洋 4.18				9	24
沢田 茂夫				トミイチ	駒 宝 5. 5		5	
河村 鶴松				シャリトッパー ^(牝)	初姫二世 5.28		7	
乾川 学	キャンペロ	ヤマセンフジ	日 勝 5. 5				3	芽室農協經由 北信連 3
天野 松信	郎 夕	モガミオーザ ロウエイ アキヒメ	郎 栄 4.25 ロウショウ 5. 5 明 姫 5.20				9	木野農協經由 北信連
高山 正雄				ナナエヒメ ^(牝)	第三乙姫 4.20		7	26
吉井 助一				ロウエイ	ロウショウ 5. 5		5	
黒田 一由				モガミオーザ	郎 栄 4.25		5	
土屋 修三	山 嵐	トチワカ ツルムサン	吉 山 4.30 豊 駒 4.30				6	
鈴木 栄	パトリシア	タケデンホ	北海嵐 4.25				3	9
上士幌町農協	ボヌール	ダイニタグヒメ チカラコマ ヨシヒデ ヤマトシンプー	第二忠姫 4.19 百合姫 5.10 宝 栄 4.26 銀 嶺 4.20				12	上士幌町農協經由 北信連 12
森 春 蔵	オーロラ二世	カゲヒカリ	豊 4.10				3	本別町農協經由 北信連
南部 文夫	ダンディ	ユリアンティ	春 栄 5.1					

受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞			生 産 者 賞			賞金額 万円	交付方法
	種 雄 馬 名	出 走 馬 名	血統馬名 生年月日	出 走 馬 名	血統馬名 生年月日			
南部 文 夫	ダンディ	カチオープン マサタカラ	春 隆 5.1 優 孝 5.25				9	本別町農協經由 北 信 連
南部 栄 吉				ユリアンティ ^㊄	春 栄 5.1		7	
上 田 隆 一				カチオープン	春 隆 5.1		5	
三 沢 秀				マサタカラ	優 孝 5.25		5	
北 村 正 義	キプロク	ダイゼンシン トウショウキング アポロオーザ メジロオーカン メジロキング	泉 宝 5.3 キブ雄 5.1 十勝雄 4.30 陽 泉 5.10 松 姫 5.15				15	池田町農協經由 北信連
成 田 房 吉				マサカツ	メキシコ二世 4.14		5	
小 林 七 郎				ソラチユタカ	悦春の雄 5.1		5	
十勝高島農協	第三オデオン	リュウタロー ソラチキリン エンガルボーイ キタカブト	栄 雄 5.1 宝 雄 4.26 十勝ヒリュウ 3.15 二世オデオン 5.1				12	十勝高島農協 經由 北信連
中 村 弘				リュウタロー	栄 雄 5.1		5	
高 島 保 男				ソラチキリン	宝 雄 4.26		5	
高 山 支 征				エンガルボーイ	十勝ヒリュウ 3.15		5	
玉 置 清	ウルバン	ハーバーエイユウ デリエール	初 駒 5.1 第二鵬春 4.20				6	幕別町農協經由 たくぎん幕別支店
村 田 義 男	久 都	イチキタオー トカチテンリュウ カイシンゲキ マサタカオ	第二ボンシ 4.30 久都三世 4.26 旭 都 3.20 タキノボル 5.10				12	
棚 橋 吉 一				リュウタカラ	清 駒 2.20		5	
本 保 征 喜				ハーバーエイユウ	初 駒 5.1		5	
十勝農協連	ジャンデュマレイ	リュウタカラ マサカツ ソラチユタカ カールキング ベルタカラ オンライン	清 駒 2.20 メキシコ二世 4.14 悦春の雄 5.1 ベルシャン二世 3.30 第一ベル宝 4.14 オンライン号 5.9				18	十勝農協連 北 信 連
佐 藤 昇 市				クラークパワー	美 静 5.17		5	
佐 藤 弘	バンコ	テンホウショウ	盛 新 5.20				3	8
渡 辺 芳 次	紅 兆	クラークパワー ソラチオオクラ	美 静 5.17 春 風 4.29				6	忠類農協經由 6
山 岸 昇				リキイチ	流 宝 4.15		5	直接本人へ
長 野 武 良				トカチアラスカ	第二晏栄 4.15		5	"
小 川 政 吉				スズラン ^㊄	春 姫 4.15		7	埴延町農協經由
大 村 雄 三	第三キャンペロ	ワカトカゲ ヨシノアサ	サマオーザ 4.15 第一アサクニ 3.20				6	十勝利別農協經由 北信連
岩 佐 丁 三				カールキング	ベルシャン二世 3.30		5	
横 山 松太郎				キタカブト	二世オデオン 5.1		5	
原 田 純 吉	アリスト	ミサワトップ マツシマイチ	アリ雄 4.1 サクラ 4.7				6	豊頃農協經由 たくぎん池田支店

受賞者名	種雄馬管理者賞			生産者賞			賞金額 万円	交付方法	
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名 生年月日	出走馬名	血統馬名 生年月日				
釧路農協連	虹 栽	ブルマン	轟 4.25				23	釧路農協連經由 たくぎん釧路支店	
	協 北	コデラメイゲツ	栄 華 3.10						
	銅 柑		ケルネオー	釧 鉄 4.25	ケルネオー	釧 鉄 4.25			
			ベニタイシッポ	平 花 4.25					
			テツコマ	平 波 4.30					
			コトブキオー	平 若 4.27					
道下知敏	ベルサイユ	ムツタケ	武 菊 5. 7			3			
大久保芳信	南 星	ブラックリバー	宝 岩 5. 5			11			
	豊 田	ワカクモオー	琴 若 4.20	ワカクモオー	琴 若 4.20				
長村豊司	二世ロッシーニ	ブラックモナーク	若 竜 5.13			12			
		キンカホウ	清 松 4.25						
		トキノカイジン	汐 島 5.17						
		ユウゲン	大 徳 5. 5						
砂金良治	ヴォールル	ヤマニオウカ	山 千 5.10			12			
		ツガルハヤテ	宝 山 2. 5						
		キタノウルフ	優 山 5. 6						
		ミネヒカリ	十勝ハヤテ 5.15						
松野宏	フラトウール	コウキエン	丹 流 3.18			6			
		カワムサシ	第二玉風 4.10						
中西石松	グリフォン	ヒヤマフジ	富富士 5.10			6			
		スピーディクイン	第二松姫 4. 2						
赤羽根丑右エ門	第17オートリ	ヒカルオートリ	麗 要 4.15			6			
		コトカゼ	瑞 楓 4. 5						
松下正義				ブラックリバー	宝 岩 5. 5	5			
若林茂				ブラックモナーク	若 竜 5.13	5			
三浦源一				トキノカイジン	汐 島 5.17	5			
橋本君徳				ユウゲン	大 徳 5. 5	5			
加藤吉次				ツクモイチ	竜 眸 5.20	5			
根本与三郎				ヤマニオウカ	山 千 5.10	5			
四 栗 栄	二世ロッシーニ	ハヤタカラ	ロッシーニハク			33	直接本人へ		
			セイコー 4.15						
		トキノカナミ	輝 姫 4.23						
		キタホマレ	雄 峰 3.29						
		ジョウホウ	黒 雲 4. 1						
		ユウセン	勝 雄 5. 6						
		カゲホマレ	勝 政 4.24						
		エキサイトパワー	アバシリ新山 4.20						
		セイカン	盛 雲 4.28						
		ハルノブ	ニクラトップ 4.10						
		フブキフジ	初 菊 2.22						
		コウリョク	清 光 3.15						
		衣笠義雄	ゲブランタン	ユタカモリ	北 洋 4.21				
キミヒメ	琴 姫 4.10								
テンマオー	プラタン1号 5.27								

受賞者名	種雄馬管理者賞			生産者賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名 生年月日	出走馬名	血統馬名 生年月日			
衣笠義雄	アプレス	キタノミハル	第六三春 4.1	キタノミハル	第六三春 4.1	23	直接本人へ	
		ヨシツネオー	キタミコマ 4.10					
		カミホマレ	豊勝 5.27					
北口与喜	蝶武	セキホク	チョウトップ 5.3			3	"	
池和夫	得良	セイショ	誠勝 5.10			12	"	
		ダイニカブトモリ	第二幸栄 4.10					
		ヒロサキオーザ	光進 4.1					
		コマカゲ	玉良 4.1					
松田隆三	楓朝	ミサワコマ	玉宝 4.25			21	"	
		キタノフジ	北洋 5.1					
		シャインスター	春楓 3.7					
		チカラハヤテ	楓花 4.8					
		トキノギョクリュウ	栄楓 4.5					
		エンゼル	宝駒 4.7					
		キタミフジ	柏洋 5.7					
三浦勇	豊盃	ハマナカトップ	勇誠 5.8			12	"	
		サロマホクシン	北進 5.1					
		バンヒリュウ	天竜 4.28					
		タカラツバキ	春風 3.21					
晶沢義雄	知染	ホーコウトップ	光雄 4.19			6	"	
		サロマタイホー	大鵬 4.18					
藤本芳郎	ペルボンシェー	トキノハヤブサ	ハヤブサ 4.20			12	"	
		ワキヒメ	ヒメボンシ 4.8					
		シルバースター	白ボンジー 4.10					
		ダイニボンシー	第二ボンシ 5.10					
	第2太陽	タルニシキ	菊駒 4.30			3		
岡村稔	カブリシュー	ハクヤマト	勝姫 4.5			9	"	
		マリネット	湧栄 3.4					
		ツガルイワキフジ	セトセトップ 3.30					
早坂賢二	第二ナオス	スズラン	春姫 4.15			3	"	
児島和夫	宝栄	ニシバロトップ	キンショー 4.7			3	"	
中川正三	宝嘉	テルザクラ	照桜 4.1			3	"	
小笠原学				トキノカナミ [㊞]	輝姫 4.23	7	"	
大野正助				キタホマレ	雄峰 3.29	5	"	
今泉豊治				ジョウホウ	黒雲 4.1	5	"	
川瀬芳雄				カゲホマレ	勝政 4.24	5	"	
片川勝博				ミサワコマ	玉宝 4.25	5	"	
藤枝勝行				キタノフジ	北洋 5.1	5	"	
俵徳太郎				シャインスター [㊞]	春楓 3.7	7	"	
萩原和幸				セキホク	チョウトップ 5.3	5	"	
安田悟				ヨシツネオー	キタミコマ 4.10	5	"	
坂口音吉				トキノハヤブサ	ハヤブサ 4.20	5	"	
三好敏				ワキヒメ [㊞]	ヒメボンジ 4.8	2	"	
辻重男				センブクザン	ブロリ雄 5.5	5	"	
崎山尚徳				ユウセン	勝雄 5.6	5	"	

受賞者名	種雄馬管理者賞			生産者賞			賞金額 万円	交付方法
	種雄馬名	出走馬名	血統馬名 生年月日	出走馬名	血統馬名 生年月日			
片平進 洩				ユタカモリ	北洋 4.21	5	直接本人へ	
鈴木義 男				キミヒメ ^(牝)	琴 姫 4.10	7	"	
鳴海精 一				ハヤタカラ	ロッシ-ニハクセイコー 4.15	5	"	
太田三 男				ハマナカトップ	勇 誠 5. 8	5	"	
佐々木 博				ホ-コウトップ	光 雄 4.19	5	"	
武田邦 弘				サロマホクシン	北 進 5. 1	5	"	
村田豊 彦				ハクヤマト	勝 姫 4. 5	5	"	
村山 実				セイショ	誠 勝 5.10	5	"	
尾田美 供				バントップ	天 竜 4. 5	5	"	
鈴木由 雄				チカラハヤテ ^(牝)	楓 花 4. 8	7	"	
大塚真 見				ニシバロトップ	キンショー 4. 7	5	"	
泉 勇 造	第一桜	ハクイサミ ダイニテンリュウ	白 勇 5.15 第二天龍 4.27			6	"	
小松田 繁	栄 協	ハクオー	剛 力 5.15			3	"	
及 川 章	栄 勝	バントップ アイスクイン キタミボタン ハツハナ	天 竜 4. 5 勝 勇 4.12 小 春 5.10 勝 正 3.21			12	"	
浜 田 勘 治	幸太郎	タカラクジ	第二ボタン 4.20			3	"	
島 田 孝 四 郎				ダイニタダヒメ ^(牝)	第二忠姫 4.19	7	"	
千 葉 繁 夫				アイスクイン	勝 勇 4.12	5	"	
阿 部 正 義	公 陽	デワフブキ ダイサンエンゼル	陽 秀 4.30 第三エンゼル 3.30			6	"	
工 藤 馨	竜 松	ツクモイチ ロッキーナイト	竜 眸 5.20 竜 陽 5.10			6	"	
加 藤 鶴 雄	玉 根	ネムロダイオウ	玉 雪 5. 1			3	"	
福 井 秀 男				デワフブキ	陽 秀 4.30	5	"	
信 田 正 実				ヒカルオートリ	麗 要 4.15	5	"	
沼宮内 勇				ロッキーナイト	竜 陽 5.10	5	"	
福 島 広 光				ネムロダイオウ	玉 雪 5. 1	5	"	
日向寺 幸 一				ハクイサミ	白 勇 5.15	5	"	
川 浪 徳 一	ロッシ-ニ	ミスホベツ ヒメヒカリ ダイプロッシ-ニ ナガヌマハヤテ	ホベツトップ 4.14 メジロクイン 5.17 第五松風 5.25 勇 進 4.10			12	"	
萩 原 次 雄				スターカップ- ^(牝)	楓 幸 6. 1	7	"	
内 藤 善 弘	第十ノマード	バンルオー	勝 進 4. 3			3	"	
土 岐 豊 光				キタノハヤテ	第三大宝 4.30	5	"	
片 田 住 雄	オデコマ	クシロハヤテ ドウナンチカラ	新 山 3. 4 第三栄神 3.25			6	"	
桑 名 英 省	第一春駒	サクラホマレ	黒 竜 4.26			3	"	
伊 藤 鉄 雄	第一マジョル	ドウナンツバメ	第三松江 4.18			3	"	
大 森 信 明	連 航	イタロン	山 桜 3.26			3	"	
小笠原 健 一				イタロン ^(牝)	山 桜 3.26	7	"	
水 野 武 光				カツトシ	梅 風 4.10	5	"	
吉 田 春 吉				サクラホマレ ^(牝)	黒 竜 4.26	7	"	

受賞者名	種 雄 馬 管 理 者 賞			生 産 者 賞		賞金額 万円	交付方法
	種 雄 馬 名	出 走 馬 名	血統馬名 生年月日	出 走 馬 名	血統馬名 生年月日		
天 塩 酪 農 協	二世ユールガット	キタノホウザン	豊 山 3.28			3	天 塩 酪 農 協
檜 野 元 一	産 日	ヒダカシンザン ハイゼックムサン	立 修 4.25 第一産日 4. 4			6	日高町農協經由 北信連
長谷部 信 悦				ヒダカシンザン	立 修 4.25	5	11
三 上 秀 雄	新 松	カツイチ	サワヒカリ 4.12			3	穂別町農協經由
工 藤 幸 吉				ミスホベツ [㊟]	ホベツトップ 4.14	7	北信連 10
成 田 功	輝 彦	カヤベヒメ	春 駒 3.15			3	伊達市農協經由 北信連
森 秀 夫	コレッシー エンタープライズ	ウチウラ オオミサワ マルモユウホー マルモキング ダンガードエース	大 雄 3.28 大 福 4. 1 峰 山 3. 9 烈 山 5. 5 幸 蘭 3. 7			15	社警町農協經由 北信連
虻 田 町 農 協	第二ロッシーニ	カツシ ダイニセーコー ヒダイサミ タカラビゼン カガワヒメ レッドアロー マサイチ	梅 風 4.10 第二ゴジュール姫 4.25 八 姫 4. 1 ハイジンガー 4.20 ハナワヒメ 3.15 隆 雄 4. 1 信 隆 4. 8			21	虻田農協經由 北信連
岡 崎 進				カヤベヒメ [㊟] ダイニセーコー [㊟]	春 駒 3.15 第二ゴジュール姫 4.25	14	35
堀 岩 松				マルゼンレコード	ロング 4.22	5	厚真町農協經由 北信連
菊 地 和 一				ウチウラ	大 雄 3.28	5	洞爺村農協經由
渡 辺 高 光				オオミサワ	大 福 4. 1	5	大滝村農協經由
橋 本 善 吉	マルゼンストロング ホース	タミオヒメ マルゼンレコード スターカップ ランヒメ キタノオープン イワホマレ マルタツハヤト キタノキンボシ クリスピード	宝 桜 4. 3 ロング 4.22 楓 幸 6. 1 マルゼンヒデナミ 4.25 第一エタロン 5.10 栄 光 5.13 ハヤサト 4.20 穂 勇 3.27 雄 幸 4.20			27	早来農協經由
平 野 儀 雄				タミオヒメ [㊟]	宝 桜 4. 3	7	
酒 井 秀 克				ランヒメ [㊟]	マルゼンヒデナミ 4.25	7	41
白 瀬 包	大 宝	キタノハヤテ	第三大宝 4.30			3	直接個人へ
工 藤 敏 夫	第一カピール	リキユウ	力 新 4.12			3	"
山 内 清				キンカホウ	清 松 4.25	5	"

ばんえい重量は500kgとし本年取得賞金50万円につき10kgの加増を行う。

なお、第3回岩見沢競馬より別定重量とする。

(イ) 4・5才馬

3才時よりの通算取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

取得賞金	500万円 未 満	350万円 未 満	260万円 未 満	180万円 未 満	100万円 未 満
ばんえい重量	640kg	620kg	600kg	580kg	560kg

(ウ) 6才以上

昭和52年以降の取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

ただし、4・5才馬で編入する馬は、同額賞金クラスに編入し競走において10kgを減量する。

取得賞金	1,300万円 以 上	1,300万円 未 満	1,000万円 未 満	800万円 未 満	650万円 未 満	500万円 未 満	350万円 未 満	250万円 未 満
ばんえい重量	700kg	700kg	680kg	660kg	640kg	620kg	600kg	600kg

(エ) オープン馬

昭和52年以降の取得賞金1300万円以上の馬をオープンとする。

1300万円以上の取得賞金に対し500万円につき10kgの基礎加増を行う。

本年取得賞金に対し300万円を越える額ごとに10kgを加増する。

(3) 雌馬は競走において10kg減量する。

(4) 普通及び別定競走において委員長の指定する騎乗騎手は、通算勝利回数により10kg減量する。

7. 希 望 編 入

取得賞金によらず希望で編入できるのは、オープンのみとし番組編成会議で決定する。

ただし、希望編入できるのは7月までとする。

8. 普通競走において全馬のばんえい重量が高重量となるときは、全馬の重量を一率に減ずることができ。

9. 取得賞金は、特に記載のない限り前回までの合計とする。

10. 騎乗の制限

(1) 1日の騎乗回数は6回、連続騎乗は3回を限度とする。

ただし、委員長が特に認めた場合は、この限りではない。

(2) 騎乗変更した騎乗騎手の翌日の騎乗は、これを認めない。

ただし、委員長が特に認めた場合は、この限りではない。

11. 騎乗騎手の減量について

委員長が指定する騎乗騎手は、次のとおりとする。

(1) 数え年30才以下の騎乗騎手で、通算勝利度数25勝以下の者。

(2) 減量騎乗騎手は、出馬表に☆印で表示する。

12. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

番組編成要領

1. 出走馬の種類

軽種及び軽半血種以外の種類

2. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること

- (1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬
- (2) 新馬 3才
古馬 10才以下（再登録馬は、6才以下の馬）
- (3) 馬体重 3才 700kg 以上の馬
4才以上 750kg 〃
- (4) 馬体検査、能力調教検査に合格した馬

3. 出走の制限及び拒否

- (1) 外国産馬は、出走できない。
- (2) こ疾の程度が重く又は、外観上みにくい馬。
- (3) 出走取消をした馬及び競走除外馬（同枠除外を除く）は、その開催の残余期間。
- (4) 尋常てい鉄を使用しない馬。
- (5) 調教が充分でない癖馬及び失明馬（片眼馬を含む）。

4. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

- (1) 1競走における出走頭数は、10頭以下とする。
- (2) 普通競走において、前項に定める頭数を越えて出走投票があった場合は、抽選により出走馬を決定する。
- (3) 前項により出走できなかった馬は、競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4) 出走投票の結果、1競走の頭数が5頭以下の場合は、その競走を取り止め新たに競走を設けることができる。

ただし、偶発的事故又は疾病等により出走を取り消し又は、競走除外を命じた場合を除く。

5. 競走の区別

取得賞金額（1着～5着まで以下同じ）により編成し年令別に次のとおりとする。

3才 3才馬のみの編成とする。

4・5才 4・5才馬の混合編成とし、通算取得賞金500万円以上の馬は、4才以上の競走に編入する。

4才以上 4才以上の混合編成とする。

6. 負担重量

- (1) 騎手重量 騎手重量は75kgとする。
- (2) ばんえい重量
(ア) 3才馬

昭和55年度報償費

1. 馬主に関するもの

- (1) 賞金 競馬番組で示した金額
- (2) 出走手当 次に該当する馬主に対し支給する
- (ア) 競走に1回以上出走したとき
- (イ) 特別報償金の受給資格のあるとき

出 走 手 当	42,000円
---------	---------

- (3) 着外手当 競走に出走し6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。ただし、失格及び競走中止の場合は支給しない。

重 賞 競 走	1着賞金	300万円以上	100,000円
	〃	300万円未満	40,000円
特 別 競 走			25,000円

- (4) 特別報償金 次に該当する馬の馬主に対し支給する。
- (ア) 出走投票の結果1競走の出走頭数が5頭以下のため競走が取り止めになったとき又は、制限頭数を越えたため抽選により出走できなくなったときとし、当該開催競馬において同一馬につき1回とする。
- ただし、当該開催の競走に出走した馬を除く。
- (イ) 競争除外等で同枠のため除外(友引)になったとき。
- (ウ) 天災その他やむを得ない理由により開催当日に、競馬又は競走を取り止めたとき。

(ア)のとき	その競走の5着賞金ただし、25,000円を限度とする(騎手賞、厩務員賞においてもこれに準ずる。)
(イ)のとき	その競走の3着賞金(騎手賞、厩務員賞においてもこれに準ずる。)
(ウ)のとき	その競走の賞金と着外手当の合計額を出走頭数で按分した範囲の額(騎手賞、厩務員賞においてもこれに準ずる。)

- (5) 輸送手当 競馬場毎に1回以上出走した馬(特別報償金受給資格を有した馬を含む)の馬主に対し当該競馬場毎に支給する。

輸 送 手 当	10,000円
---------	---------

2. 騎手に関するもの

騎 手 賞

競走に出走した馬の騎手に対して支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1 着	2 着	3 着	4着以下
調 教 騎 手	25,000	21,000	16,000	11,500
騎 乗 騎 手	16,000	12,000	10,000	7,500

3. 厩務員に関するもの

厩 務 員 賞

出馬確定した馬の厩務員に対して支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1 着	2 着	3 着	4着以下
厩 務 員 賞	13,500	11,500	9,500	7,000

(受給対象者は、北海道市営競馬協議会会長の厩務員認定を受けた者。)

昭和54年度市営競馬成績

主催者	期別	売得金額	1日平均	賞金額	入場人員	1日平均
旭川市	1	1,312,780,500	218,796,750	49,476,000	31,577	5,263
	2	1,552,319,300	258,719,883	58,824,000	35,465	5,911
	3	1,784,637,300	297,439,550	70,870,000	36,020	6,003
	4	1,578,278,600	263,046,433	72,675,000	29,108	4,851
	5	2,126,275,900	354,379,317	83,353,000	36,254	6,042
	計	8,354,291,600	278,476,387	335,198,000	168,424	5,614
北見市	1	816,165,800	136,027,633	39,558,000	16,790	2,798
	2	1,081,056,400	180,176,067	44,232,000	21,447	3,575
	3	1,202,861,600	200,476,933	49,951,000	26,969	4,495
	4	1,488,089,300	248,014,883	59,736,000	30,955	5,159
	計	4,588,173,100	191,173,879	193,477,000	96,161	4,007
帯広市	1	1,201,098,300	200,183,050	42,579,000	29,126	4,854
	2	1,306,865,300	217,810,883	48,032,000	28,610	4,768
	3	1,164,131,200	194,021,867	55,024,000	22,169	3,695
	4	1,866,843,100	311,140,517	62,377,000	32,483	5,414
	計	5,538,937,900	230,789,079	208,012,000	112,388	4,683
岩見沢市	1	902,841,800	150,473,633	49,324,000	19,455	3,243
	2	1,396,843,000	232,807,166	54,207,000	29,499	4,917
	3	1,263,251,200	210,541,867	62,871,000	25,662	4,277
	4	2,209,390,000	368,231,667	81,776,000	46,629	7,772
	計	5,772,326,000	240,513,583	248,178,000	121,245	5,052
合 計	計	24,253,728,600	237,781,653	984,865,000	498,218	4,884

昭和54年度道営競馬成績

競馬場	期別	売得金額	1日平均	賞金額	入場人員	1日平均
岩見沢市	1	1,758,895,400	293,149,233	81,320,000	47,783	7,964
	2	1,528,885,200	254,814,200	86,640,000	30,390	5,065
	3	1,571,547,400	261,924,566	83,866,000	30,901	5,150
	4	1,618,757,000	269,792,833	99,522,000	33,264	5,544
	5	1,856,007,400	309,334,566	88,787,000	37,126	6,188
	計	8,334,092,400	277,803,080	440,135,000	179,464	5,982
旭川市	1	784,388,200	130,731,366	83,106,000	16,152	2,692
	2	983,815,200	163,969,200	84,474,000	21,647	3,608
	3	1,020,126,200	170,021,033	89,604,000	22,395	3,733
	計	2,788,329,600	154,907,200	257,184,000	60,194	3,344
帯広市	1	756,926,000	126,154,333	79,705,000	17,939	2,990
	2	952,925,000	158,820,833	84,930,000	20,933	3,489
	3	966,739,200	161,123,200	87,875,000	20,326	3,388
	4	1,386,833,800	231,138,966	88,597,000	28,378	4,730
	計	4,063,424,000	169,309,333	341,107,000	87,576	3,649
札幌市	1	3,160,182,200	526,697,033	106,628,000	82,707	13,785
	2	3,054,998,800	509,166,466	97,964,000	72,064	12,010
	3	3,183,990,600	530,665,100	93,062,000	79,261	13,210
	4	3,178,016,200	529,669,366	98,154,000	72,680	12,113
	5	3,429,048,600	571,508,100	115,938,000	74,501	12,417
	計	16,006,236,400	533,541,213	511,746,000	381,213	12,707
合 計	計	31,192,082,400	305,804,730	1,550,172,000	708,447	6,945

昭和54年度種雄馬ランキング

6才以上

順位	種類	馬名	頭	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ブル	鉄 鯉	16	38	55,125,000 ^円	ダイケツ, キンバイ
2	ペル	楓 朝	13	20	37,697,000	キヨヒメ, キヨウエイ
3	ペル	ウルバン	7	14	23,103,000	イシカリハヤテ, トシクイーン
4	ペル	オナシス	3	8	16,222,000	ダイニメイハウザン, ノヘジトップ
5	ブル	ボヌール	4	10	16,201,000	キンボシ, シホロテンリュウ
6	ペル	タンブー	2	5	16,066,000	ハクリュウ, ヒラマザン
7	ペル	二世ロッシーニ	10	11	15,698,000	ユウハウ, キタノダイリュウ
8	ブル	キプロク	6	16	14,707,000	キプオーザン, マサヒカリ
9	ペル	アプレス	7	11	13,112,000	バンミハル, ブラックパワー
10	ペル	久 都	4	15	12,411,000	スイショウ, リウリキ

4・5才

順位	種類	馬名	頭	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ペル	楓 朝	11	35	25,388,000 ^円	キタノフジ, トカチノボル
2	ブル	鉄 鯉	19	30	24,482,000	テイスサミ, キヨタカラ
3	ペル	二世ロッシーニ	12	22	24,116,000	ハヤホマレ, ハヤタカラ
4	ベルジ	ジャンデュマレイ	4	7	12,529,000	リュウタカラ, マサカツ
5	ペル	二世ロッシーニ	7	10	10,913,000	アグネスラム, キタノサブロウ
6	重半	カチサカエ	8	11	10,167,000	ドラゴンダッシュ, アズマヒカリ
7	ペル	第二オデオン	2	7	10,130,000	カイリキ, アップールーサ
8	ペル	ダンデイ	6	11	9,901,000	ヤマサラッキー, センポイント
9	中半	ナオス雄	5	13	9,759,000	ヒメホマレ, サワノチカラ
10	ペル	第三オデオン	5	10	9,181,000	リュウタロー, ヤマトエイユウ

3才

順位	種類	馬名	頭	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ペル	二世ロッシーニ	17	42	31,033,500 ^円	ホマレオーザ, ゴウカイ
2	重半	タカラコマ	21	34	25,704,000	バンリュウ, シマノエミー
3	ペル	楓 朝	16	30	23,459,000	サワラローズ, ホマレタイショオ
4	ベルジ	ジャンデュマレイ	10	28	17,305,000	トカチホシ, マコト
5	ベルジ	マルゼンストロングホース	6	13	13,143,000	マルトダンサー, キタノカゲ
6	ペル	産 日	6	11	8,174,000	シンザンサカエ, エリモアラシ
7	重半	カチサカエ	9	13	6,765,000	ヨシオ, アズマイサム
8	ペル	ボルール	4	9	5,820,000	イデサカエ, ジュエル
9	中半	ナオス雄	4	6	5,808,000	カミタカラ, ゼントルマン
10	ペル	第二オデオン	5	7	5,292,000	カチミツル, スカイエース

(尚、頭は出走馬頭数、勝は1着数)

昭和54年度賞金受賞ランキング

年令 順位	3		オ	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	マルトダンサー	13	6,575,000	
2	ホマレオーザ	20	6,297,000	
3	パンリュウ	16	5,368,000	
4	トカチホシ	17	5,288,000	
5	モンスター	21	4,327,000	
6	ゴウカイ	15	4,262,000	
7	サワラローズ	22	3,893,000	
8	ホマレタイショオ	26	3,698,000	
9	カミタカラ	18	3,325,000	
10	シマノエミー	15	3,253,000	
11	ハツイサミ	14	3,207,000	
12	メイハウザン	19	3,182,000	
13	キンタロー	10	3,135,000	
14	ホツカイホープ	16	3,072,000	
15	ダイリンオー	19	2,870,000	
16	キタノカゲ	14	2,745,000	
17	キヨチカラ	15	2,730,000	
18	アサヒグリフォン	17	2,720,000	
19	カチミツル	20	2,714,000	
20	タカノリュウ	17	2,668,000	

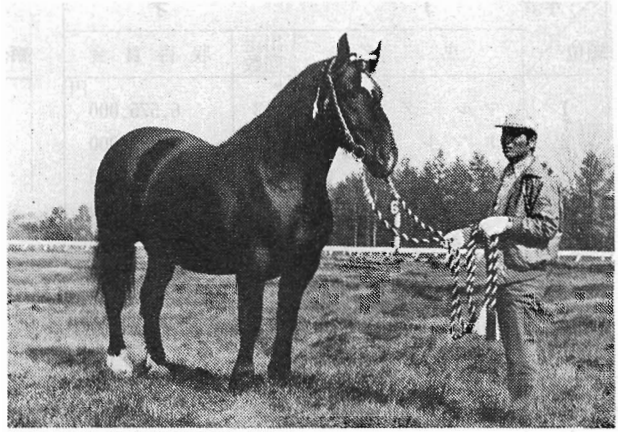
年令 順位	4		オ	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	キタノフジ	17	7,450,000	
2	リュウタカラ	11	6,865,000	
3	マサカツ	22	4,302,000	
4	セキホク	23	4,268,000	
5	リュウタロー	15	4,039,000	
6	ミサワコマ	15	3,870,000	
7	スターカップ	22	3,625,000	
8	ヒメホマレ	15	3,354,000	
9	ハヤタカラ	14	2,829,000	
10	ユタカモリ	19	2,218,000	
11	ブラックリバー	16	2,217,000	
12	アズマヒカリ	3	2,030,000	
13	ダイサンキクヒメ	17	1,744,000	
14	トキノハヤブサ	14	1,440,000	
15	ネムロダイオウ	17	1,352,000	
16	キタノウルフ	17	1,346,000	
17	キミヒメ	15	1,340,000	
18	ユウセン	17	1,277,000	
19	カヤベヒメ	17	1,268,000	
20	ハツハナ	14	1,258,000	

年令 順位	5		オ	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	ハヤホマレ	19	10,315,000	
2	カイリキ	19	9,837,000	
3	トカチノボル	21	5,106,000	
4	カワアラシ	22	4,717,000	
5	テツイサミ	16	4,422,000	
6	トキノロブスト	18	4,215,000	
7	アグネスラム	18	4,023,000	
8	ヤマサラッキー	18	3,689,000	
9	ドラゴンダッシュ	23	3,064,000	
10	キヨタカラ	12	3,035,000	
11	アサヒチカラ	18	2,977,000	
12	フジノボリ	18	2,845,000	
13	センポイント	22	2,795,000	
14	サワノチカラ	13	2,640,000	
15	ムツノベア	24	2,547,000	
16	タカマサル	17	2,517,000	
17	トキノエイユウ	18	2,420,000	
18	キタノセイコ	15	2,338,000	
19	ヤヨイ	17	2,336,000	
20	タマカエデ	13	2,336,000	

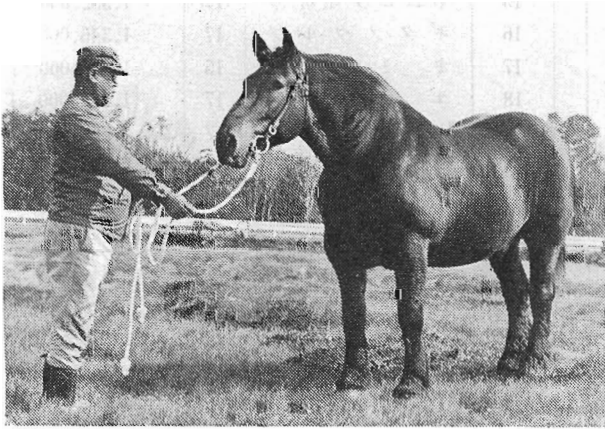
年令 順位	6		オ以上	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	ハクリュウ	11	14,000,000	
2	キヨヒメ	15	13,490,000	
3	ダイニメイハウザン	21	10,833,000	
4	キンボシ	19	10,305,000	
5	ダイケツ	20	9,507,000	
6	グランプリ	22	8,773,000	
7	キヨウエイ	6	8,745,000	
8	タイショオ	19	7,375,000	
9	スイショウ	23	7,225,000	
10	アイスリヤル	23	6,168,000	
11	キンバイ	21	6,007,000	
12	ミスアカイサワ	20	5,978,000	
13	イシカリハヤテ	20	5,900,000	
14	テツワカ	25	5,385,000	
15	タカラテル	18	5,342,000	
16	ジャスマン	22	5,312,000	
17	トシクイーン	17	5,228,000	
18	シンナイ	24	5,118,000	
19	ツガルフジ	17	5,097,000	
20	ミスタカヒメ	23	4,812,000	

昭和54年度引退馬(表彰馬)

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	1,223,000
48	595,000
49	2,565,000
50	3,536,000
51	7,045,000
52	2,575,000
53	6,815,000
54	5,900,000
計	30,254,000



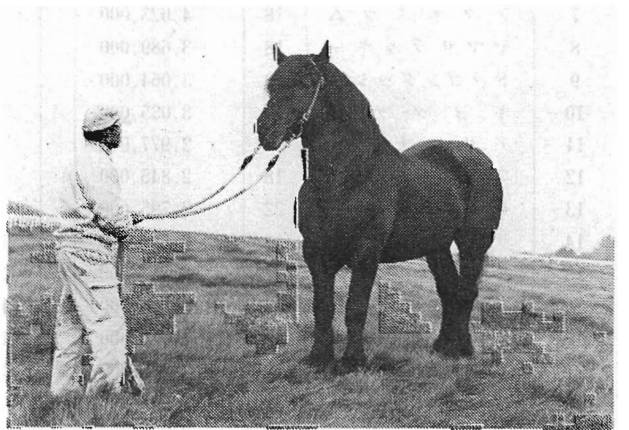
イシカリハヤテ号



カグラフジ号

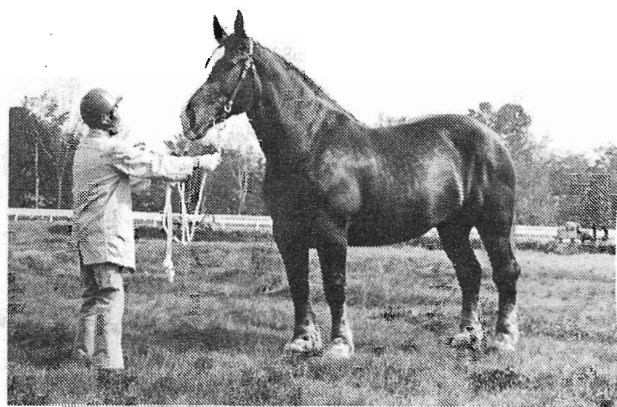
年 度	獲得賞金 (単位円)
47	206,500
48	616,000
49	627,000
50	454,000
51	1,229,000
52	1,030,000
53	916,000
54	1,347,000
計	6,425,500

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	—
48	—
49	749,000
50	1,487,000
51	4,175,000
52	5,905,000
53	6,970,000
54	700,000
計	19,986,000

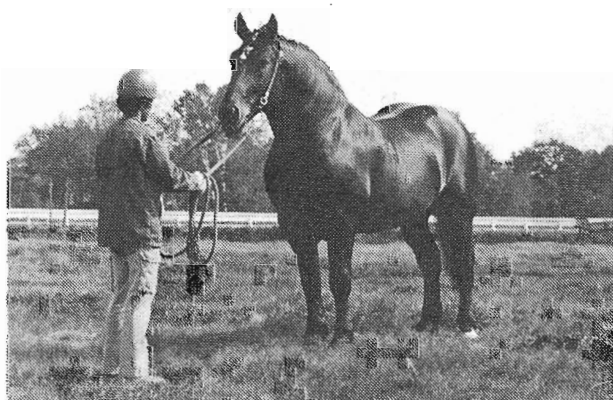


シンザンオー号

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	177,000
48	230,000
49	513,000
50	451,000
51	506,000
52	1,077,500
53	935,000
54	1,629,000
計	5,518,500



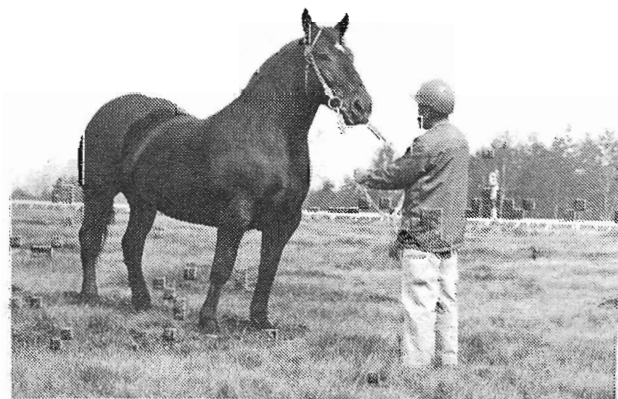
タイヨウヒメ号



タケコマ号

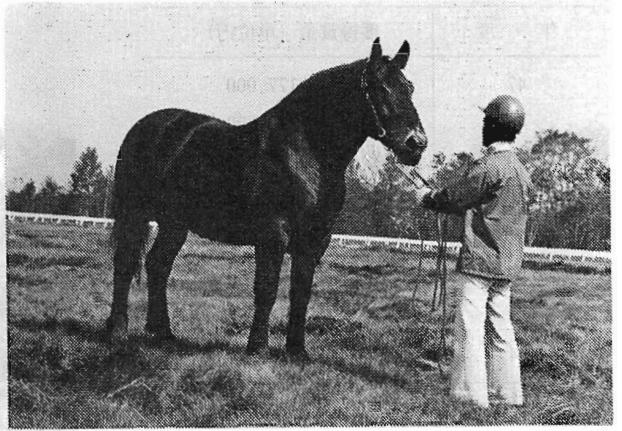
年 度	獲得賞金 (単位円)
47	130,000
48	218,000
49	1,828,000
50	4,275,000
51	1,200,000
52	2,270,000
53	1,418,000
54	4,678,000
計	16,017,000

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	—
48	1,278,000
49	3,604,000
50	4,390,000
51	4,425,000
52	2,930,000
53	5,388,000
54	10,833,000
計	32,848,000

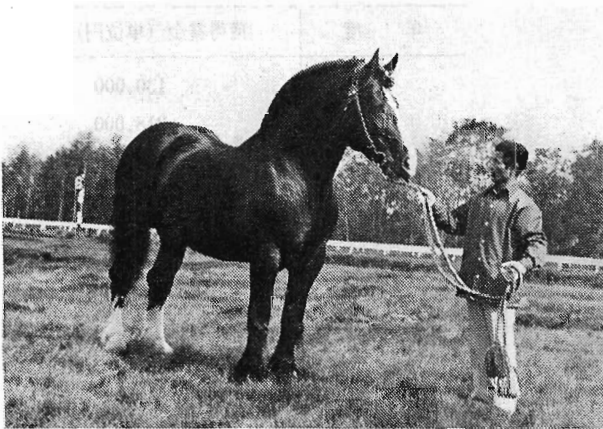


ダイニメイハウザン号

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	582,000
48	525,000
49	1,401,000
50	1,155,000
51	1,832,000
52	1,363,000
53	799,000
54	697,000
計	8,354,000



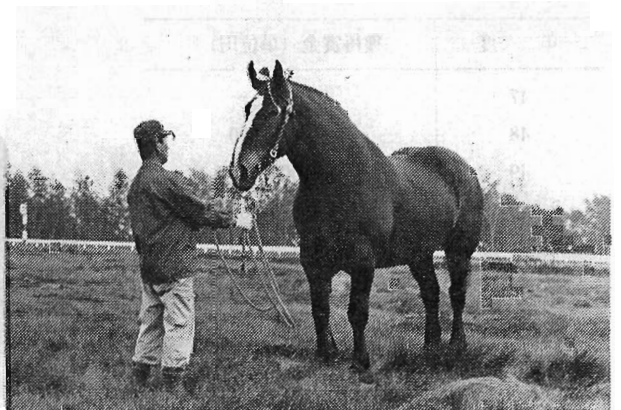
トウハク号



トヨカツ号

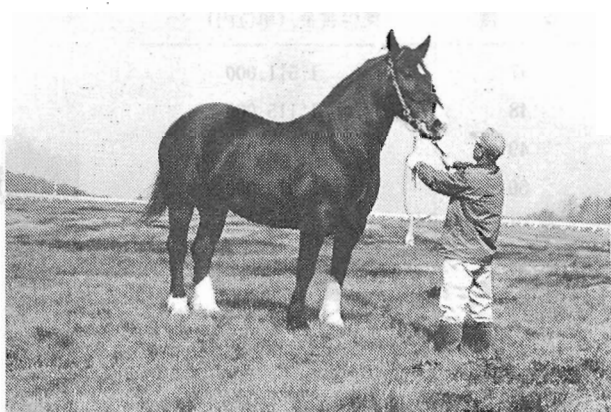
年 度	獲得賞金 (単位円)
47	123,000
48	263,000
49	1,275,000
50	574,500
51	1,866,000
52	1,647,000
53	2,240,000
54	161,000
計	8,149,500

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	—
48	1,092,000
49	3,079,000
50	5,772,000
51	8,020,000
52	9,020,000
53	6,772,000
54	2,880,000
計	36,635,000

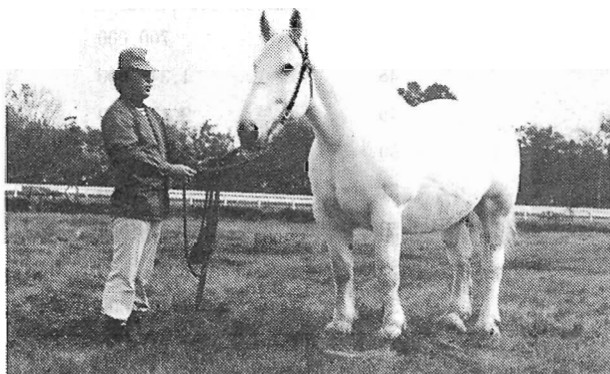


ハヤツネ号

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	308,000
48	994,000
49	1,419,000
50	4,800,000
51	2,796,000
52	3,860,000
53	300,000
54	1,368,000
計	15,845,000



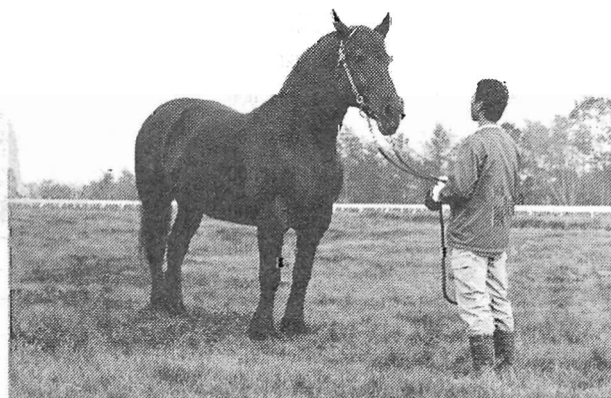
ヒカルカゲ号



ヒラマザン号

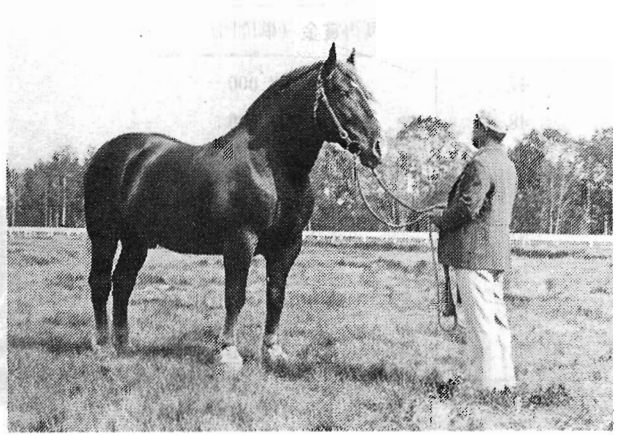
年 度	獲得賞金 (単位円)
47	290,000
48	891,000
49	1,438,000
50	1,700,000
51	1,339,000
52	1,196,000
53	1,086,000
54	2,066,000
計	10,006,000

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	245,000
48	573,000
49	1,258,000
50	2,080,000
51	1,880,000
52	4,080,000
53	4,434,000
54	2,993,000
計	17,543,000

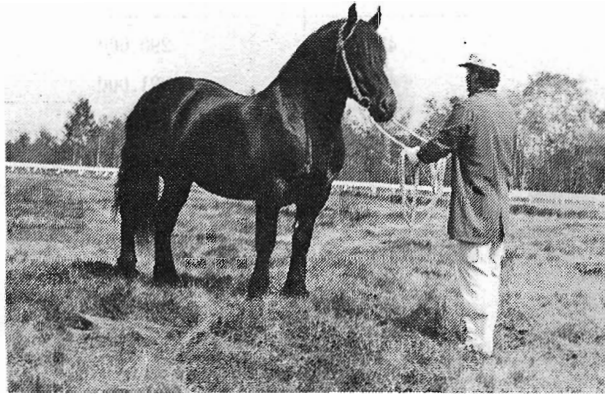


ミスオサシマ号

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	1,511,000
48	1,115,000
49	4,078,000
50	5,016,000
51	1,958,000
52	500,000
53	332,000
54	1,149,000
計	15,659,000



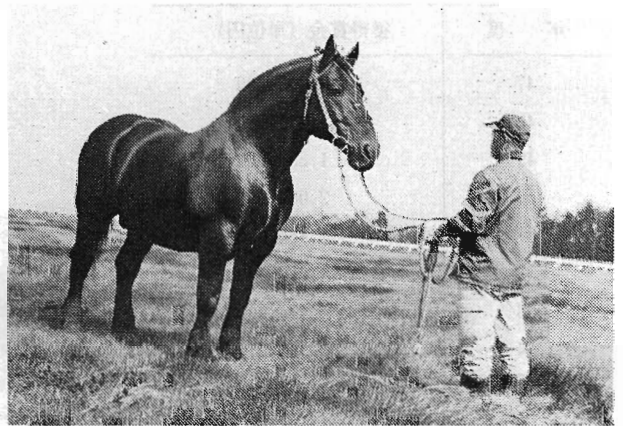
メジロアサヒ号



ヤマトフジ号

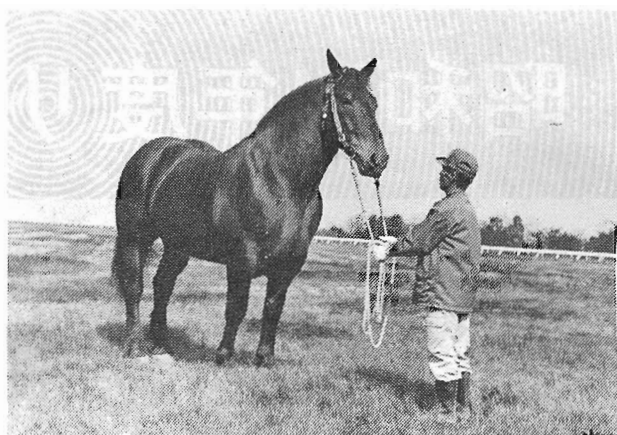
年 度	獲得賞金 (単位円)
47	700,000
48	1,347,000
49	2,430,000
50	3,820,000
51	2,140,000
52	2,318,000
53	2,774,000
54	2,468,000
計	17,997,000

年 度	獲得賞金 (単位円)
47	632,000
48	1,234,000
49	2,068,000
50	3,547,000
51	2,769,000
52	3,940,000
53	2,198,000
54	2,380,000
計	18,768,000



ロ ン ジ 号

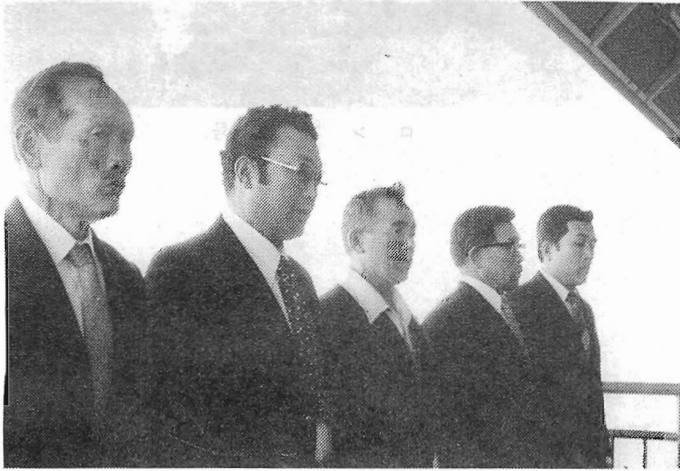
年 度	獲得賞金 (単位円)
47	535,000
48	454,000
49	542,000
50	1,440,000
51	1,140,000
52	1,130,000
53	638,000
54	1,035,000
計	6,914,000



ロンプウ号

昭和54年度リーディング

リーディングトレーナー



順位	氏名	勝率
1	光富駿一	0.200
2	松原仁三郎	0.168
3	谷内二三松	0.158
4	林正男	0.152
5	野々宮重樹	0.150

野々宮調教師
林内調教師
谷原調教師
松富調教師
光調教師

リーディングジョッキー



順位	氏名	合計点
1	金山明彦	545
2	工藤正男	501
3	久田守	380
4	大友栄司	369
5	水上勲	348

久田騎手
大友騎手
水上騎手
金山騎手
工藤騎手

昭和55年度市営競馬日程表(案)

岩見沢
 旭川
 北見
 帯広

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	①																														
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	

昭和55年度道営競馬日程表(案)

帯広
 旭川
 岩見沢
 札幌
 函館

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	

昭和55年 3月

札幌市北区北10条西4丁目畜産会館2階 (TEL) 代表742-5345